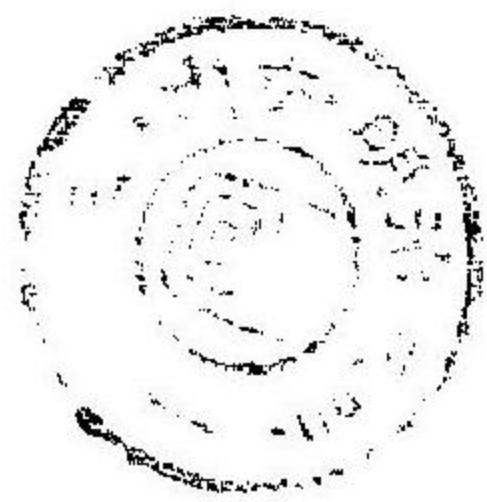


第二師管軍法會議理事  
東北法律學校講師  
法學士石田氏幹先生著

最新  
刑法要義  
總則  
之部  
上卷

附、大審院判決例、法曹會決議、諸學說摘要、刑法改正案同理由書、  
其他關係諸法令



利刑

利刑

尚

如

松岳

松岳

松岳

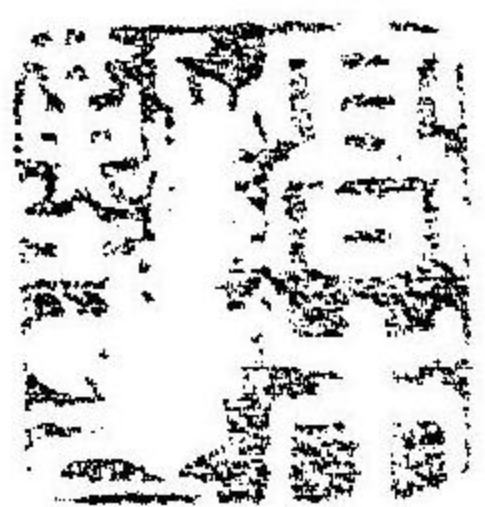
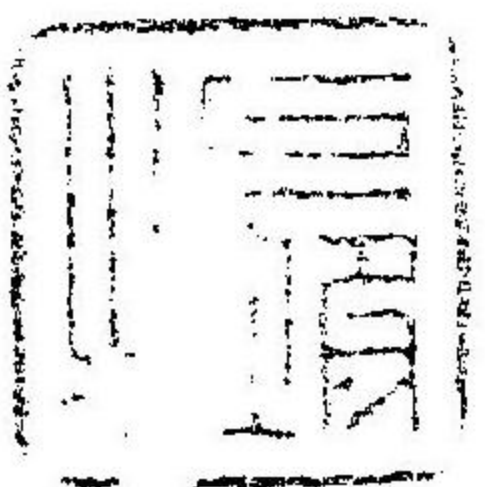
一  
平  
情



通  
記

辛丑七月

馬廷勳



序

維新以降，國運之進步，與人文之發達，法律為日新月進，而乎有窮焉，不可及之勢矣。今也，各法之法，與樂然備具，講修法律之徒，庶然自足。蓋雖時運之所使，然由國家自任之，必要以致其勞量，偶然設法以自。

序

維新以降因國運之進步與人文之發達法律者日新月進駸々乎有駟馬不可及之勢矣今也各種之法典粲然備具講修法學之徒蔚然日進蓋雖時運之所使然由國家自然之必要以致其勢豈偶然哉是以每一

法令之出解釋立法之要旨說明法  
理之精微之書續々刊行汗牛充棟  
不啻其啓發後進蓋不尠少也雖然  
法者死物也施諸實際而能收其效  
果一存於運用之妙故苟講法者先  
可明立法之要旨究法理之精微固  
雖不俟論又併不可不講運用之法

也頃者理事法學士石田氏幹君著  
刑法要義來徵序余々受而閱之擊  
節嘆曰君學識該博事務精練故能  
明立法之要旨詳法理之精微論理  
明晰意義精確而不唯得其要而已  
又引用大審院判例及法曹會決議  
等以併示運用之法蓋欲使讀斯書

者法理與運用而了解之其用意之  
周到有與他書不可同視者其啓發  
後進之效豈尠少也哉因不顧不文  
辨一言於卷端

明治三十四年九月

正五位勳四等川目亨一撰

凡例

- 一 本書ハ刑法ノ意義ヲ明ニスルヲ以テ目的ト爲セル故ニ立法論ニ涉  
リ又外國法ト比較シテ之ヲ論スルカ如キハ本書ノ主眼トスル所ニ  
アラズ但刑法改正案同理由書等ヲ各卷末ニ網羅シタルハ解釋上ノ  
參考ニ供センカ爲メナリ
- 二 本書ハ高尚ノ理論ニ奔ラス專ラ實用的解釋ヲ主トスルヲ以テ外國  
ノ學說ヲ引用セス但大審院判決例及ヒ法曹會決議等ハ大ニ參考ニ  
供スヘキモノアルヲ以テ各章上欄ニ採録ス
- 三 本書括弧中ノ數字ハ法令ノ個條ヲ示シタルモノニシテ上ニ其所屬  
法令ヲ掲ケサルハ刑法ノ個條ナリ又法令ヲ掲ケタル内「憲」ハ憲法  
「刑訴」ハ刑事訴訟法「刑、附」ハ刑法附則「監」ハ監獄則「監、施、細」

ハ監獄則施行細則ノ各略語ナリ

明治三十四年八月

著者識

二

最新刑法要義上卷目次

自緒論頁數  
至第三章

緒論

第一編 總則

一七

第一章 刑法例

七

第二章 刑例

一三三

第一節 刑名

一三三

第二節 主刑處分

一三一

第三節 附加刑處分

一五〇

第四節 徵償處分

一七四

第五節 刑期計算

一七九

第六節 假出獄

一九〇

一



第七節	期滿免除	九三
第八節	復權	一〇五
第三章	加減例	一〇九
第四章	不論罪及減輕	一
	自第四章頁數 至第十章頁數	
第一節	不論罪及減輕	一
第二節	自首減輕	二三
第三節	酌量減輕	二九
第五章	再犯加重	三三
第六章	加減順序	四三
第七章	數罪俱發	四九
第八章	數人共犯	六一
第一節	正犯	六三

第二節	從犯	七四
第九章	未遂犯罪	七九
第十章	親屬例	九〇

大審院判決例、法曹會決議及諸學說ハ同上ノ頁數ニ依ル

附 錄

附錄頁數

刑法改正案同理由書	一
刑法附則	一〇五
監獄則	一二一

最新刑法要義上卷

法學士石田氏幹著

緒論

凡ツ事アレハ則アリ物アレハ法アリ之ヲ宇宙ノ事物ニ徴スルニ皆法則ニ支配セラレサルモノナシ夜間仰ヒテ天空ヲ觀ルニ月輪ヲ始メ諸星雜然トシテ其數限リナキカ如シト雖モ其間自ラ法則ノ存スルアリテ各軌道ヲ守ル爲メ萬古變易スルヲナシ又晝間俯シテ大地ヲ視ルニ山川海灣ヲ始メ草木禽獸虫魚ニ至ルマテ錯雜混淆其亂狀形容シ難シト雖モ亦其間自ラ法則ノ存スルアリテ各其分ヲ守ル爲メ山壑ニハ草木繁殖シ禽獸生息シ海川ニハ魚介游泳シ龍鱷潛伏スルヲ曾テ或ハ變ハルナシ若シ夫レ時トシテ彗星ノ垂下シ山顛ノ噴火スル如キハ法則ナキノ致ス所ノ如ク見ユルト雖モ是レ決シテ然ルニアラス其垂下ノ如キ又其噴火ノ如キ故ナクシテ垂下スルニアラス又故ナクシテ噴火スルニアラス實ニ其然ル所以ノ事由法則アリテ其顯象ヲ來タスナリ

人事ノ亦然リ人ノ社會ニ生存スルヤ  
リ又其守ルヘキ法アリ依ルヘキ則アリ  
ノ欲セサル所ヲ人ニ施ス勿レトハ前者ノ要則ニシテ權利ヲ執行シ義務ヲ履行セヨトハ後  
者ノ要則ナリ之ヲ換言スレハ前者ハ善ヲ務メテ己レヲ修ムルノ要則ニシテ之ニ違フモノ  
ニハ自然ノ責罰アルノミナレバ後者ハ惡ヲ戒メテ他ヲ害セサラシムルノ要則ニシテ之ニ  
背クモノニハ強制的ニ刑罰ヲ加ヘ又ハ賠償ノ制裁ヲ付ス尙ホ其區別ノ如キハ他日之ヲ詳  
論スヘシト雖モ前者ハ無形即チ人ノ意志ノミヲ可否スヘキ場合アレバ後者ハ有形即チ人  
ノ行爲ヲ俟テ問擬ス而シテ余輩ノ論究セントスルハ前者ニ在ラスシテ後者ニ在リ  
前述ノ如ク法律ノ要旨ハ權利ヲ執行シ義務ヲ履行セシムルニ在レバ他方ヨリ之ヲ論スレ  
ハ法律ハ國家ノ主權者即チ最高權者カ命令シ又ハ禁止スル行爲ニ制裁ヲ付シ公力ヲ以テ  
其執行ヲ促ス法規ニシテ命令スル行爲ハ積極ノ行爲ニ屬シ禁止スル行爲ハ消極ノ行爲ニ  
屬ス而シテ其執行ヲ促スニハ刑罰又ハ賠償ノ制裁ヲ付シ強制的ニ出ルモノナリ  
主權者カ命令シ又ハ禁止スル行爲ヲ文字ヲ以テ規定スルアリ又ハ否ラサルモノアリ文字

ヲ以テ規定スルモノヲ成文法律ト云ヒ否ラサルモノヲ不文法律ト云フ此區別ハ形式上ヨ  
リ爲スト雖モ法律ヲ實質上ヨリ區別スレハ公法及ヒ私法トナル公法トハ公益ニ關スル法  
規ヲ云ヒ私法トハ私益ニ關スル法規ヲ云フ又公法トハ國家ト人民トノ間ノ關係ヲ規定ス  
ルモノヲ云ヒ私法トハ人民相互間ノ關係ヲ規定スルモノヲ云フ又公法トハ權力關係ヲ規  
定スルモノヲ云ヒ私法トハ權利關係ヲ規定スルモノヲ云フ等諸說アリト雖モ皆其說明方  
ヲ異ニスルニ過キスシテ其主タル區別ノ標準ハ以上ノ三說ニ依リ明カナリ  
其他法律ヲ實質上ヨリ區別シテ主法及ヒ助法トナス等種々ノ區別ヲ爲ス者アリト雖モ法  
律ノ區別ハ之ヲ法學通論ニ讓リ今茲ニ之ヲ詳說セス然リ而シテ上來法律ト稱セシ者ハ廣  
ク各國ニ於ケル法律全般ヲ指ス者ニシテ我國法ニ於ケル法律ノ稱ハ帝國憲法ニ規定シア  
ル如ク帝國議會ノ協賛ヲ經ル等或ル一定ノ方式ヲ備ヘタル法規ヲ云フヲ以テ茲ニ付言ス。  
刑法ハ國家ノ刑罰權ヲ行フノ法規ナリ即チ犯罪及ヒ之ニ適用スル刑罰ヲ定ムルモノニシ  
テ主權者カ強制的ニ之カ執行ヲ促スモノナレハ公法ニ屬スル法律ト云フヲ得ヘク又我刑  
法ハ文字ヲ以テ之ヲ規定シタルモノナレハ成文法タルヤ論ヲ俟タズ茲ニ所謂犯罪トハ國

家カ法律ヲ以テ禁止又ハ命令シタルヲ行ヒ又ハ行ハサル所爲ニシテ其之ヲ犯罪トスルハ主トシテ背徳ト加害ノ二點ニ在リ又刑罰トハ公權ニ由リ犯罪人ニ科スル法律ノ制裁即チ苦痛ヲ云フ

刑罰權ノ基礎ハ何レニアリヤトノ問題ハ古來之カ答解ヲ試ミル學說百出セリ今其大略ヲ示セハ

復讐主義 此說ニ依レハ往古國ニ主權ナク人民保護ノ機關ナキヲ以テ各人親ラ刑罰ヲ行ヒタリ又往古君主アリシ時ト雖モ全ク復讐ノ意ヲ以テ刑罰ヲ行ヒタリ是レ刑罰權ノ基礎ハ復讐主義ニ在ルナリトナスモノナリ此說ハ古代ニ行ハレタルモノナリト雖モ敢テ以テ我刑法ノ主義ト爲スヲ得ス夫レ復讐ハ野蠻未開國ノ遺習ニシテ全ク感情ニ基クモノナレハ社會ノ安寧秩序ヲ維持スル我刑法ノ主義ト爲スニ足ラズ

民約主義 此說ニ依レハ刑罰權ハ吾人社會公衆ノ契約ニ基クトナスモノナリ凡ソ吾人ハ生レナガラニシテ各自防衛權ヲ有ス而シテ社會トシテ團結スルニ當リ契約ニヨリ其防衛權ノ一部ヲ社會ニ讓與シタルモノナルヲ以テ畢竟社會ノ刑罰權ハ契約上吾人ヨリ受タル

四

防衛權ノ實行ニシテ吾人ハ法律ノ保護ヲ受クルカ故ニ若シ之ニ違背スルニ於テハ其保護ノ償トシテ生命自由等ヲ擧テ社會ノ處分ニ委スヘキヲ約シタルモノナリト云フニアリ此說ハ社會刑罰權發生ノ事實ニ背キタル立說ナルトハ歴史ニ徴シテ明白ナレハ我刑法ノ主義ト爲スニ足ラサルハ論ヲ俟タズ

純正主義 此說ニ依レハ純然タル正義即チ善惡應報ノ理ニ基キ罪惡必罰ヲ主張スルモノナリ然レモ此說ハ背徳ニ偏セリ

結果主義 此說ニ依レハ國家ノ生存上苟モ加害ノ所爲ハ悉ク刑罰ヲ加フヘシト主張スルモノナリ然レモ此說ハ加害ニ偏セリ

折衷主義 此說ニ依レハ或ル所爲カ社會ニ害毒ヲ生スルモノト雖モ之カ心裏ニ立入り道徳ヲ破レル邪念ナケレハ罪ト爲サス又邪念アツテ道徳ニ反スルモ之ニ因テ外部ノ働作即チ所爲トナリ爲メニ社會ニ害毒ヲ生セサレハ罪ト爲サスト云フニ在リテ背徳及ヒ加害ノ二者即純正主義及ヒ結果主義ヲ折衷シタルモノナリ我刑法ハ折衷主義ヲ採用シタルモノニシテ方今多數ノ學說モ亦之ニ一致セリ其起草者タルポアソナード博士モ其草案註釋ニ

五

我刑法ノ折衷主義ニ據リタルコトヲ明言セルノミナラス刑法全篇ヲ通覽スレハ總テ其然ルヲ知ルヘキナリ而シテ其各主義ノ如何ヲ知ルハ刑法研究上又ハ實地應用上大ニ必要アルヲ以テ茲ニ其主要ナルモノヲ掲ケタリ尙ホ其他承認主義、公利主義、恐喝主義等ノ說アリト雖モ總テ之ヲ省略ス

近來刑法學モ諸般ノ實質學即チ人類學生物學ヲ始メ社會學心理學等ノ進歩ニ伴ヒ同シク進歩シ犯罪ハ自由意思ノ發動ニシテ刑罰ハ其天賦ノ特性ヲ濫用シタル自然ノ結果ニ外ナラズトノ往古ノ學說モ其存在ヲ許サルニ至リ其研究方法ヲ異ニスルノ種々ノ學派ヲ生セリ即チ刑事人類學派刑事社會學派比較刑法學派沿革刑法學派等是レナリ然レモ是等高尚ナル研究ハ刑法ノ原理ヲ探究スル刑事法理學ニ屬スルヲ以テ茲ニ詳說セス因ニ刑事トハ犯罪及ヒ之ニ適用スル刑罰ヲ定メタル規則即チ刑法、刑法ヲ適用センカ爲メ設ケタル裁判權及ヒ其權限ヲ定メタル規則即チ裁判所構成法、犯罪ヲ證明シ其處分ヲナスヘキ手續ヲ定メタル規則即チ刑事訴訟法ヲ總稱ス故ニ刑法學ハ刑事學ノ一部タルニ過キス然リ而シテ余輩ノ研究セントスル所ハ主トシテ我現行刑法ニ在リ

### 第一編 總則

#### 第一章 法例

總則トハ犯罪及ヒ刑罰ニ關スル總テノ法律規則ヲ支配スル定則ニシテ法例トハ法律ヲ適用スルニ付キ定メタル例規ヲ云フ

第一條 凡法律ニ於テ罰スベキ罪別テ三種ト爲ス

一、重罪

二、輕罪

三、違警罪

本條ハ法律ニ於テ罰スベキ所爲ヲ重罪、輕罪、違警罪トスト條文アルガ如ク解釋スルヲ要ス何トナレバ當時ノ立法者ハ立法ノ智識尙ホ幼稚ニシテ往々學校教科書体ノ如ク或ハ法語ニ定義ヲ下シ或ハ形容詞副詞等ヲ用ルコアリ本條凡ノ文字亦此類ナリ此ノ如キ副詞

一 法律ノ明文以外ニ出テ事ヲ處斷スルヲ得ス。法斷  
ニ出テ事ヲ處斷スルヲ得ス。法斷  
律ノ禁ヲ犯スルヲ得ス。法斷  
容易ナルヲシムルヲ得ス。法斷  
モノナルヲシムルヲ得ス。法斷  
セサル所爲ハ之ヲ得ス。法斷  
ヲ罪トスルヲ得ス。法斷  
ヲ擴充シテ人ヲ得ス。法斷  
罰スルヲ得ズ。法斷  
（十五年一月大  
審院判決）  
一 贓物賣買其他ノ  
牙保ヲナスモ之  
ヲ遂ゲ得ザルモ  
ノヲ遂ゲ得ザルモ  
未遂犯ヲ罰スル  
テ之ヲ罰セズ以  
上（十九年五月同

一 賄賂其他ノ方法  
ヲ用ヒズンテ單  
ニ偽證ヲ囑託シ  
タルモ之ヲ罰セ  
ズ  
(二十年二月東  
京控訴院判決)  
一 贋造ノ舊貨幣タ  
ルヲ知テ行使シ  
タルモ之ヲ罰セ  
ズ  
(廿一年二月大  
審院判決)  
一 偽造證書ノ謄本  
ヲ行使スルモ之  
ヲ罰セズ  
(廿一年十一月同  
上)  
一 債主ノ手ニ渡サ  
ル證書ヲ窃取  
シタルモ之ヲ罰  
セズ  
(廿年五月同上)  
一 盜贓タルヲ知テ  
單ニ途上運搬シ

ヲ用キタリトテ條文ノ意味ニ何等ノ變更ヲ來タスヲナケレバ斯ル贅字ヲ用ザル方可ナル  
ノミナラズ反ツテ此等贅字ヲ用キテ意味ヲ曖昧ニ陥ラシムルコトアレバナリ又法律ニ於テ  
罰スヘキ罪ト云ヘハ法律ニ於テ罰セザル罪アルヘキガ如ク思ハル、ナリ然レモ法律ニ於  
テ罰セザルモノハ刑法上ノ罪ニアラズ即チ法律ニ於テ罰セザル罪アルヘキ等ナケレハ條  
文ノ用字適當ナラズ故ニ上述ノ如ク法律ニ於テ罰スヘキ所爲トシ解釋スヘキナリ  
扱テ本條ニ所謂法律ノ意義ハ已ニ緒論ニ説述シタルヲ以テ茲ニ再タビ贅言セスト雖モ尙  
ホ一言スヘキハ本條ニ所謂法律トハ此刑法ノミヲ指スモノニアラズシテ特別法即チ陸海  
軍刑法等ノ諸法律ヲ指スモノナリ又罰ストハ刑罰ヲ科スルヲ云フ而シテ本條全体ノ意義  
ハ諸法律ニ於テ罰スベキ所爲即チ犯罪ヲ重罪輕罪違警罪トスト云フニアリ  
犯罪ノ意義モ已ニ緒論ニ説述シタルヲ以テ茲ニ再タヒセズト雖モ犯罪ニ主体アリ客體ア  
リ手段アルヲ辨ゼザルベカラズ犯罪ノ主体トハ罪ヲ施ス者ヲ云ヒ犯罪ノ客體トハ犯サレ  
ル者ヲ云ヒ犯罪ノ手段トハ犯ス方法ヲ云フ今夫レ甲ガ杖ヲ以テ乙ヲ毆打スルガ如キハ毆  
打犯ニシテ甲ハ犯スモノナルヲ以テ毆打犯罪ノ主体乙ハ犯サレル者ナルヲ以テ毆打犯罪

タルノミノ者ハ  
之ヲ罰セズ  
(廿二年十二月  
同上)  
一 入質シタル自己  
ノ所有物ヲ質取  
ルモ之ヲ罰セズ  
(廿年二月東京  
控訴院判決)  
一 大審院ハ之  
ニ反ス  
一 賭博犯ニ對シ  
且刑法上ノ處分  
ヲ停止シタルヲ  
以テ其停止ヲ解  
キタル布告アリ  
タルヨリ告知日  
數ヲ經過セシ後  
ニ非ラザレバ賭  
博犯ヲ刑法上ノ  
犯罪トシテ之ヲ  
罰スルコト得ズ  
(廿二年十月大  
審院判決)

ノ客體杖ヲ以テスルハ毆打犯罪ノ手段タルナリ  
犯罪ノ主体ト爲リ得ル者ハ有形ノ人類ニ限ルナリ故ニ牛馬ノ人ヲ蹴リ創傷スルガ如キ岩  
石ノ墜落シテ人ヲ壓殺スルガ如キ牛馬及ヒ岩石ハ犯罪ノ主体ト爲リ得ザルナリ又法人ノ  
如キ無形人ハ唯法律上許サレタル目的外ニハ存在スルコト能ハザルヲ以テ犯罪ノ主体ト爲  
リ得ザルナリ然リト雖モ法人ノ代表者ガ罪ヲ犯スガ如キ又法人ヲ組織スル人員ガ罪ヲ犯  
スガ如キハ犯罪ノ主体タルコトハ勿論ナルヲ以テ皆之ヲ罰スベキナリ  
犯罪ノ客體ト爲リ得ル者ハ有形ノ人類ニ限ラズ法人即チ無形人ノ如キモ亦其客體ト爲リ  
得ルナリ何トナレバ法人ノ如キモ有形ノ人類ノ如ク財產權ヲ有スルガ故ニ之ヲ犯サル、  
ニ因リ犯罪ノ客體ト爲リ得ヘシ  
犯罪ノ手段ト爲リ得ルモノハ世上諸般ノ物件皆其手段ト爲リ得ルハ論ヲ俟タスト雖モ悉  
ク其使用ニ依ルハ亦説明ヲ要セズ  
犯罪ノ區別種々アリト雖モ今其主要ナルモノヲ摘示スレバ  
一 犯罪ニ國事犯ト常事犯ト區別アリ國事犯トハ其名ノ示ス如ク國事ニ關スル犯罪ニシ

賭博犯ニ對スル懲罰處  
行政上ノ懲罰處  
分ヲ以テ刑法ノ  
刑ト輕重ヲ比較  
シテ處分スヘキ  
モノニアラズ  
(廿二年十月同  
上)  
一 舊證券印稅規則  
ニ於テ金銀判取  
帳ノ附以上ハ  
定メサルハ  
其印紙ノ附込  
額ニ滿ル迄ハ  
年迄之ヲ使用  
ルモ罰スベキ  
ノニアラズ  
(二十年四月同  
上)  
一 新舊煙草稅則  
比照シテ新法  
輕キニ從ヒ處  
刑シガラ其附  
刑迄ヲ科シ其  
罪ニ係ル煙草  
ヲ

沒收シタルハ不  
法ナリ  
(廿二年五月同  
上)  
一 新舊法ヲ比照シ  
テ處斷スベキ  
罪ニシテ數罪  
發シタル時ハ  
ツ同性質ノ犯  
罪ニ付一個毎  
舊法ヲ比照シ  
輕キニ從ヒ而  
テ後チ數罪俱  
例ニ照シ一ノ  
キ刑トスベキ  
テ處斷スベキ  
ノトス  
(廿二年十月同  
上)  
一 再犯加重例ハ初  
犯再犯共ニ新  
ニ依リ處斷セ  
レタル場合ニ  
用スルモノニ  
テ初犯舊法ニ  
依

- 一 刑法第二編第二章内乱及ヒ外患ニ關スル罪ノ如キヲ云ヒ常事犯トハ軍事犯ニアラサル普通ノ犯罪ヲ云フ國事犯ハ其刑ヲ異ニシ其裁判管轄ヲ異ニス
- 二 犯罪ニ特別犯ト普通犯ノ區別アリ特別犯トハ特別法タル陸海軍刑法其他新聞出版條例等ニ關スル犯罪ニシテ其最重要ナルハ軍事犯ナリ普通犯トハ特別犯ニアラザル犯罪ナリ特別犯タル軍事犯ノ如キハ管轄裁判所ヲ異ニシ又或特別犯ハ刑法ノ總則ニ依ラザルモノアリ
- 三 犯罪ニ有意犯ト無意犯アリ有意犯ハ有意ヲ以テ犯罪成立ノ要素トナスモノヲ云ヒ無意犯ハ犯意ナシト雖モ所爲ニ付テ罰スルモノヲ云フ即チ過失殺傷ノ如キ是ナリ
- 四 犯罪ニ單行犯ト慣行犯アリ唯一回事ヲ行フタルノミヲ以テ罪ヲ成立スルモノハ單行犯ニシテ數回同一ノ事ヲ慣行シタルニ因リ罪ヲ成立スルモノハ慣行犯ナリ無官許ニテ醫業ヲ爲スノ罪ノ如キハ後者ニ屬スルモノト謂フベシ
- 五 犯罪ニ現行犯ト非現行犯アリ現行犯トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ云ヒ其他準現行犯アリテ刑事訴訟法第五十六條第五十七條ハ犯人トシテ一

- 六 人又ハ數人ニ追呼セラレ、キ等ノ場合ヲ現行犯ニ準セシ其然ラザルモノナレバ非現行犯ナリ現行犯ノ場合ハ令狀ヲ待タズシテ司法警察官ハ犯人ヲ逮捕シ得ル等治罪ノ方法ヲ迅速ニセリ
- 七 犯罪ニ附帶犯ト非附帶犯アリ附帶犯ハ互ニ密接ノ關係ヲ有スルモノ即チ同時同所ニ於テ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタル場合ニ於ケル犯罪等はナリ其然ラザルモノハ非附帶犯タリ(刑、訴第百八十五條)附帶犯ハ檢事ノ起訴ヲ待タズシテ本案ヲ受理シタル裁判所直ニ之ヲ裁判スルヲ得ベシ
- 八 犯罪ニ即成犯ト繼續犯アリ即成犯トハ即時ニ罪ヲ成スモノニシテ繼續犯トハ久シキ時間ニ亘リ一罪ヲ成スモノナリ即チ犯罪ノ執行ヲ繼續スルモノニシテ制縛監禁罪ノ如キハ後者ニ屬スルモノト謂フベシ
- 九 繼續犯ニ似テ非ナルモノヲ連續犯トス繼續犯ハ數次ノ所爲ヲ併セテ一罪トナスモ連續犯ニ至テハ全ク分別スベキ同様ノ所爲ガ一犯意ヲ以テ數次行ハル、モノナリ即チ貨幣偽造行使罪ノ如キ是ナリ故ニ繼續犯ハ外形上ノ繼續アリテ連續犯ハ外形上ノ繼

ルリ處罰セラレタ  
ル場合ニハ之ヲ  
適用スルヲ得ス  
(二十年九月同  
上)

一 犯罪トハ刑罰ノ  
制裁アル法律ニ  
依リ豫メ禁制又  
ハ命令シタル事  
項ニ違犯スル行  
爲ヲ云フ  
(古賀學士)

一 社會カ有實ト認  
メ法律ヲ以テ禁  
令命令シタルヲ  
行ヒ又ハ行ハ  
サル所爲即チ是  
レナリ  
(松室氏)

一 社會ノ安寧秩序  
ヲ害スル所爲或  
ハ刑罰ナル制裁  
ヲ有スル法律ノ  
命令又ハ禁令ニ  
反スル所爲ヲ云

フ  
(富井博士)

一 刑罰ト云フ制裁  
ヲ付シタル禁令  
又ハ命令違反ノ  
所爲ニシテ權利  
ノ實行ニアラザ  
ルモノヲ云フ  
(岡田學士)

一 輕キ新法既往ニ  
遡ルハ刑ノ適用  
ニ付テノミ刑ノ  
執行ノ爲メニ設  
ケタルニアラズ  
手續法ニ付テハ  
新舊法抵觸ノ場  
合起ラズ  
(古賀學士)

續ナシ繼續犯ハ其犯罪時間ノ長短ニヨリ刑ノ輕重アリ又繼續犯及ヒ連續犯ハ公訴ノ  
時効ヲ起算スルニ其所爲ノ終了シタル日ヨリ起算ス

本條罪ヲ分チテ重罪、輕罪、違警罪ト爲スト雖モ其分ツ標準ヲ示サス其標準ハ專ラ次章刑  
罰ノ種類ニヨルベキモノトス學理上ヨリ之ヲ論スレバ刑ハ罪ニヨリ生スルモノナレバ先  
ツ罪ノ性質輕重ヲ區別シ後之ニ適用スル刑名ヲ定ムベキモノナリト雖モ其科スル所ノ刑  
罰ニ從ヒ罪ヲ區別スルカ如キハ實際上甚タ便利ナルヲ以テ立法者ハ實際ノ便利ニ注意シ  
タルモノナリ何トナレバ今夫レ一ノ犯罪アリトセン其性質ヲ研究シテ罪ノ區別ヲ爲スガ  
如キハ頗ル困難ヲ感スル場合アルベシト雖モ其科スル處ノ刑ニ依リ之ヲ區別スルハ實ニ  
容易ナレバナリ即チ其科スル所ノ刑、禁錮以上ナルルハ輕罪又ハ重罪トナリ拘留以下ナ  
ルルハ違警罪トナルガ如シ

罪ヲ三種ニ分ツハ其取扱即チ其處分、管轄、審理ノ手續ヲ異ニスルノ必要アルニ基ク而シ  
テ其取扱ヲ異ニスルハ純理上當然タルノミナラズ之ヲ大ニスレバ國家之ヲ小ニスレバ私  
人ノ利害ニ關係アレバナリ

一 刑法ニ於テハ三種ノ犯罪ニ依リ其處分ヲ異ニセリ即チ主刑(七、八、九條)附加刑(三

十二條以下)再犯加重(九十一條以下)數罪俱發處分(百條百一條)等ニ於テ是ヲ見ル

二 裁判所構成法ニ於テハ裁判所ノ管轄ヲ異ニセリ即チ區裁判所ハ違警罪、二月以下ノ

禁錮、百圓以下ノ罰金ニ該ル輕罪ニ付裁判權アル等是ナリ(裁判所構成法第十六條第

廿七條)

三 刑事訴訟法ニ於テハ其審理ノ手續ヲ異ニセリ即チ公訴ノ時効(刑、訴八條)豫審判事

ノ手續(刑、訴六十七條、六十九條、百廿四條、百四十二條、百六十六條)公判ノ手續(刑

、訴二百卅七條、二百四十條、二百四十一條)等ニ於テ是ヲ見ル

本條ヲ說了スルニ臨ミ刑ヲ加減シタルルハ罪名ハ何レニ從フヘキヤヲ説述シ置クヘシ此  
問題ハ屢々實際ニ起ル問題ニシテ此場合ニハ原則トシテ其加減前ノ刑名ヲ以テ罪名ヲ定  
メザルヘカラズ然レモ其例外ハ第九十九條但書ノ從犯及ビ未遂犯其他各本條ニ記載スル  
特別ノ加重減輕ノ場合はレナリ此場合ニハ其加減シタル所ノ刑名ヲ以テ罪名ヲ定ムヘキ  
ナリ何トナレバ一般即チ總則ノ加重減輕ハ元ト其罪質ヲ變スルモノニアラスシテ特別ノ



加重減輕ハ其加減シタルモノガ本刑トナリテ其罪質ヲ定ムベキモノナレバナリ

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルヲ得ス

本條ハ立法機關ト司法機關ノ職權ヲ限定シ併テ刑法ト民法ト其解釋法ヲ異ニスルヲ示シタルモノナリ夫レ所爲ノ實質ガ犯罪ト爲リ得ルヤ否ヲ限定スルハ立法機關ノ職權ニ屬シ司法機關ハ立法機關ノ或所爲ヲ犯罪ト限定シタル即チ立法シタル範圍内ニ於テノミ有罪無罪ヲ判決スヘキ職權ヲ有スルノミ是レ司法機關ノ活動ハ法律ニ正條アルヲ要スル所以ニシテ正條ナキモノハ其所爲ヲ罰スルヲ能ハザルナリ往古ニ於テハ立法司法ノ兩機關分立セス從テ司法機關ハ立法權ニ立入り隨意ニ刑罰ヲ設定シテ人ヲ罰シ又ハ豫メ禁止命令セスシテ擅ニ人ヲ罰スルノ弊害アリテ吾人ノ生命財産ハ危殆ナリシヲ以テ其弊害ヲ一掃シタルナリ

又本條ハ民法ハ類似ノ正條アレバ其類似法ノ精神ヲ取り其明文ナキ訴件ヲ判斷スルヲ得ルト雖モ刑法ハ法律ニ正條ナキハ假令類似ノ法文アリト雖モ比附援引シテ有罪ノ判決

ヲ下スヲ得ザルヲ示シタルナリ

然リト雖モ刑法ニ於テモ法文ノ解釋ハ自由ニ爲シ得ルヲ以テ立法者ノ精神ヲ考究シ所爲ノ實質同一ニシテ且其理由一層重キ場合ニハ其法文ノ適用ヲ布延スルヲ得ベシ假令ヘバ道路修繕ノ際人力車ノ通行ヲ禁ジタル場合ニ馬車ニテ通行スルガ如キモノニモ禁令ヲ布延スルヲ得ルガ如キ是レナリ是レ其禁令ノ理由一層其力ヲ加フルヲ以テナリ此解釋法ヲ名ケテ況ヤ解釋ト云フ

上來説述シタル理由ニ基キ現行刑法設定ノ際ハ本條ノ規定ヲ要シタルモノナリト雖モ目下已ニ憲法發布セラレ立憲法治國トナリタル以上ハ刑法ニ斯ル正條ヲ置ルノ必要ナキヲ以テ刑法ヲ改正スル曉ニハ右條文ハ加入スベキモノニアラズト信ス(憲法第廿二條、日本臣民ハ法律ニ依ルニ非ズシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルヲナシ第三十七條、凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス)

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ボスヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未ダ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ  
輕キニ從テ處斷ス

前條ハ法律ニ正條ナキ所爲ハ之ヲ罰スルコトヲ得スト規定シ本條ハ法律ニ正條アリト雖モ  
裁判當時ノ法律ヲ以テ其法律以前ノ所爲ヲ罰スベカラザルヲ規定シタルナリ夫レ法律ハ  
既往ニ遡ラズ又法律ハ既得ノ權利ヲ害スベカラズトノ原則ハ文明國ニ行ハル、立法ノ大  
要則ニシテ往古隨意ニ刑罰ヲ設定シテ人ヲ罰スルガ如キ弊風ヲ一洗セン爲メ本條第一項  
ニ之ガ規定ヲ設ケタルナリ

犯罪當時ノ刑ノ外他ノ刑罰ヲ受ケザルノ權又犯罪當時ノ刑ヨリモ更ニ重キ刑ヲ受ケザル  
ノ權モ同ジク是レ既得ノ權利ナリ然リ而シテ立法者カ或所爲ヲ以テ犯罪トシ之ヲ罰スル  
ハ若シ之ヲ罰セザレバ社會ノ安寧ヲ維持スルコト能ハズト認メタルニ由ルナリ即チ之ヲ換  
言スレハ之ヲ罰スルハ社會ノ安寧ヲ維持スルノ必要アルニ基クモノナリ故ニ其必要ナケ  
レバ之ヲ罰セザルノ勝レルニ如カズ是ヲ以テ其之ヲ罰スルノ必要ナク又從前ヨリ重ク之  
ヲ罰スルノ必要ナク且既得ノ權利ヲ害セザルニ於テハ新法ノ輕キ時之ヲ既往ニ遡ラシメ

輕キニ從テ處斷スルハ反テ條理ニ適フタルモノト謂フヘキナリ是レ本條第二項ニ之ガ規  
定ヲ設ケタル所以ナリ

本條ニ所謂頒布トハ單ニ人民ニ公布スルノ謂ニアラズ法律ハ公布式ニヨリ之ヲ告示シ施  
行期限アル者ハ其施行期限ヨリ其施行期限ナク發令ノ日ヨリ實施スルモノハ法例ニ定メ  
タル周知期日ヨリ法律トシテ効力ヲ生スルモノナルヲ以テ茲ニ所謂頒布トハ其効力ヲ生  
スル時期ヲ云フ（法例第一條、法律ハ公布アリタル日ヨリ滿廿日ノ後ニ之ヲ遵守スヘキモ  
ノトス但云々）

又本條ニ所謂判決ヲ經ザルモノトハ確定判決ヲ經ザルモノト解スヘキヤ否ヤ此問題ニ付  
テハ學者往々見解ヲ異ニシ此判決トハ確定判決ヲ云フニアラズトノ議論ヲ噴々スルモノ  
アリト雖モ此見解ハ取ルニ足ラザルナリ如何トナレバ新舊法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス  
ルハ既得權ヲ害セズ又之ヲ重ク罰スルノ必要ナキニ因ルモノナルコトハ上述ノ如クナル故  
ニ判決ノ未ダ確定セザル以上ハ其必要ナキ刑ヲ科セザルノ處斷法ヲ取ラザルベカラザル  
ハ更ニ喋々辨スルヲ待タザレバナリ故ニ裁判未ダ確定セス即チ控訴上告ノ期間中又ハ控

訴上告中ニ在テ新法頒布セラル、ニ於テハ新舊法ヲ比較シ其輕キニ從フベキナリ但シ既ニ裁判確定シタルトキハ一事再理セストノ原則ニ依リ假令其刑ノ執行前又ハ執行中ノ者ト雖モ新舊法ヲ比較シ能ハザルハ論ヲ俟タズ

本條第二項ニ新舊法ヲ比照シ輕キニ從フトアリ若シ夫レ新法ハ長期重クシテ舊法ハ短期重キ場合ニハ何レヲ重シトスルヤ此場合ニハ長期ノ重キ新法ヲ以テ重シトナサレバカラズ何トナレバ犯人ハ裁判官ノ認定ニ依リ其重キ長期ノ刑ヲ科セラル、トアルベケレバナリ

又夫レ法律ノ改正三次若クハ四次五次ニ及ヒ刑ノ變更アリテ二次又ハ三次ノ刑最モ輕キカ又ハ全ク其刑ヲ廢止シタル片ハ孰レノ刑ヲ適用スベキヤ此場合ニハ疑モナク最モ輕キモノヲ適用スベク又其一旦廢止ニ歸シタル片ハ公訴權消滅シタルモノト謂ハザルヲ得サルヲ以テ遂ニ之ヲ罰スルコトヲ得ザルベシ

以上説述シタル所ハ新舊法何レモ其刑名ヲ同フスル場合ニ適用セラルベシト雖モ刑名ヲ變更シタル場合ニハ何レヲ重シトシ何レヲ輕シトモ判定スルコト能ハザルベシ如此場合ニ

ハ明治十四年十二月現行刑法ト舊法タル改定律例トノ輕重比較例ヲ示シテ布告シタルガ如ク更ニ發令ヲ要スベキナリ

刑ノ時効及ヒ刑ノ執行ニ關スル新法ハ既往ニ遡ラシムベキヤ蓋シ刑ノ時効即チ刑ノ期滿免除ハ一定ノ期限ヲ經過シタル片其免除權ヲ得ルモノニシテ其期限ヲ（其間時効ノ中斷アリテ）經過セザル間ハ唯經過後或ハ免刑セラルベシトノ希望ヲ有スルニ過キザレバ之ヲ以テ既得ノ權利ト云フヲ得ス從テ免除權ヲ得サル間ニ在テ時効ノ規定改正セラレタリトテ既得權ヲ害スルモノト云フヲ得ザルヲ以テ新法ニ從フベキナリ

又刑ノ執行ニ關スル新法ハ假令其執行法從前ヨリ嚴格ニナリタリトテ新法ヲ以テ執行スヘキナリ何トナレバ刑ノ執行法規ハ元來行政權ニ屬スルヲ以テ何時ニテモ變更シ得ベク且ツ罪刑ノ性質及ヒ輕重ニ變更ヲ來サレバナリ

又刑事訴訟法若クハ裁判所構成法ノ如キハ或ハ訴訟ノ手續ニ關シ或ハ裁判所ノ組織ニ關スルモノナレハ假令夫等ニ變更ヲ來タシタレバトテ罪刑ノ實質ニ變更ヲ生スルモノニアラズシテ唯罪ノ有無ヲ判定スル手續等ノ變更ニ止マルモノナレバ既得ノ權ヲ害スルモノ

ト謂フヲ得ス由テ新法ニ從フヘキナリ

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論スベキ者ニ適用スル  
コトヲ得ス

陸海軍人軍屬ハ普通人ノ身分ノ外陸海軍々籍ニ於ケル特別ノ身分ヲ有スルモノナレバ其  
行動ハ普通法タル刑法ニ支配セラルルノミナラズ尙又特別法タル軍律ニ支配セラルハナ  
リ然リ而シテ軍律ニ於テ犯罪ト認メタルモノニシテ刑法ニ於テモ亦之ヲ犯罪ト認メタル  
場合ニハ其處分ハ軍律ニ讓リテ此刑法ヲ適用セサルナリ蓋シ軍事ニ在テハ特ニ秩序ヲ正  
シ軍紀ヲ維持スル上ニ於テ一層嚴峻ヲ要スルモノアルヲ以テ此刑法ヲ以テ之ニ制裁ヲ加  
フルモ尙ホ不十分ナレバナリ是レ此刑法ヲ軍事犯ニ適用スルコトヲ得スト規定シタルナリ  
然レモ軍事犯外ノ普通犯ヲ犯セル場合ニ於テハ此刑法ヲ適用スルハ論ヲ俟タサルナリ之  
ヲ要スルニ陸海軍々法會議ノ管轄スル所ハ軍人軍屬ニシテ軍律ヲ犯スモノハ軍律ヲ以テ  
常律ヲ犯スモノハ常律ヲ以テ之ヲ處斷シ一所爲ニシテ軍律常律共ニ之ヲ罰スルモノハ軍  
律ヲ以テ之ヲ處斷スル者ナリ必竟本條ハ特別法ハ普通法ニ優ルト云フ原則ニ基ケルナリ

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法  
律ニ從フ

若シ他ノ法律ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

本條他ノ法律トハ此刑法外ノ法律即チ特別法ヲ指稱ス蓋シ本條ノ規定ハ森林出版新聞紙  
等ノ如キ特別ノモノニ關シテハ普通法ヲ以テ之ヲ保護スルコト能ハサルト認メ特別法ヲ制  
定シ特別ノ禁令制裁ヲ設クヘキコトアルヲ慮リタルモノナリ而シテ本條第一項ハ總則外ノ  
規定ニ關シ第二項ハ總則ニ關スル規定ナリ然リ而シテ第一項ノ規定ハ別ニ説明ヲ要セサ  
ルヘシト雖モ斯ル規定ハ別ニ法文ニ存スルノ必要ナカルヘシ何トナレハ第二條ニ依リ他  
ノ法律ト雖モ同シク法律ナリ其法律ニ正條アレハ其法律ニ從ヒ處斷スルハ論ヲ俟タサル  
ハナリ又第二項ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フトアレハ反對ヨリ論スレハ他  
ノ法律ニ總則ヲ掲ケタルモノハ其總則ニ從フヘキハ論ヲ俟タサルナリ然レモ假令其設ケ  
アルモ此刑法ノ總則ト異ナリタル明文ヲ掲ケタルニアラサレハ尙ホ此刑法ノ總則ニ從フ



ト確定シタル者ニ賦スル法律ノ制裁ナリ

(富井博士)

一 刑罰トハ犯罪者ニ對シ裁判ヲ以テ科スル所ノ苦痛ヲ云フ

(江木博士)

一 刑罰トハ有罪者ニ犯罪ト約合ヲ保ツ所ノ苦痛ナリ

(松室氏)

一 刑罰トハ國家カ有罪ノ確定判決ヲ經タルモノニ加フル苦痛ナリ

(岡田學士)

一 刑罰トハ裁判所ニ於テ犯罪ナリト宣告ヲ受タル者ニ科スル苦痛ナリ

(古賀學士)

由、財産、名譽是レナリ右ノ内生命ハ一旦奪ハルレハ又回復スベカラズ身体ハ毀損スヘカラス財産ニハ貧富ノ區別アリ名譽ニハ貴賤ノ區別アルモノナレハ自由ヲ剝奪スルノ刑ハ是レ最モ刑ノ主義ニ適シタルモノト謂フヲ得ベシ是ヲ以テ我刑法ニハ主トシテ自由刑ヲ採用セリ

刑ヲ大別シテ主刑及ヒ附加刑トス主刑ハ他ノ刑ヲ附科スルト否トニ拘ハラズ獨立シテ科スル處ノ刑ヲ云ヒ附加刑トハ常ニ主刑ニ附屬シテ科スル處ノ刑ヲ云フ蓋シ附加刑ハ主刑ノ不足ヲ補ヒ其効力ヲ全カラシメ且ツ再犯ヲ豫防スルニアリ

主刑ハ常ニ公然宣告スルヲ要ス是レ裁判官ノ私曲ヲ防キ且ツ罪惡必罰ノ例ヲ示シ以テ刑ノ目的ヲ達センガ爲メナリ且ツ主刑ハ主トシテ長短ノ兩期多寡ノ兩數アリテ現ニ其範圍内ニ於テ犯人ニ科スヘキ刑期金額ヲ明示セサルベカラサレバナリ

附加刑ハ時トシテ法律上其主刑ニ附屬シテ當然科セラルヘキモノアリ是ヲ以テ宣告ヲ要セズ剝奪公權、停止公權ノ如キ是レナリ然レモ附加ノ罰金及ヒ輕罪ニ於ル附加ノ監視ノ如キハ長短ノ兩期多寡ノ兩數アルカ故ニ之ヲ宣告セザルヘカラス又沒收ノ如キハ其物件

ヲ指定セサルベカラサレバ是亦宣告ヲ要スヘキナリ是レ法律ニ於テ附加刑ハ宣告スルモノト宣告セサルモノトヲ定メタル所以ナリ

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一、死刑
- 二、無期徒刑
- 三、有期徒刑

- 四、無期流刑
- 五、有期流刑
- 六、重懲役

- 七、輕懲役
- 八、重禁獄
- 九、輕禁獄

本條ハ重罪ノ主刑ヲ規定シタルモノニシテ内死刑外ハ皆自由刑ニ屬ス而シテ自由刑ノ數ハ八個ナリ内第二第四ハ無期ノモノ第三第五乃至第九ハ有期ノモノ第二第三第六第七ハ常事犯罪ニシテ定役アルモノ第四第五第八第九ハ國事犯罪ニシテ定役ナキモノニ屬ス本條別ニ説明スヘキモノナシト雖モ近來死刑廢止論者アリ現ニ又歐州ニ於テハ死刑ヲ廢シタル國アリ而シテ其論旨ヲ摘示スレバ元來死刑ハ野蠻時代ノ遺風ニシテ生命ハ天賦ナリ人擅ニ法律ヲ設ケテ之ヲ奪フノ權能アルモノニアラズ況ンヤ一旦之ヲ奪フハ判決過

誤ニ陥リタルヲ覺ルモ復タ之ヲ回復スルノ道ナシト云フニアルモノ、如シ本問題タル一朝一夕ニ論究スルコトヲ得スト雖モ余ハ死刑尙ホ廢スヘカラストノ反對論ヲ唱フルモノナリ夫レ死刑ハ野蠻時代ニ多ク設ケラレ禁苑ノ魚一尾ヲ窃取シタル犯者ト雖モ死刑ニ處セラレタルモノアリキ然レモ此ノ一事ヲ以テ死刑ハ總テ野蠻時代ノ遺風ナレハ全廢スベシト云フハ速斷ノ論ト云フベシ人ノ生命ヲ奪フ程ノ極惡罪人ハ之ヲ社會ニ存セシムヘカラスアルハ理ノ賭易キ所ニシテ人ノ生命ハ天賦ナルト同時ニ自己ノ生命ヲ防衛スルノ權モ亦天賦ナリト云ハサルベカラズ惡意ニ人ノ生命ヲ奪フト惡意ニ人ノ生命ヲ奪フタルモノ、生命ヲ奪フトハ何レカ正義ニ適フヤ前述ノ如ク自己ヲ防衛スルノ權ハ天賦ニシテ此權ハ一私人ト國家トニ論ナク之ヲ有スルモノナリ人ノ生命ヲ奪フ程ノ極惡罪人ヲ猶ホ艾除スルコトヲ得ストセバ國家ノ秩序安寧ハ如何ニシテ之ヲ保護スルコトヲ得ン又判決ノ過誤ニ陥ルコトアルヲ慮リテ之ヲ廢止スヘシト云フカ如キハ本末ヲ顛倒スルノ論ト云フベシ判決ハ人爲ノ判斷ナレバ死刑ニ限ラズ他ノ自由刑等ニモ過誤ニ陥キルコトナシトセズ而シテ偶々過誤ニ陥キルコトアルヘキヲ以テ刑ヲ廢スヘシトセハ總テノ刑廢スベシト論セサルヲ得サ

ルニ至ルベシ尤モ死刑ハ一旦執行セラレハ復タ之ヲ回復スヘカラスト雖モ是レ等ハ裁判官ニ於テ尤モ注意スヘキ處ニシテ之ヲ以テ死刑廢止論ノ論據トナスニ足ラサルナリ夫レ死刑ハ刑ノ目的ヲ達スルニ適當ナルモノニシテ極惡罪人ニハ斯ル極刑ヲ用キサレハ如何ニシテ再犯ヲ豫防シ且ツ世人ヲ懲戒スルコトヲ得ンヤ之ヲ聞ク歐洲ニ於テ死刑ヲ廢シタル國アリト雖モ極惡罪人ヲ從前ヨリ減セス反テ死刑ヲ廢セサリシ時ヨリ極惡人増加シタレバ復又死刑ヲ設クルノ止ムヲ得サルニ至レリト亦以テ死刑廢止論ノ取ルニ足ラサルヲ見ルベシ

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

- 一、重禁錮
- 二、輕禁錮
- 三、罰金

本條ハ輕罪ノ主刑ヲ規定タルモノニシテ其内第一第二ハ有期自由刑ニシテ第三ハ財産刑ナリ又第一第三ハ常事犯刑ニシテ第二ハ國事犯刑ニ屬ス  
財産刑ハ犯人ノ貧富ニ因リ平等均一ノ主義ニ反キ又犯人ノ身体ニ直接ニ施行セサルニ因

リ懲戒勸化ノ主義ニ適ハス又犯人一家共用ノ財産ニ影響ヲ及ホスヘキニ因リ犯人一身ニ止マルヲ要ストノ主義ニ背クノ傾キアリト雖モ財産刑ハ犯罪ノ大小輕重ニ應シ之ヲ細カニ分割シ得ヘク又容易ニ其執行ヲ中止シ得ヘキモノナレハ此點ニ於テハ良刑ノ主義ニ適シタルモノト謂フヲ得ベシ

○民事擔當人ノ件  
ハ十四年七十三  
號布告治罪法ニ  
於テ民事擔當人  
ト稱スル者ハ  
一未丁年者ノ父若  
クハ母又ハ同居  
ノ親屬ニシテ監  
督ヲナスモノ  
二白痴瘋癲人ノ保  
管者  
三白痴瘋癲人ノ保  
管者  
四雇主但雇人其雇  
主ノ命シタル事  
件ヲ行フ時

罰金ハ刑罰ナルヲ固ヨリ論フ俟タスト雖モ或學者ハ刑法上ノ罰金ハ刑罰タリト雖モ特別法ノ罰金科料等ニハ刑罰ト云フヘカラサルモノアリ即チ公証人規則ノ過料ハ三十圓以上ニ登リ又烟草税法ノ如キハ本人ニ限ラス民事上ノ責任者タル民事擔當人ニ對シテ罰金ヲ宣告スルコトアルヲ以テ是等ハ刑罰ニアラズト主張スト雖モ論者ハ總則第五條第一項ヲ顧ミサルモノニシテ同條同項ハ斯ル特別法ニ過料ノ如キ特別ナル刑名アルコトハ豫メ認識シタルモノナリ且又刑ハ犯人一身ニ止マルヲ要ストノ主義ハ立法上成ルヘタ採用スベキモノナリト雖モ或場合ニハ其主義ニ依ルヘカラサルコトアルヘキヲ以テ是ヲ以テ刑罰ニアラズト謂フヲ得ス

又財産刑ハ其宣告ト共ニ國家カ民法上ノ債權者トナルト云フ學說アリト雖モ此說亦取ル

ニ足ラサルナリ夫レ斯ル場合ニ國家カ果シテ民法上ノ債權者トナルモノトセハ國家ハ犯人死スレハ其相續人ヨリ其金額ヲ請求シ得ヘシト論セサルベカラズ然ルニ刑法附則第二十條ニハ罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未ダ納完セサル前ニ於テ犯人死スルハ之ヲ徵收セストアリ是レ國家ハ何處迄モ刑罰トシテ徵收スルモノニシテ犯人死スルハ之ヲ徵收セサルハ猶ホ他ノ自由刑ニ處セラレタル犯人ニシテ死スル時其殘餘ノ刑ハ之ヲ執行セザルト同一理ニシテ民法上ノ法理ヲ以テ解釋スヘカラス如此罰金ハ何處マテモ刑罰ナレハ民事上ノ損害賠償ハ更ニ犯人ニ於テ負擔セサルヘカラス又其賠償金ハ相續人ニ對シ請求シ得ルハ論ヲ俟タサルナリ

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス

一、拘留 二、科料

本條ハ違警罪ノ主刑ヲ規定シタルモノニシテ第一第二共ニ常事犯罪タルト同時ニ國事犯罪タリ又拘留ハ有期自由刑ニシテ科料ハ財産刑タルハ更ニ説明ヲ要セス



○民法施行法第十  
四條ハ本條第三  
號、第二十五條、  
第三十六條、刑  
法附則第四十一  
條ヲ削除シ刑法  
第五十五條中行  
政ノ處分ヲ以テ  
治産ノ禁ノ幾分  
ヲ免スルコトヲ  
得  
但ノ二十三字ヲ  
削除ス  
又同第六十一條  
ハ刑法附則第五  
十四條乃至第六  
十條ヲ削除ス

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一、剝奪公權 二、停止公權 三、禁治産(削除)

四、監視 五、罰金 六、沒收

本條ハ附加刑ヲ規定シタルモノニシテ其詳述ハ後ニ讓ルヘシト雖モ第一剝奪公權トハ刑  
法第卅一條ノ公權ヲ剝奪スルヲ云フ即チ國民ノ特權官吏トナルノ權等ヲ剝奪スルヲ云ヒ  
第二 停止公權トハ同條ノ公權ヲ有スレモ特定ノ期間之ヲ行フコトヲ停止スルヲ云ヒ  
第三 禁治産トハ犯人自ラ財産ヲ處分スルヲ禁スルヲ云ヒ(是レ財産ヲ自由ニ處分シテ  
快樂ヲ買ヒ以テ刑罰ノ効力ヲ薄カラシメ又ハ刑ノ執行ヲ遁ンコトヲ謀ルコトヲ防ク所以ナ  
リ)

第四 監視トハ主刑執行後犯人ノ舉動ヲ監視スルヲ云ヒ(是レ犯人ヲ戒慎セシメ再犯ヲ  
防ク所以ナリ)

第五 罰金トハ主刑ニ附加シテ犯人ノ財産ヲ徵収スルヲ云ヒ

第六 沒收トハ第四十三條ノ物件ヲ官ニ沒收スルヲ云フナリ

本條附加刑ノ内第一第二第三ハ犯人ノ能力ニ關シ或學者ハ之ヲ名譽刑ト云ヒ第四ハ自由  
ニ關シ自由刑ニ屬シ第五第六ハ財産刑ニ屬ス而シテ第一第三ハ重罪刑ニ附加スルモノ第  
二第五ハ輕罪刑ニ附加スルモノ第四ハ重輕罪ノ刑ニ通用スルモノ第六ハ重輕罪ノ刑及ヒ  
違警罪ノ刑ニ通用スルモノトス

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細則ハ別ニ規則ヲ以  
テ之ヲ定ム

刑ノ執行方法及ヒ犯人檢束方法ノ如キハ細密ナル規定ヲ要スルヲ以テ又此等ノ規定ハ時  
々變更ヲ要スルヲ以テ別ニ規則ヲ設ケル事ト爲シタルナリ刑法附則監獄則監視規則ノ如  
キ是レナリ

### 第二節 主刑處分

前節ニハ刑名即チ主刑及ヒ附加刑ハ如何ナルモノナリヤ即チ其名稱ヲ規定シ本節ニハ主

一死刑ノ執行トハ  
奪命ノ謂ニシテ

奪命ノ方法タル  
絞首其者ヲ稱ス  
ルニアラズ故ニ  
一旦絞首シ其遺  
骸ヲ親屬故舊ニ  
下付シタル後ト  
雖モ若シ蘇生シ  
タルハ再ヒ絞  
首シテ其生命  
ヲ奪ハサルヘカ  
ラズ  
(廿六年二月法  
曹會決議)

刑罰ノ範圍ヲ定  
メタルモノニテ  
犯罪ヲ罰スベキ  
正條ニアラザル  
ヲ以テ特ニ之ヲ  
判決書ニ掲ケサ  
ルモ理由不備ノ  
裁判ニアラズ  
(廿一年七月大  
審院判決)

於テ甲裁判所檢  
事ヨリ罰金料  
ノ言渡ヲ受ケタ  
ル者ハ執行ニ付  
嘱託ヲ受クルモ  
其換刑命令ハ乙  
裁判所ニ於テ之  
ヲ爲ス職權ナキ  
ニ付其言渡ヲ爲  
シタル甲裁判所  
ノ事ニ請求スベ  
キモノトス  
(廿五年七月決  
議)

刑ハ如何ニ處分即チ執行スヘキヤ次節ニハ附加刑ハ如何ニ處分即チ執行スヘキヤヲ規定  
シタルモノナリ換言スレハ前節ハ主刑及ヒ附加刑ノ刑名ヲ定メ本節及ヒ次節ハ其主刑及  
ヒ附加刑ノ處分方法ヲ定メタルモノナリ  
主刑處分ノ中第一ニ規定シタルハ死刑處分ニシテ第十二條乃至第十六條ニ跨カル而シテ  
其間ニハ第十二條但書及ヒ第十六條ノ如キ刑ノ執行方法ニ關スル細則アリテ第十一條ニ  
依リ刑法ニ規定センヨリハ刑法附則監獄則等ノ如キ特別法ニ規定スヘキモノアリト雖モ  
今暫ク逐條之カ解釋ヲ爲スヘシ  
第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ  
之ヲ行フ  
夫レ死刑處分ニ付テハ古來種々ノ方法アリ今其二三ヲ擧クレハ火刑、車裂、斬首、電刑等  
是レナリ而シテ我刑法ニ於テ絞首ノ法ヲ用キシハ蓋シ死刑ノ本旨ハ奪命ニ在リテ成ルベ  
ク殘忍ナル手段ヲ用キザルヘク成ルヘク犯人ニ苦痛ヲ與ヘサルヘク又人体ヲ尊重シテ身  
首全キヲ得セシメサルヘカラズトノ旨趣ニ因ルモノナラン然リ而シテ死刑ヲ獄内ニ於テ  
執行スル所以ハ若シ夫レ之ヲ公行シ公衆ニ之ヲ縱覽セシムル如キニ於テハ人心ヲシテ殘  
忍兇猛ナラシメ且ツ犯人ニ同情ヲ表シ又犯人ヲ極罵スル等刑ノ執行ノ威嚴ヲ失フア  
ハナリ  
規則ニ定ムル官吏トハ刑法附則第一條ニ依レハ其執行ヲナス裁判所ノ檢事書記及ヒ獄長  
ナリ蓋シ檢事ハ執行ノ指揮ヲ爲スモノ獄長ハ執行ヲ爲スモノ書記ハ執行ノ始末書ヲ作ル  
モノナルヲ以テナリ  
死刑ノ執行ハ奪命ノ謂ニシテ絞首其者ノ謂ニアラサレハ一旦絞首シ遺骸ヲ親屬故舊ニ下  
付シタル後ト雖モ若シ蘇生シタルハ再ヒ絞首シ以テ奪命セサルヘカラサルハ素ヨリ論  
ヲ俟タサルナリ  
第十二條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス  
死刑執行權ハ裁判確定ノ日ニ發生スルモノナルニ之カ執行ヲ爲スニ司法大臣ノ命令ヲ要  
スルハ死刑ハ一旦之ヲ執行スルハ回復シ得サルヲ以テ之カ執行ヲ慎ム爲メナリ而シテ



ルニアラサレハ  
禁錮ヲ免スヘキ  
モノニアラサル  
ノ趣意モ亦自カ  
ラ明ナリ(三十  
年抗告一三號全  
年十二月判決)  
酒精營業税法違  
犯

用井テ葬ルヲ得ス

遺骸ヲ下付スル所以ハ遺骸ハ罪ナク之ヲ鼻首又ハ曝棄スルノ必要ナキヲ以テナリ但シ式ヲ用キテ葬ムルヲ禁シタル所以ハ盛式ヲ以テ葬儀ヲ營ム等ハ國法ニ反抗スルノ傾キアルヲ以テ之ヲ防ク爲メナリ從テ些少ノ讀經ヲナシ親屬故舊ノ香花ヲ供シ墓標ヲ建ツルカ如キハ禁スル所ニアラス

遺骸ヲ下付ストアレハ親屬故舊ニシテ請フモノアレハ必ラズ下付セサルベカラズシテ獄官ノ權内ニアラサルヲハ勿論ノコトニ屬ス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下トス

徒刑囚ヲ島地ニ發遣スル理由ハ内地ニ於ケル執行ト絶海孤島ニ於ケル執行トハ苦痛ニ甚シキ差異アルト脱獄逃走ヲ豫防スルトニ在リ而シテ又荒蕪ノ島地ヲ開拓スルノ利益アレハナリ然レモ發遣費其他當該官吏ニ優給ヲ要シ日用品ノ欠乏等容易ニ實施シ難キ事情ア

ルヲ以テ明治廿二年七月勅令第三十三號ハ東京三池宮城等ノ集治監内ニ假留監ヲ設ケ其發遣ノ囚徒ヲ一時茲ニ拘禁スルヲ規定セリ而シテ定役ニ服セシムルノ理由ハ主トシテ犯人ニ苦痛ヲ與フル爲メナレモ勞働ト規則アル生活トニ誘導スル爲メナリ

無期徒刑ニ限ラズ總ヘテ無期徒刑ハ犯人ヲシテ再ヒ社會ニ齒セシメズ自新ノ念ヲ絶タシムルヲ以テ該刑ハ廢止スヘシト論スルモノアリト雖モ斯ル犯人ヲ社會ヨリ遠ケ社會ハ再ヒ害ヲ受クルヲナキヲ保スルハ當然ニシテ其他立法者ハ自新ヲ勸ムル爲メ假出獄ノ制ヲ設ケアレハ此論ハ取ルニ足ラズ又有期徒刑ニ限ラズ總ヘテ有期徒刑ニ一定ノ範圍ヲ示セルハ是レ罪質ト刑罰トノ權衡其宜シキヲ得セシメン爲メ裁判官ニ職權ヲ以テ之ヲ處分スルノ餘地ヲ與ヘタルナリ

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ服ス

徒刑ノ婦女囚ヲ島地ニ發遣セサルハ婦女ハ身體脆弱ニシテ之ヲ島地ニ發遣スルガ如キハ其苦痛過重ナリト謂フヘク且逃走ノ恐レ少ケレハナリ而シテ尙ホ定役ニ服セシムルハ前

條ノ趣旨ト同ジ但裁縫、洗濯等ノ事業ノ荒カラサル者ニ服セシム(監、施、細、四三二七條)

第十九條 徒刑囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其体力相當ノ定役ニ服ス

徒刑囚滿六十歳以上ノモノ、通常ノ定役ヲ免スルハ老者ヲ憐ムノ意ニ出タルニアラス六十歳以上ニ達スレハ其体力壯年者ヨリモ衰フル者トノ法律上ノ推測ニ出タルモノナリ故ニ假令強壯者アルモ反對ノ立證ヲ許サス即チ之ヲ行政處分ニ委テスシテ法律處分ト爲シタルナリ

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

流刑ハ上述ノ如ク國事犯罪ニシテ徒刑囚ノ如ク定役ニ服セシメス但其請ニ依リ服役ヲ許ス(刑、附、第十一條)而シテ之ヲ島地ノ獄ニ幽閉スルハ之ヲ絶海孤島ノ獄ニ幽閉スル苦痛ヲ與フルト殘黨ト通謀シ脱獄逃走スルヲ豫防スルトニ在リ又之ヲ定役ニ服セシメサル所

以ハ蓋シ國事犯罪ノ性質ハ常事犯罪ノ如ク破廉耻ノモノニアラス即チ國事ノ爲メニ犯罪トナルモノナレハ其刑ノ性質タルヤ精神ニ感セシムルヲ多キヲ要シ身体ニ感セシムルヲ少キヲ要スルモノニシテ屈辱勞働ハ國事犯罪ヲ罰スルノ目的ニ適セサレハナリ

流刑囚ニハ服役ナキヲ以テ徒刑囚ノ如ク滿六十歳以上ノ老者ニ對スル輕役特例ヲ設クルノ必要ナク又流刑女囚ヲ島地ニ幽閉スルモ服役ナキヲ以テ女囚ノ爲メニ過重ナリト云フヲ得サレハ内地ニ於テ執行スルノ特例ヲ設ケサルナリ

第廿一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムルヲ得

有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

流刑囚ノ幽閉ヲ免スルノ理由ハ之ヲ幽閉スルヲ久シキニ涉リ天然ノ社交心ヲ拒絕スルハ狂病ヲ發シ且ツ自新ノ念ヲ失ハシムル恐アルノミナラズ悔改ヲ勸メ再犯ノ念ヲ斷タシメン爲メニシテ又荒蕪ノ島地ヲ開拓セシムルノ利益アルヲ以テナリ

然ルニ徒刑囚ニ假出獄ヲ許スニハ獄則遵守ト悔改ノ狀トヲ以テ法律上ノ要件トシ流刑囚ニ幽閉ヲ免スルニハ此法律ノ要件ナキハ如何是レ蓋シ國事犯人ノ如キハ概テ素養アルモノニシテ無智ノ破廉耻漢トハ其趣ヲ異ニスルヲ以テ謹慎及ヒ悔改等ハ既ニ素養中ニ存スルモノト看做スヘキカ故ニ立法者ハ此等ノ犯人ニ對シテ此要件ヲ設ケサルナリ或ハ又一時ノ政策上悔改等ノ有無ニ拘ハラズ之ヲ免セサレハ却テ不安ヲ招クナキニアラサルカ爲メナリ之ヲ五年又ハ三年ト限定シタルハ徒刑囚等ニ於ケル假出獄トハ權衡ヲ得サルカ如シト雖モ流刑囚ハ徒刑囚等ト異ナリテ僅カニ監獄ノ近傍ニ居住セシムルヲ要スルカ故ニ徒刑囚ノ假出獄者ニ比スレハ其自由ヲ復スルノ程度甚タ小少ナルト國事犯人ハ其素養常事犯人ト異ナルモノアルカ故ニ感化ヲ受クル亦自ラ鋭敏ナレバナリ

免幽閉ハ獄司ノ職權ニ屬スルヲ以テ其之ヲ得ルハ囚人ノ權利ニアラズ又獄則ヲ守ラス若クハ逃走ノ恐レアルキハ行政上ノ處分ヲ以テ直ニ免幽閉ヲ停止スルヲ得ヘシ而シテ其免幽閉ノ効果ハ家族ヲ招キ同居スルヲ(附則第十三條)得ヘシト雖モ監獄ノ近傍ヲ限リテ居住シ獄司ノ監督ヲ受クヘキナリ(附則第十四條)

第廿二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

内地ノ懲役場ニ入レ執行セシムルハ徒刑囚ノ如ク島地ニ發遣スル至難ノ苦痛ヲ受ケシムルヲナシト雖モ又徒刑囚ノ如ク定役ニ服セシメ且監督ヲ嚴ニシ外役ニ就カシムルヲモ得ヘシ而シテ其懲役ヲ輕重ノ二個ニ分チタル理由ハ刑ハ可成分割シ得ヘキヲ要スルノ主義ニ基キ其等差ノ數ヲ充分ニ多クシ又一個人ノ刑ニ長短ノ差異甚タシキヲ見サルヲ要スルカ故ナリ

本條滿六十歳以上ノモノニ定役ヲ輕減スルノ理由ハ第十九條ヲ説明シタル所ニ同シキヲ以テ茲ニ再說セス

第廿二條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

禁獄ハ國事犯ニ適用スル刑ニシテ流刑ニ次キ更ニ寛ニ定役ニ服セシメ又島地ニ發遣セ  
ス其島地ニ發遣セサルハ流刑ト區別スル爲メ又定役ニ服セシメサル理由ハ第廿條ニ禁獄  
ヲ重輕ノ二個ニ分チタル理由ハ第廿二條即チ前條ニ説明シタルト同シキヲ以テ茲ニ省略  
ス服役ヲ義務ト爲サ、ルモ本人請フ片ハ之ヲ許スヲ得ヘキハ刑、附、第十七條ニ規定スル  
所ナリ

禁獄囚ノ假出獄ニ於ケル年限流刑ノ免幽閉ノ年限ニ比シ割合ニ長キハ第廿一條ニ説明シ  
タル理由ノ外禁獄囚ハ内地ニ於ケル執行ナルニヨリ同志ト通謀シ再擧ノ恐レ等アレ流  
刑ハ囚幽閉ヲ免スルモ尙島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムルニヨリ内地ヲ去ルテ遠ク從テ  
再擧ノ憂ナキヲ以テナリ

第廿四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役  
ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ  
其長短ヲ區別ス

前條禁獄以上ヲ重罪ノ刑トシ本條禁錮ハ輕罪ノ刑ニシテ重禁錮ハ常事犯ニ輕禁錮ハ國事  
犯及ヒ常事犯ノ破廉耻少ナキモノニ適用スルモノトス抑モ禁錮ヲ重輕ノ二個ニ分ツハ刑  
期ノ長短ニ依ラスシテ單ニ定役ノ有無ニ依レリ是レ懲役及ヒ禁獄ト異ナル處ナリ而シテ  
其之ヲ定役ノ有無ニ依テ輕重ニ分ツ所以ハ禁錮ノ刑期ハ各本條ニ於テ更ニ罪情ニ從ヒ細  
カニ之ヲ區分スルノ必要アルガ爲メナリ又禁錮ノ刑ヲ十一日以上五年以下トナシタルハ  
其最短期ハ違警罪ノ拘留ノ刑期及ヒ其最長期ハ重罪ノ懲役及ヒ禁獄ノ刑期ト相交错スル  
ヲ避ケタルナリ

第廿五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄  
舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限  
リニ在ラズ

本條ハ專ラ工錢ノ給與法ニ過キササルヲ以テ監獄則ノ如キ特別ノ規則ニ規定スル方相當ナ  
ルヘシト雖モ今其工錢ノ幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供スルノ理由ヲ擇ヌレハ其工錢ヲ毫モ官ニ

入レサル片ハ良民ノ負擔益々重ク又其工錢ノ全部ヲ囚人ニ給與スルカ如キハ監獄ハ一個ノ職業場ノ如クナリテ刑罰ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルノ恐レアルノミナラス物價騰貴シ貧民生活ニ窮スル場合ニハ一時ノ糊口ヲ得ン爲メ故ラニ虚偽ノ犯罪ヲ申出テ審判ノ手續ヲ煩ハスカ如キ者輩出スルノ弊アルヘケレバナリ然リ而シテ工錢ノ幾分ヲ囚人ニ給與スル理由ハ勞働ト規律アル生活トノ慣習ヲ養成スル爲メノミナラス又滿刑後生計ニ就クコトヲ得セシメ以テ再犯ヲ豫防スル爲メナリ無期徒刑囚ノ如キハ其効ナキカ如シト雖モ特赦又ハ仮出獄等ノ場合アレハ其反對ノ理由ト爲スニ足ラス

現役トハ現ニ服役シタル一百日ヲ云ヒ刑期一百日ヲ云フニアラス而シテ現役一百日以内ハ工錢ヲ給與セサル理由ハ蓋シ執行ノ當初ヨリ工錢ヲ給與スル片ハ囚人ヲシテ寛大ノ恩ニ馴レ刑ノ嚴格ヲ失ヒ從テ懲戒ノ効ヲ薄カラシムヘク又在獄短カキ者ハ出獄後ノ就業比較的容易ナレハナリ

第廿六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

前述ノ如ク罰金ハ財産刑ニ属シ國家カ犯罪ヲ原由トシテ徵發的ニ犯人ノ資産ヲ徵收スルモノニシテ其最下額ヲ二圓ト定メテ其最高額ヲ限定セサル理由ハ財産刑ニハ罰金以上ノモノ、刑ナキヲ以テ其上級ノ最少額ト交錯スルノ恐ナク且罰金ハ或場合ニ於テハ一定シ難キ數額ヲ以テ罰金額ト定ムルモノアルカ故ニ豫メ其最高即チ最多額ヲ定ムルコトヲ得サレハナリ而シテ其最下額ヲ二圓ト定メタルハ科料ノ最高額ト交錯スルヲ避ケタルナリ

第廿七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ折算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求メニヨリ裁判官之ヲ命ス但禁錮ハ二年ニ過ルコトヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル片ハ其經過シタル日數ヲ控除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル片亦同シ



罰金刑ハ元來破廉耻少キ犯人ニ科スルモノナルヲ以テ比較的ニ破廉耻多キモノニ科スル重禁錮ニ換フヘカラスシテ定役ナキ輕禁錮ニ換フヘキ者ト爲シタルナリ抑モ換刑ハ惡意ノ不納者ト善意ノ不納者タルトヲ問ハスシテ皆其處分ヲナスヘキ乎否ヤニ付テハ種々議論アリト雖モ佛國ニ於テハ換刑ハ惡意ノ不納者ニ限ルトノ論決ヲ爲ス者多數アリト云フ然ルニ本條ニハ單ニ納完セサル者トアルヲ以テ惡意ノ有無ヲ問フヲ要セサル者ト謂ハサルヘカラス且ツ夫レ換刑ノ禁錮ハ一ノ刑罰ニアラスシテ罰金刑ノ執行方法ニ止マルヲ以テ惡意ノ有無ヲ問フヲ要セサルナリ若シ惡意ノ不納者ニ對スル一ノ刑罰ナリトセハ無資力者ニ對シテハ換刑法ヲ行フヲ得サルノ不都合ヲ生スヘキヲ如何セン故ニ其結果トシテ別ニ裁判ヲ下スヲ要セスシテ裁判官ノ命令ノミニヨリ換刑スヘキ者ト爲シタルナリ其罰金一圓ヲ一日ニ折算スルハ凡ソ日々人ノ得ヘキ利益ハ平均一圓ニ過キストノ法律上ノ推測ニ出タルモノニシテ又一圓未滿ノ罰金ヲ尙一日ニ折算スルハ一圓未滿ト雖モ之ヲ除去スル理由ナク又一日未滿ノ禁錮ヲ受ケシムヘキ法モ之レナケレハナリ然レモ元來罰金ハ最多額ノ制限ナキヲ以テ其科シタル數額巨大ナル片ハ數年ノ禁錮ニ換フルニ至ルヘ

シ斯ク罰金ニシテ數年ノ禁錮ニ換ヘラレナハ罰金ハ禁錮ヨリモ重キニ至リ無資力者ニハ甚々苛酷ナルノミナラス惡意ノ不納者ニモ亦苛酷ト云フヘキナリ是ヲ以テ定役ナキ輕禁錮ナレモ最長期ヲ二年ト制限シタルナリ

前述ノ如ク換刑ハ執行上ノ處分ニ過キサレモ單ニ犯人カ納完セストノ一條件ノミヲ以テ當然行ハルヘキモノニアラス故ニ裁判官力之ヲ命スルコト規定シ尙ホ此命令カ檢事ノ請求ヲ俟ツハ檢事ハ罰金徵收ノ執行官タレハナリ然リ而シテ裁判官ハ檢事ノ請求アリタル片ハ必ラス命令ヲ發セサルヘカラス平蓋シ此場合ニハ裁判官ハ檢事ノ請求ト其請求カ不納ニ基クトノ條件ヲ見ルノミニシテ其不納ノ原由カ惡意ナルヤ否ヤヲ調査スルノ必要ナケレハ之ヲ拒否スヘキモノニアラサルナリ

檢事ハ罰金納完期限即チ一ヶ月ヲ過ルモ直ニ換刑ヲ請求スルニ及ハサルカ曰ク期限後直ニ換刑請求ヲ爲スヘキナリ反對論者ハ期限後直ニ換刑スヘキモノトセハ罰金刑ノ目的ヲ達スル能ハス且犯人ヲシテ罰金禁錮ノ二者ノ一ヲ擇ハシムル結果ヲ生スヘケレハ納完スルコトヲ得ヘキ見込アル者ニハ之ニ猶豫ヲ與ヘテ納完セシムルモ固ヨリ法律ノ咎ムル所ニ

アラスト云フト雖モ本文限内納完セサル者ハ禁錮ニ換フトアレハ解釋上當然期限後ハ直ニ換刑スヘキモノニシテ即チ全ク法律上ノ處分ニシテ檢事ニ何時ニテモ換刑スルノ權限ヲ與ヘタルニアラス又期限内ニ於テ假令犯人ヨリ請求スルモ換刑處分ヲナスヘキニアラス是レ本文ニ換フルヲ得トアラサル所以ナリ然リ而シテ罰金刑ニ限リ裁判確定後直チニ執行セスシテ一月ノ猶豫ヲ與フル所以ハ罰金刑ハ可成其罰金タルノ目的ヲ達センカ爲メ即チ一月ノ猶豫ヲ許容シテモ尙ホ其目的ヲ達センカ爲メナリ

罰金ノ代納ヲ許スハ刑罰ノ性質ニ悖リ其効力ヲ失フノ恐レアルカ如シト雖モ犯人ハ代納者ニ返濟ノ義務アルノミナラス又假令代納ヲ禁スルモ他人ヨリ犯人ニ金額ヲ惠與シ又貸與スル等畢竟禁止ハ徒法ニ屬スルニ至ルヘケレハ法律ハ之ヲ許シタルナリ又換刑シタル禁錮ノ執行期限中罰金ヲ納メタルニヨリ其禁錮ヲ免スル場合ハ檢事ニ於テ更ニ其免禁錮ノ命令ヲ裁判官ニ請求スルニ及ハス即チ此場合ニハ換刑命令ハ當然効力ヲ失フヘキモノニシテ換刑命令ノ執行ヲ爲サル前ニ罰金ヲ納完シタル場合モ亦同シク免禁錮ノ命令ヲ裁判官ニ請求スルニ及ハサルナリ

換刑ノ禁錮ト主タル禁錮トハ其効力同シカラズ何トナレハ罰金ニハ元ト停止公權ノ附隨セサルモノナルニ換刑シテ禁錮トナシタル爲メ罪質ヲ變シテ之ヲ重クシ公權ヲ停止スヘキ謂レナケレバナリ故ニ換刑ノ効果ハ單ニ犯人ヲ禁錮場ニ留置シテ自由ヲ奪フニ止リ停止公權等ノ效果ヲ生スヘキモノニアラス

**第廿八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス**

拘留ハ違警罪ニ適用スヘキ刑ニシテ自由刑ノ最モ寬ナルモノナリ禁錮ト分チテ特ニ拘留所ニ留置シ且定役ニ服セス其十日以下ト定メタルハ禁錮ノ最短期十一日ト交錯スルヲ避ケタルナリ

**第廿九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス**

罰金ノ最多額ヲ制限セスシテ獨リ科料ノ最多額ヲ制限シ一圓九十五錢トナシタルハ其上

一 禁錮ノ刑ニ處セ  
ラレタル者ハ刑  
期間公權ノ執行  
ヲ停止セラレタ  
ルニ過キス從テ  
刑期經過後公權  
停止解除セラレ  
タルハ證人タ  
ルヲ得ヘキモ  
ノトス  
(廿八年九月大  
審院判決)

一 犯罪ニヨリ直接  
ニ得タル物品ニ  
アラサレハ本條  
末項ニヨリテ沒  
收スルヲ得ス。  
贓品ヲ販賣シ得  
タル代金ヲ以テ  
買受ケタル物品  
ハ犯罪ニ因テ得  
タル物件ニアラ  
ズ  
(廿年十一月同  
上)

一 刑法各本條ニ規  
定セル加減例ニ  
ヨリ加減シタル  
刑ハ本刑ト見做  
スヘキ者ナレハ  
兇器其他ノ物品  
ヲ携帶シタルヨ  
リ加重ノ刑ヲ言  
渡サレタル上ハ  
其物件ハ罪体ニ  
シテ沒收スルコ  
トヲ得サルモノト

級ノ罰金ノ最少額二圓ノ金額ト交錯スルヲ避タルナリ

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納

完セサル者ハ第廿七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

科料ノ不納者ヲ拘留ニ換刑スルハ罰金ノ不納者ヲ禁錮ニ換刑スルノ理由ト同一ナリ但シ  
科料ハ金額僅少ナルヲ以テ納完期限ヲ十日ニ短少シタルニ過キス

第三節 附加刑處分

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一、國民ノ特權
- 二、官吏トナルノ權
- 三、勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權
- 四、外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
- 五、兵籍ニ入ルノ件

六、裁判所ニ於テ証人トナルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ  
アラズ

七、後見人トナルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此  
限ニ在ラス

八、分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權

九、學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

前節ニハ主刑ハ如何ニ執行スヘキヤ即チ主刑ノ執行處分ヲ規定シ本節ニハ附加刑ハ如何  
ニ執行スヘキヤ即チ附加刑ノ執行處分ヲ規定セリ而シテ附加刑處分ノ中第一ニ規定セル  
ハ剝奪公權ニシテ九個ノ公權ヲ剝奪スルモノナルヲ規定セリ抑モ公權トハ何ソヤ古來  
公權及ヒ私權ノ區別ニ付テハ種々ノ學說アリト雖モ公權トハ公法ニ由リ獲得スルノ權私  
權トハ私法ニ由リ獲得スルノ權ナリト云フヲ得ヘント信ス而シテ公法及ヒ私法ノ區別ニ  
付テモ亦古來種々ノ學說アリテ諸說紛々タリト雖モ之ヲ要スルニ公益ニ關スル法規ハ公

ス  
（廿三年二月。廿  
七年二月同上）  
一私ニ醫業ヲ爲シ  
タル被告人ノ治  
療器械ノ如キハ  
所謂罪体ニシテ  
犯罪ノ用ニ供シ  
タル物件ナリト  
云フヲ得ス  
（廿三年二月同  
上）  
一金圓ヲ騙取シタ  
ル偽造ノ借用証  
書ハ没取スルコ  
ト得ス何トナレ  
ハ其借用証書ハ  
犯罪ノ用ニ供シ  
タル物件ナレハ  
被告人ノ所有物  
ニアラス即チ債  
權者ノ所有物ナ  
リ又之ヲ禁制物  
ト云フヲ得サレ  
バナリ

法ニシテ私益ニ關スル法規ハ私法ナリ又國家ト一個人ノ關係ヲ規定スルモノハ公法ニシ  
テ一個人間相互ノ關係ヲ規定スルモノハ私法ナリ又權力關係ヲ規定スルモノハ公法ニシ  
テ權利關係ヲ規定スルモノハ私法ナリト云フ三說ニ歸スルカ如シ而シテ余ハ其第三說ヲ  
取ルモノナリ又剝奪トハ公權ヲ消滅ニ歸セシムルモノ停止トハ一時公權ノ行用ヲ中止ス  
ルモノヲ云フ而シテ附加刑トシテ之ヲ剝奪又ハ停止スル所以ハ公權ヲ有スルト否トハ國  
家ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナレハ刑餘ノ人ヲシテ之ニ關係セシムルハ危險ニ  
シテ且斯ル名譽ノ位地ニ立タシムルハ刑罰ノ威嚴ヲ損スルノ傾キアルヲ以テナリ  
本條所謂權トハ權利ナリヤ能力ナリヤ夫レ吾人臣民ガ國民ノ特權ヲ享有シ得ルハ能力ニ  
シテ權利ニアラス又吾人臣民ガ官吏ト爲リ得ルハ能力ニシテ權利ニアラス如此法律上一  
定ノ要件ヲ具備セサル間ハ將來公權ヲ獲得スルヲ得ヘキ能力アルノミ而シテ之ヲ具備シ  
タル者ニシテ初メテ權利ヲ獲得シタルモノト云フヘシ然ルニ本條ニ權ト云フキハ其未タ  
獲得セサル權利ヲ剝奪スルト云フカ如ク解釋上甚タ不都合ナルヲ以テ本條權トハ權利能  
力即チ權能ト解釋スレハ可ナルヘシ故ニ此權能ヲ剝奪スル結果トシテ更ニ公權ヲ享有シ

（二十五年七月  
決議）  
一本件ニ關係ナキ  
偽造貨幣ハ見出  
人ニ還付シ而シ  
テ之ヲ毀棄スル  
等ハ行政警察上  
ノ處分ニ一任セ  
サルヘカラズ何  
トナレハ偽造貨  
幣ハ法律ニ於テ  
禁制シタル物件  
ニアラサス之ヲ使  
用セサル上ハ人  
民ノ所有スルハ  
モ妨ケナケレハ  
犯人以外ノ者ノ  
所有スル物ヲ没  
収スルカ如キ法  
律ノ許サハル所  
ナレハナリ  
（廿五年三月決  
議）  
一犯罪ノ用ニ供シ  
タル偽造ノ借用

タル者ハ其權能ヲ有セサル爲ニ從テ公權其者ヲモ失ヒ又未タ公權ヲ享有セサル者ハ將來  
法律上ノ要件ヲ具備スルモ權能ヲ欠ク爲ニ公權ヲ享有スル能ハサルモノトス又本條九個  
ノ公權ノ中兵籍ニ入ルノ權ノ如キ裁判所ニ於テ証人トナルノ權ノ如キ又後見人ト爲ルノ  
權ノ如キハ一方ヨリ是ヲ見レハ皆是レ義務ナル故ニ其剝奪ノ爲メ反テ大ニ之ヲ悅フモノ  
アルヘキヲ以テ刑ノ目的ヲ達スル能ハサル點ニ於テ大ニ批難アリト雖モ這ハ是レ立法論  
ニ屬スルヲ以テ之ヲ省略シ進テ其九個ノ權ノ如何ナルモノナルヤヲ解釋スヘシ  
第一、國民ノ特權  
國民ノ特權トハ帝國臣民ノ特有スル公權ヲ云フ而シテ帝國臣民トハ帝國ノ國民分限ヲ有  
スルモノヲ云フ故ニ外國人ハ國籍法ニ依ルニアラサレハ帝國臣民ト云フヲ得ス又特有ス  
トハ帝國臣民ニ限リテ享有スルト云フ意味ナリ例ヘハ參政權即チ帝國議會、府縣會市町  
村會議員ノ選舉權被選舉權等ハ國民ノ特權ナルガ如シ彼ノ土地所有權ノ如キハ帝國臣民  
ニ限リ之ヲ有スヘキモノナレハ是等ハ私權ニ屬スルモノナルヲ以テ本項所謂國民ノ特權  
ト云フヲ得ス

第二、官吏トナルノ權

官吏トハ一定ノ形式ニ依リ任用セラレテ國家ノ事務ニ從事スルモノヲ云フ故ニ官吏ハ必  
ラスシモ官府ノ權限ヲ行フモノニアラス例ヘハ各省ノ大臣ハ官府ノ權限ヲ行フモノニシ  
テ各省ノ事務員ハ官府ノ權限ヲ行フモノニアラスト雖モ均シク是レ一定ノ形式ニ依リ任  
用セラレテ國家ノ事務ニ從事スルモノナレハ官吏タルハ更ニ論ヲ俟タズ町村長ノ如キ官吏  
ハ明治廿二年法律第百號ニ刑法中官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ適用ストアルニ由リ公權制  
奪ニ當ル場合ニハ亦公吏トナルノ權モ剝奪セラルヘキナリ官吏トナルノ權ハ帝國臣民ニ  
限リテ享有シ得ヘキ權利ニシテ外國人ハ之ヲ享有スルコトヲ得ズ即チ官吏トナルノ權モ國  
民ノ特權ノ一種ニ過キサレハ之ヲ別項ニ規定シタルハ當ヲ得サルモノト云フベシ然レモ  
外國人ハ官吏トナルノ權ヲ有セサルモ儲トシテ之ヲ使用スルハ妨ケナシ  
第三、勳章、年金、位記、貴號、恩給ヲ有スルノ權  
勳章トハ軍務又ハ國務ニ付キ國家ニ功勞アル者ニ下賜スル所ノ褒章ニシテ勳等勳章及ヒ  
金鷄勳章ノ二種アリ金鷄勳章ハ功一級乃至功七級ニ分チ專ラ武功アルモノニ下賜スルモ

金証書及ヒ委任  
狀ハ被告ノ所有  
ニアラズ然ルニ  
法律ノ禁制物ト  
シテ沒收シタル  
ハ失當ナリ故ニ  
原判決ヲ取消ス  
(廿七年六月東  
京控訴院判決)  
一變造証書ハ沒收  
スヘキモノニア  
ラス  
(廿七年十月大  
審院判決)  
一偽造ノ尺度ハ禁  
制物トシテ沒收  
セサルヘカラズ  
(廿一年七月同  
上)  
一再貼用ノ印紙ハ  
禁制物ナリ沒收  
セサルヘカラズ  
(二十年九月同  
上)  
一偽造ノ銀貨ハ禁

制物ナリ  
(二十年三月同  
上)

一保護鳥ヲ捕獲ス  
ルノ用ニ供シタ  
ル銃器ハ沒收ス  
ヘシ  
(廿九年四月決  
議)十九年四月  
司法省ノ訓令  
ニハ銃器ハ沒收  
セストアリ  
一狩獵トハ銃及ヒ  
網ヲ以テ鳥獸ヲ  
捕獲スルヲ云フ  
狩獵禁制ノ場合  
ニ於テ狩獵ヲ爲  
シタル時ハ狩獵  
ニ用ヒタル銃及  
ヒ網等ハ罪體ニ  
シテ犯罪ノ用ニ  
供シタル物件ニ  
アラズ  
(三十年十月同  
上)

ノナリト雖モ勳等勳章ハ一等乃至八等ニ分チ文武武功ヲ問ハス下賜スルモノニシテ菊花  
章、旭日章、大綬章、寶冠章、旭日桐花章、旭日章、瑞寶章、桐花章ノ如キヲ云フ而シテ勳章  
トアルヲ以テ其他ノ紀念章名譽章等ノ如キハ剝奪ノ限リニアラズ但從軍紀章ハ剝奪スヘ  
キモノトス年金トハ文武武功ヲ問ハス國家ニ勳功アル者ニ毎年下賜スルノ金圓ヲ云フ而  
シテ金鷄勳章ヲ下賜スル者ニハ通常年金ヲモ下賜ス  
位記トハ位階ノ記號ナリ一位ヨリ八位ニ至リ而シテ各位ニ正從アレハ總テ十六位トス學  
士、博士、大博士ノ如キハ位記ト稱スルヲ得ス何トナレハ是等ノ稱號ハ學力智識ヲ表彰シ  
タル名稱ニ過キスシテ假令相當ノ手續ヲ經テ其稱號ヲ稱シ得ルト雖モ法律ヲ以テ之ヲ剝  
奪スルコトヲ得サレハナリ  
貴號トハ公、侯、伯、子、男ノ爵號ヲ云フ夫ノ華士族ノ稱號ハ貴號ト云フヘカラズ何トナレ  
ハ華士族ノ稱號ハ家ニ屬シタルモノニシテ人ニ屬シタルモノニアラサレハ一人ノ犯罪ノ  
爲メ之ヲ剝奪スルヲ得ヘキモノニアラサレハナリ  
恩給トハ國家ニ勳功アル者ニ下賜スル所ノ金圓ナリ夫ノ官吏カ在官中其俸給ノ幾分ヲ貯

上  
 一 夜中燈火ナク車馬ヲ疾驅シ又ハ禁ヲ犯シテ鶏牛ヲ闘ハス等ハ即チ車馬ヲ疾驅シ鶏牛ヲ闘ハスヲ以テ罪ヲ得ルモノナレハ車馬鶏牛ヲ犯罪用トシテ沒收スヘキモノニアラス  
 (十五年一月司法省令)  
 一 盜伐木ニ用ヒタル鋸鎌ハ沒收シ之ヲ持去ル爲メ用ヒシ駄馬及ヒ棒實籠ハ沒收ノ限ニアラス  
 (十七年七月大審院判決)  
 一 剝奪公權ハ能力ノ剝奪ナリ  
 (岡田學士)

五十六  
 蓄シ退職後受クヘキ恩給ニ付テハ一般ノ恩給ト其性質同シカラサルヲ以テ之ヲ剝奪スルハ私産ヲ奪フノ傾キアリト云フヘシ  
 第四、外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權  
 外國ノ勳章ハ我君主ノ與ヘタル所ニアラスシテ外國主權者ノ與ヘタルモノナルヲ以テ我君主ハ單ニ之ヲ佩用スルノ權ヲ與フルノミ故ニ其佩用權ハ我君主之ヲ剝奪スルヲ得ヘキナリ然レモ外國ニ於テ之ヲ佩用スルヲ得ルハ固ヨリ論ヲ俟タズ  
 第五、兵籍ニ入ルノ權  
 我國民ノ兵籍ニ入ルハ一方ヨリ之ヲ云ヘハ義務ナリト雖モ(憲法第二章)又他方ヨリ之ヲ云ヘハ權利ナリ即チ兵籍ニ入テ國家ヲ保護スルハ實ニ重任ニシテ人民ノ名譽トスル所ノ權利ト云ハサルヘカラス業既ニ重任ナリ故ニ一旦重キ國法ヲ犯シタルモノニシテ兵籍ニ入ラシムヘカサルハ更ニ説明ヲ要セズ  
 第六、裁判所ニ於テ証人トナルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス  
 民事刑事ヲ問ハス訴訟事件ニ付裁判所ニ於テ宣誓ノ上證言スルハ裁判官ヲシテ裁判ニ誤

一名譽刑ニシテ財產ニ及フハ間接ノ効果ナリ  
 (富井博士)  
 一 監視ハ初メヨリ刑ノ執行ナキ者ニ對シテハ執行スヘキモノニアラス  
 (江木博士)  
 一 禁制物トハ間接ニ立存ニ在ラ禁制シタル物件ナリ  
 (古賀學士)  
 一 刑罰ヲ制裁トシテ製造輸入、所有、占有、販賣ヲ禁シタル物品ヲ云フ  
 (岡田學士)  
 一 物件ノ性質法律ニ違反スルモノヲ云フ

五十七  
 謬ナカラシムル所ノ重要ノ公務又ハ權利ナリ而シテ重罪ヲ犯シタルモノ、陳述ハ信ヲ置クニ足ラスト推定スヘキハ當然ナルヲ以テ此權ヲ剝奪スルモノトス然レモ刑餘ノ人ト雖モ事實ヲ明カニスル爲メ陳述ヲ聞クノ必要アルハ裁判官ハ參考人トシテ之ヲ曉問スルヲ妨ケス  
 第七、後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニアラズ  
 未成年者禁治產者ノ如キ無能力者ハ國家特ニ之ヲ保護セサルヘカラズ其之ヲ保護セサルベカラサル所以ハ無能力者ノ利害ハ勿論國家ノ利害ニ重大ノ關係アルヲ以テナリ然レモ國家自ラ其任ニ當ルヘキニ非ラサルヲ以テ後見人ニ其任ヲ托シテ其職ヲ行ハシムモノトス故ニ後見人トナルハ私ノ合意ヲ以テ代理人トナルト異ナリテ貴重ノ任務ヲ國家ニ代テ行フモノナルヲ以テ此權利ハ私權トシテ視ルヘキモノニアラスシテ公權トシテ視ルヘキモノナリ而シテ重罪ヲ犯シタル者ハ此任ヲ托スヘカサルハ當然ノ推定ナルヲ以テ其權ヲ剝奪スル所以ナリ然レモ親子ノ情愛ニ於テハ刑餘人ト雖モ之ヲ喪失スルモノニ非スト看做スカ故ニ監督上正直適當ナルヘシトノ期望アルヲ以テ其子孫ノ爲メニ財產ヲ管

(井上博士)  
 一 或ル物件ノ販賣  
 交換ヲ禁スル場  
 合ニ其物件ヲ沒  
 收スルハ不可ナ  
 リ故ニ春書ノ如  
 キハ禁制物トシ  
 テ沒收スヘキモ  
 ノニアラス  
 (松室氏)  
 (古賀氏)  
 一 沒收スベキ物件  
 カ被告ノ手裡ニ  
 現存セサルコト  
 明カナル場合ニ  
 ハ沒收ノ言渡ヲ  
 ナサハルモ不法  
 ノ裁判ニアラス  
 (廿四年一月大  
 審院判決)  
 一 偽造ノ賣買證書  
 ハ犯罪ノ用ニ供  
 シタル物件ニモ  
 アラス犯罪ニ因  
 テ得タル物件ニ

モアラス所謂法  
 律上ノ禁制品ナ  
 リ  
 (廿六年三月同  
 上)  
 一 共犯兩名ニ對シ  
 沒收ヲ言渡シタ  
 リト雖モ其物件  
 共犯中ノ一人ノ  
 物ナレハ其他人  
 ノ言渡ニ對シ扣  
 訴スヘキ筈ナシ  
 (廿七年六月同  
 上)  
 一 沒收處分ハ檢事  
 ノ請求ヲ要スヘ  
 キモノニ非ス  
 (同上)  
 一 沒收言渡ニ押收  
 賍金ノ額ヲ示サ  
 ス又其金額ノ所  
 有者不明ナルモ  
 賍金ト認メタル  
 上ハ之ヲ沒收ス  
 ル不當ニアラス

理スルハ親屬ノ意見ニ任カセ之ヲ許シタルモノナリ  
 第八、分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權  
 分散者又ハ破産者ハ財産上ノ無能力者ニシテ其債權者ノ利害ハ勿論國家ノ利害ニ重大ノ  
 關係アルヲ以テ國家ハ殊ニ之ヲ保護セサルヘカラズ然レモ是亦國家自ラ其任ニ當ルヘキ  
 ニアラサルヲ以テ管財人ニ其任ヲ托シテ其職ヲ行ハシムルモノトス而シテ管財人ハ分  
 散者ノ財産ヲ管理シ債權ヲ取立テ債務ヲ辨償シ必要ノ場合ニハ動産ヲ處分スルノ權ヲ有  
 スルモノナル故ニ刑餘ノ人ヲシテ之ニ當ラシムヘカラズ是レ之ヲ公權剝奪ノ中ニ規定シ  
 マル所以ナリ本條後段會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權ヲ普通ノ意味ニ解釋シ法人ノ管  
 理者又ハ共有財産ノ管理者タルヲ得サルモノトセハ是レ私權ニシテ公權ニアラサレハ之  
 ヲ茲ニ規定スルハ其當ヲ得然リ而シテ法文ノ意味ハ普通ノ意味ニ解釋スルヨリ外ナキ  
 ヲ以テ此條文ハ不當タルヲ免カレズ  
 第九、學校長及ヒ教師學監トナルノ權  
 學校長及ヒ教師學監ハ學術技能ヲ教授シ子弟ヲ薰陶スル所ノ職員ニシテ此等ノ者ノ言行

ハ年少ノ子弟ニ感染シ易キヲ以テ國家ハ其學校長等ノ資格ヲ限定セサルベカラサルノミ  
 ナラズ一旦重キ刑ニ處セラレタル如キ者ヲシテ此任ニ當ラシムカベカラサルハ勿論トス  
 是レ其權ヲ剝奪スル所以ナリ  
 第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公  
 權ヲ剝奪ス  
 重罪刑ニ處セラレタル者ノ終身ノ公權ヲ剝奪スル事由ハ此等ノ者ハ其罪惡ノ程度重大ニ  
 シテ前條ノ公權ヲ有セシムル程ノ信用ナキヲ以テナリ而シテ別ニ宣告ヲ用ヒサル所以ハ  
 重罪刑ニ處セラレタル程ノ者ハ公權ヲ有セシメサルハ勿論ノ事ニ屬スヘキヲ以テ更ニ宣  
 告ヲ用ヒスシテ主刑ノ言渡ニ隨伴シ當然之ヲ剝奪スルモノト定メタルナリ然レモ立法者  
 ハ第八節ニ於テ猶ホ復權ノ法ヲ設ケテ後改ヲ勸誘セリ  
 重罪刑ニ處セラレタル者ハ終身公權ヲ剝奪ストアルヲ以テ罪名重罪ナルモ其刑ヲ減ジテ  
 輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ニハ剝奪公權ヲ附加セサルハ勿論ノ事ニ屬ス而シテ死刑ニ公  
 權ヲ剝奪スルハ其實効ナキカ如クナレモ判決確定後ヨリ執行ニ至ル迄ノ日數及ヒ刑ノ時

（廿七年十月同）  
 刑罰三百七十條  
 ノ兇器云々ニ適  
 當スル犯罪ハ兇  
 器ヲ携帶スル行  
 爲ト相合シテ茲  
 ト相成スルモ  
 ノナレハ其兇器  
 ハ所謂罪體ニシ  
 テ沒收スヘキモ  
 ノニ非ス  
 （廿七年二月同）  
 沒收ニ刑法四十  
 四條ヲ適用スル  
 モ又ハ爲サハル  
 モ不法ニ非ス  
 （廿七年十一月  
 同上）  
 偽造證書ヲ沒收  
 スルニ當リ刑法  
 四十三條一號ト  
 記載シアレハ禁

制物ナリトノ理  
 由ヲ明示シタル  
 モノナリトス  
 （廿八年十一月  
 大審院判決）  
 沒收ニ何人ノ所  
 有ヲ問ハス刑法  
 四十四條ノ前文  
 ヲ適用シ處斷シ  
 タルハ不法ニ非  
 ス  
 （廿七年十二月  
 同上）  
 強盜犯ノ携帶ス  
 ル兇器ノ如キハ  
 刑ノ加重ヲ爲ス  
 ヘキ一ノ情狀ニ  
 過キサルハ之ヲ  
 以テ犯罪ヲ構成  
 スヘキ罪體ト云  
 フトテ得テ故ニ  
 犯罪供用ノ物件  
 トシテ沒收シタ  
 ルハ不法ニ非ス  
 （二十八年二月

効ヲ得タル場合及ヒ特赦ヲ得タル場合ニ其實効アリ

第二十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職

ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

本條ノ意義ハ禁錮ニ處セラレタル者ハ現任ノ官職ノミハ之ヲ剝奪シ刑期終ルモ當然其官  
 職ニ復セシメサルモ其他ノ公權ハ其行使ヲ停止スルニ止マリ之ヲ剝奪セスト云フニ在リ  
 抑モ剝奪公權ハ公權享有ノ能力ヲ剝奪スルモノニシテ停止公權ハ公權行使ノ能力ヲ剝奪  
 スルモノナリ之ヲ換言スレハ前者ハ公權享有ノ能力ヲ剝奪スルモノナレハ併セテ公權行  
 使ノ能力ヲモ自然喪失スルハ勿論ノコニ屬スト雖モ後者ハ公權ヲ享有シ得ルト雖モ其享  
 有シタル公權ヲ行使スルコト能ハサルニ止マルノミ故ニ後者ノ場合ニ於テハ位記貴號勳章  
 等ハ之ヲ受ケタル者ニ對シテ停止期間其權利ノ行使ヲ停止ムルノミニシテ一時位記等ヲ返  
 上セシムルコトナシ然ルニ學者往々本條ハ現任ノ官職ヲ剝奪スルノミナラズ刑期間公權ヲ  
 停止スルハ即チ有期ノ公權剝奪ナリト唱フルモノアリト雖モ這ハ公權享有能力ト公權行  
 使能力トヲ混淆シタルモノニシテ其有期ノ公權剝奪ニアラサルコトハ本條ノ法文ヲ見テモ

明瞭ナリトス何トナレハ若シ論者ノ唱フルカ如ク剝奪ノ意ナリトセハ現任ノ官職ヲ失フ  
 ト特更ニ之ヲ明記スルノ必要ナカルベケレバナリ然ルニ其法文ニ現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ  
 其刑期間公權ヲ行フヲ停止ストアルヲ見レハ其然ラサルコトヲ知ルヘキナリ加之前述ノ  
 如シ公權享有ノ能力ト公權行使ノ能力トハ自ラ別物ニ屬シ之ヲ區別セサルヘカラサルハ  
 勿論ノコニ屬スレバナリ而シテ其刑期間公權ヲ行フヲ停止スルコトアルヲ以テ其刑ノ  
 執行中ハ公權ヲ行フコト能ハサルヲ以テ之ヲ停止スルハ無効ナルニ似タレ後見人又ハ管  
 財人ノ權ノ如キハ監獄内ニ在リト雖モ往復書狀ヲ以テ之ヲ行フヲ得ヘキニ付其實効ナシ  
 ト謂フベカラズ

第二十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監規ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス

監視ノ期限間公權ヲ行フヲ停止ス

主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ

監視ノ如何ナルモノナルヤハ第三十七條下ニ説明スヘシト雖モ輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付



同上  
一貨幣偽造ノ器械  
ハ法律ニ於テ禁  
制シタル物件ナ  
リ

(二十八)年四月

同上  
一變造トハ文書ノ  
一部ヲ増減變換  
スルニ過キサル  
モノナレハ其變  
造ニ係ル部分ヲ  
沒收スルハ固ヨ  
リ當然ナレトモ  
一部ノ變造ニ係  
リタルカ爲メ他  
ノ真正ナル部分  
ヲ沒收スルノ理  
マテモ併セテ之  
ヲ沒收スルノ理  
ナシ故ニ執行官  
ニ於テ其變造ニ  
係ル部分ヲ裁シ  
取リ又ハ塗抹シ  
又ハ裏書シテ以  
テ沒收ノ處分ヲ

シタル者ニ其監視ノ期間公權ヲ停止スル所以ハ一方ニ於テ再犯ノ恐れアリトシテ監視ニ付シナカラ他方ニ於テ其危險ナシトシテ公權ヲ行ハシムルハ首尾相反スルノミナラス監視ニ付スル程ノ輕罪囚ハ其公權行使ノ能力ヲ剝奪スルノ必要アレハナリ而シテ本條ノ停止公權ハ監視ニ隨伴スルモノナレハ其刑期間モ亦監視ノ期間ト相隨伴セシムヘキカ故ニ別ニ宣告ヲ用キサルモノトス第二項主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者トアルハ第百二十六條第百九十二條及ヒ監視ヲ付加スヘキ主刑ノ時効ヲ得タル場合ヲ云フ

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑

ノ終ル迄自ラ財産ヲ治ムルコトヲ禁ス(削除)

禁治產トハ犯人自ラ財産ヲ治ムルコトヲ禁スルノ謂ニシテ私權ノ中財產權行使ノ能力ヲ剝奪スルヲ云フ夫レ私權ノ何者タルヤハ前既ニ説明セルヲ以テ茲ニ再說セスト雖モ財產權トハ物權及ヒ債權ヲ併稱スル者ニシテ其他ノ私權即チ結婚養子ヲ爲スノ權等ハ之ニ包含セス又犯人自ラトアルヲ以テ其後見人管理人等カ管理上必要ノ處分ヲ行フハ妨ケナク又行使能力ヲ剝奪スルモノ故ヘ其財產ハ依然トシテ犯人ノ所有ニ屬スルハ勿論ノコトニ屬ス

而シテ又行使能力ナル故ヘ管理權處分權共ニ之ヲ禁止スルナリ

禁治產ノ附加刑ヲ設ケタル理由ハ一種ノ刑トシテ犯人ヲ懲戒シ且ツ其財產ヲ處分シ逃走ヲ防クノミナラス犯人ノ利益ハ勿論社會ノ公益ヲ保護スル爲メナリ而シテ死刑囚ニ付テハ禁治產ノ實効ナキカ如シト雖モ其執行ニ至ル迄ノ間又ハ特赦再審等ノ爲メ執行ノ遲延スル間ハ其効アリ又禁治產ハ上述ノ如ク刑罰ナレハ禁治產者ノナシタル財產契約ハ絶對ニ無効ナリト謂ハサルヘカラス然レモ之ヲ附加刑トシタルハ穩當ナラサルカ如シ

第二十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治產ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得(削除)

流刑囚幽閉ヲ免セラレタル片ハ島地ニ住居ヲ構ヘ自活ヲナサ、ルヘカラス從テ其生活ニ必要ナル爲メ禁治產ノ幾分ヲ免セサルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ而シテ其幾分ヲ免スルハ若シ其全部ヲ免スル片ハ刑ノ効力ヲ薄カラシムル恐アルヲ以テ行政官ノ見込ヲ以テ其幾分ヲ免スルコト定メタルモノナリ然レモ本條ノ禁治產ノ幾分ヲ免セラル、コトハ囚人ノ權利ニアラス是レ法文ニ免スルコトヲ得トアル所以ナリ

爲スコトヲ得ヘ  
キニ全部ヲ沒收  
シタルハ擬律錯  
誤タルヲ免レス  
(二十八)年五月  
同上  
一爆發物ハ特許ヲ  
得タルモノニ非  
サレハ之ヲ所持  
スルヲ得サルヲ  
以テ法律上禁制  
物タルハ論ヲ俟  
タス  
(二十八)年六月  
同上  
一偽造手形ハ法律  
ニ於テ禁制シタ  
ル物件ナリ  
(二十八)年七月  
同上  
一偽造證書ハ法律  
ニ於テ禁制シタ  
ル物件ナリ  
(二十八)年九月  
同上

一 金圓騙取ノ目的ヲ以テ賣渡證書ヲ其犯罪ノ手段ニ供シタルトキハ該證書ハ犯罪ノ物件トシテ沒收スヘキモノトス  
 (二十八九月)  
 同上  
 一 事實ノ理由ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル物件タルコトヲ認定セスシテ法律ノ理由ニ至リ漫然刑法四十三條第二項ヲ適用シ其物件ヲ沒收シタル判決ハ不法ナリ  
 (二十八九月)  
 同上  
 一 犯罪ノ準備ニ供シタル物件ヲ以テ犯罪ノ用ニ供

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス

監視ハ如何ニ是ヲ執行スルヤ即チ其執行規則ハ刑法附則第廿一條乃至第三十七條ニ規定セリ抑モ監視ハ前既ニ第十條ノ下ニ説述セル通り人ノ自由ノ幾分ヲ剝奪シ再犯ヲ豫防スル附加刑ナレモ其監視ノ實質ニ付キ之ヲ論スレハ再犯豫防ノ手續タルニ過キスシテ刑罰ノ性質ヲ有スルニアラス一ノ警察處分ニ屬スルモノ、如シ刑法第五十五條ノ特別監視ハ全ク此性質ニ因リタルモノニシテ行政處分ナリト云フヘシ故ニ此特別監視ヲ終リタル後更ニ附加刑ニ屬スル監視ヲ執行セサルヘカラサルノミナラス(刑、附、第四十六條)此監視ハ裁判官宣告ヲ爲サス且該條ニ特別ト云ヒテ第十條ノ監視ト同シカラサルヲ示セリ本條ニ各本刑ノ短期三分ノ一トアリ而シテ此本刑ノ短期トハ法律上ノ短期ヲ云フ者ニシテ法律上ノ減輕ト裁判上ノ減輕(酌量)トヲ問ハス現ニ言渡サレタル刑ノ階級カ有スル刑ノ範圍ノ短期ヲ云フニアラス從テ死刑又ハ無期徒刑ヲ酌量減輕シテ有期徒刑又ハ重懲役ニ減シタル時本刑タル死刑又ハ無期徒刑ニハ短期ナルモノナキヲ以テ之ヲ適用スルヲ能ハサ

シタル物件トシテ沒收シタル裁判ハ不法ナリ  
 (二十八九月)  
 同上  
 一 被害者ノ不明トハ被害者ノ有無不明ヲ云フニ非ス其住所氏名等ノ不明ナル場合ヲ云フ  
 (二十八九月)  
 同上  
 一 刑法第四十四條ニ所謂所有主ナキニ時トハ絶對的ニ無主物タル場合ヲ云フニ非ス所有主ノ發見セラレサル場合ヲ云フ  
 (同上)  
 一 偽造證書等ハ社會ノ信用ヲ害スヘキ者ナルヲ以

ルノ不都合ヲ生スト雖モ是レ全ク法ノ不備ト云ハサルヘカカラス法律ノ解釋トシテハ斯ル不都合アルノ故ヲ以テ本條ノ本刑ハ裁判上ノ刑期ノ短期ナリト云フカ如キ比附援引ノ學說ハ之ヲ惡意排斥セサルヘカカラス其他監視ノ制度ニ付テハ批難百出セルヲ以テ改正案ニハ此等ノ點ヲ修正セリ

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルコトヲ得ス

重罪ニ附加スル監視ハ法律上一定ノ期間アツテ裁判官ハ之ヲ科セサルノ餘地ヲ有セサルヲ以テ之ヲ宣告スル必要ナシト雖モ輕罪ニ附加スル監視ハ各最長短期アリテ各本條ニ於テ之ヲ示スカ故ニ之ヲ宣告セサレハ監視ノ刑期一定セス是レ本條ニ宣告スト規定アル所以ナリ而シテ輕罪ノ中或ハ一時ノ感情ヲ以テ之ヲ犯シ再犯ノ恐レナキモノアルヲ以テ本條ニ其各本條ニ其記載アルヲ待テ監視ニ付スルコトヲ規定シタルナリ

第二十九條 死刑及ハ無期徒刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用

ヒス五年間監視ニ付ス

テ私ニ之ヲ所持  
スルヲ許サス故  
ニ其證書等ヲ刑  
法四十三條一號  
ニ依テ沒收シタ  
ルハ適法ナリ  
(二十八年十月  
同上)  
一 犯罪ニ依テ得  
ル證書ノ所有者  
明瞭ナル場合ニ  
於テ沒收ノ言渡  
ヲ爲シタル裁判  
ハ擬律錯誤ノ不  
法アルモノトス  
(二十八年十月  
同上)  
一 所持ナル言詞ハ  
普通語ニ於テ所  
有ノ意味ヲ包含  
ス  
(二十八年十二  
月同上)  
一 偽造ニ係ル官印  
ノ記號印章ハ法

死刑ハ生命ヲ斷テ無期刑ハ終身ナルヲ以テ通常ノ場合ニ於テハ之ヲ監視ニ付スル必要ナ  
シト雖モ其刑ノ時効ヲ得タルルハ之ヲ監視ニ付スルノ必要アリ是レ本條ノ規定アル所以  
ナリ然ルニ此等死刑囚又ハ無期囚ノ特赦ニ遭ヒタルルハ之ヲ監視ニ付スルノ必要ナキカ  
否決シテ然ラサルヘシ有期刑重罪囚ト雖モ特赦狀中ニ復權ノ記載ナキルハ第三十七條ニ  
依リ監視ヲ免ル、コヲ得サルヲ見レハ其之ヲ監視ニ付スルノ必要アルヤ勿論ニ屬ス是レ  
亦法ノ不備ト云ハサルヘカラス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免

除テ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起  
算ス

本條ハ監視期間ノ起算點ヲ規定シタルモノニシテ元來監視ハ再犯ヲ豫防スル爲メナル故

律ニ於テ禁制シ  
タル物件ナリ  
(二十九年二月  
同上)  
一 玩弄紙幣ハ明治  
廿八年法律廿八  
號ニ依リ禁制物  
トナリタルモノ  
ナリ故ニ刑法四  
十三條一號ニ依  
リ沒收スヘクニ  
非ス  
(二十九年四月  
同上)  
一 主タル物件ヲ沒  
收スルノ判決ハ  
從タル附屬物件  
ニ及ブ  
(二十九年六月  
同上)  
一 彈丸ハ短銃中ニ  
填充シアルモノ  
ナレハ既ニ被害  
者ニ向テ其短銃

ニ主刑ノ期滿後直ニ之ヲ執行スヘキモノトス其主刑ノ終リタル日トハ第四十九條第二項  
ニ所謂放免ノ日ヲ云フ而シテ犯人主刑ノ時効ヲ得タルルハ主刑ノ終リタル日ナク且ツ監  
視ハ第六十條第一項ニ依リ時効ヲ得サルモノナレハ更ニ其起算點ヲ示サ、ルヘカラス是  
レ本條ニ就捕ノ日ヨリ起算ストアル所以ナリ然レモ時効ヲ得タルモノハ捕搏スルノ要ナ  
シ聊カ語弊アルカ如シ

第二項主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付スル場合ハ第二百二十六條第百九十二條ノ如キ場合ニシ  
テ此等ノ場合ニハ上訴期間經過シタル日即チ裁判確定日ヲ以テ其起算點トスヘキナリ

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ

假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

本條ハ監視假免ニ關スル規定ニシテ其如何ナル情狀アラハ監視ヲ假免スヘキヤ即チ其情  
狀ノ條件ハ法律ニ規定ナキヲ以テ行政官ノ見込ニ依リ受刑者ノ行狀端正ニシテ再犯ノ恐  
ナキト認ムヘキ情狀アルルハ之ヲ假免スルヲ得ヘシ然レモ唯夫レ假免ナル故ニ一旦假  
免シタルモ行狀變シテ再犯ノ恐アルト認ムルルハ再ヒ監視ニ付スルヲ得ヘシ又假免ノ者

ヲ擬シ犯罪ノ實  
行ニ着手シタル  
以上ハ既發未發  
ニ論ナク彈丸ハ  
短銃ト共ニ犯罪  
ノ用ニ供セラレ  
タルモノトス  
(二十九十月  
同上)  
一偽造證書ハ法律  
ニ於テ作成ヲ禁  
制シ社會ニ存在  
スルコトヲ許サ  
ル者ナレハ刑  
法第四十三條一  
項ニ所謂法律ニ  
於テ禁制シタル  
物件ナリ  
(二十九十一月  
同上)  
一數罪俱發シタル  
時ハ主刑ハ重キ  
ニ從テ處斷シ没  
收ノ附加刑ハ之  
ヲ併科ス

(二十九十二月  
同上)  
一沒收ノ刑ヲ宣告  
スルニ當リ符號  
ヲ用ヒテ物件ノ  
明示ヲ欲如スル  
モ押収目録ニ依  
リ之ヲ識別シ得  
ヘキ場合ニアリ  
テハ之ヲ以テ沒  
收ノ物件ヲ明示  
セサルモノトス  
ルヲ得ス  
(二十九十二月  
同上)  
一犯罪供用ノ物品  
ハ縱令犯罪事實  
審理ノ必要上分  
拆スルコトアル  
モ之カ爲メ犯罪  
供用ノ性質ヲ變  
スル者ニ非ス從  
テ之ヲ沒收セシ  
判決ハ相當ナリ  
(三十年一月同

ニハ其期間停止公權ハ自然免セラルヘキモノニアラス蓋シ第三十四條ニ監視ノ期間公  
權ヲ行フコトヲ停止ストハ止タ停止公權ノ期限カ監視ノ期限ト同一ナルヲ示シタルノミニ  
シテ監視ト停止公權カ其性質上相離ルヘカラサル者ナルコトヲ示シタルニアラサレハナリ  
第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ  
第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿期後之ヲ執行ス  
本條ハ附加刑タル罰金ニ關スル規定ニシテ罰金ハ主刑ト附加刑ト問ハス共ニ財產刑タ  
ルハ勿論ノコトニ屬ス從テ納完猶豫、換刑處分等ハ主刑タル罰金ト同一ナルコトヲ示シタル  
モノナリ而シテ之カ宣告ヲ要スルハ其金額ヲ一定スル必要アレハナリ何故ニ輕罪ニ罰金  
ヲ附加シ重罪ニ之ヲ附加セサルヤ蓋シ重罪囚ハ元來死刑又ハ終身又ハ長期間ノ自由刑ニ  
處セラルヘキモノナレハ金刑ヲ附加セサルモ十分刑罰ノ目的ヲ達シ得ヘタ且死刑ノ如キ  
之ニ罰金ヲ附加スルモ毫モ受刑人ヲ罰スルノ効力ヲ有セスシテ寧ロ其家屬ノ生計ヲ失ハ  
シメ受刑外ノ人ヲ罰スルノ傾キアルノミナラス重罪ノ刑ニ處セラルヘキ者ノ如キハ元來  
資力モ乏シキモノナレハ之ヲ科スルハ無益ノ手續ニ歸スルコト多カルヘケレハナリ

第四十三條

左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則  
ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ  
一、法律ニ於テ禁制シタル物件  
二、犯罪ノ用ニ供シタル物件  
三、犯罪ニ因テ得タル物件  
沒收トハ如何沒收トハ財產ヲ國庫ノ所有ニ歸スルヲ云フ抑モ沒收ハ附加財產刑ノ一ニシ  
テ往時ハ歐洲各國及ヒ我國ニ於テモ或犯人ノ總財產ヲ沒收セリト雖モ近時刑ハ一身ニ止  
マルトノ刑罰ノ主義ニ基キ各國之ヲ廢絶ニ歸シ唯法律ノ明文ニヨリ指定セラレタル物件  
ノミヲ沒收スルコトナレリ而シテ本條第一項前段ハ通常ノ沒收例ヲ規定シ後段ハ特別ノ  
沒收例アルコトヲ示シタルモノトス夫レ本條ノ沒收ニ宣告ヲ要スルハ其沒收スル物件ヲ指  
定シ又其物件カ果シテ法律ノ沒收ヲ命シタル物件ナルカヲ證明スル必要アレハナリ而シ  
テ沒收ハ同シク刑罰ナレモ其性質上ヨリ之ヲ論スレハ警察處分ノ性質ヲ有スル沒收アリ

一 郵使稅ヲ免ル、  
 目的ヲ以テ使用  
 濟ノ郵便端書ヲ  
 再ヒ使用シタル  
 時ハ其端書ハ犯  
 用物件トシテ沒  
 收セラレ  
 (三十年二月同  
 上)  
 一 偽造文書ハ法律  
 ニ於テ禁制シタ  
 ル物件ナルヲ以  
 テ官署ニ備付ア  
 ル者ト雖モ當然  
 之ヲ沒收ス  
 (三十年四月同  
 上)  
 一 沒收ノ言渡ハ物  
 件ヲ主眼トシテ  
 言渡スモノナレ  
 ハ其沒收ヲ言渡  
 シタル判決主文  
 ニハ物體ヲ確示  
 スルモノナリ故

一 賣渡證書ヲ沒  
 收ストアレハ正  
 本ニアラサル明  
 カナリ  
 (三十年九月同  
 上)  
 一 犯罪ノ用ニ供シ  
 タル禁制品ハ刑  
 法四十三條一號  
 フ適用シテ沒收  
 ノ言渡ヲ爲スヘ  
 キモノトス  
 (三十年十二月  
 同上)  
 一 沒收ハ一ノ附加  
 刑ニシテ其犯ハ  
 全身一體離ルヘ  
 カラサル關係ア  
 リ犯罪供用ノ物  
 件共犯中ノ一人  
 ノ所有ニ係ル場  
 合ト雖モ他ノ共  
 犯人ニ對シテモ  
 實際ノ利害如何

即チ本條第一號禁制物ニ係ル沒收ノ如キ是ナリ從テ其物件ハ犯人ノ所有ニ屬セサルモ仍  
 ホ之ヲ沒收シ又占有者ノ犯人タルヲ問ハス之ヲ沒收シ又犯人死去後相續人ニ對シテ沒收  
 ヲ執行スルコトヲ得ヘシ之ヲ刑罰トシテ刑法ニ規定スルハ稍々不當ナルヲ覺ユ然レモ其他  
 ノ沒收即チ本條第二號及ヒ第三號ノ沒收ハ元來刑罰ノ性質ヲ有スレハ其物件犯人ノ所有  
 ニ係リ又ハ所有ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス又有罪ノ判決ヲ受ケタルモノニ對スル  
 ニ非サレハ之ヲ宣告スルヲ得ス又犯人死去シタル片ハ之ヲ宣告スルヲ得ス  
 本條第一號法律ニ於テ禁制シタル物件トハ製造、輸入ヲ禁スルノミナラス所有占有ヲモ  
 禁スルモノヲ云フ蓋シ此種ノ物件ハ社會ニ存在スルヲ許サ、ルモノナレハナリ學者或ハ  
 禁制物トハ單ニ其使用ヲ禁スルモノ即チ行使シタル偽造文書ノ如キモ亦禁制物ナリト論  
 スルモノアリ而シテ大審院ノ判決モ之ニ傾ケルカ如シト雖モ學說ノ多數ハ之ニ反對シ尙  
 ホ東京控訴院ノ判決モ同シク反對ノ意見ニ出ツルカ如シ抑モ本問題タルヤ屢次實際ニ起  
 ル問題ニシテ大ニ研究ノ必要アリ今刑法草案註釋ニ就キ之ヲ釋スレハ禁制物トハ物件ノ  
 社會ニ存在スルコトカ公共ニ危險ナルモノヲ禁制物ト云フモノ、如シ且刑法改正案第廿五

條ニモ法律ニ於テ所有ヲ禁シタル物件ハ之ヲ沒收ストアリ尙ホ偽造文書等ヲ常ニ沒收ス  
 ヘキモノトセハ其偽造文書カ犯人ノ手ニ存セス第三者ノ手ニ轉在スル場合ト雖モ之ヲ沒  
 收セサルヘカラサルコトナルノミナラス刑法ハ單ニ偽造ノミヲ以テ罪トナス之ヲ行使  
 スルヲ以テ罪トナスモノナレハ文書ノ偽造ノミハ法律之ヲ禁制シタルモノト云フヲ得ス  
 故ニ禁制物トハ社會ニ存在ヲ許サ、ル即チ所有及ヒ占有ヲ禁シタルモノト解釋スルノ正  
 當ナルヲ覺ユ從テ猥褻ノ冊子ハ其販賣ノミヲ罰シテ其製造ト所有トヲ罰セサレハ假令之  
 ヲ所有スルモ沒收セラル、ノ恐レナキト云フヘシ蓋シ法律ニ於テ其所有ヲ禁セス即チ禁  
 制物ト見ルヘカラサレハナリ  
 第二號犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ直接ニ其用ニ供シタルモノヲ云フ故ニ阿片烟ヲ喫セ  
 シ家屋ノ如キ間接ノ供用物ハ之ヲ沒收スヘカラス又犯罪供用ノ物件ハ其罪ノ成立スルヲ  
 要スルハ勿論ナリ故ニ既遂犯未遂犯及ヒ豫備ノ所爲ヲ罰スル場合ニ用キタル物件ハ之ヲ  
 沒收シ其他ノ豫備ノ用ニ供シタルモノハ沒收スヘカラス又事後ノ供用物モ亦沒收スヘキ  
 モノニアラス猶ホ贓品ヲ運搬シタル馬車ヲ沒收スヘカラスカ如シ又犯罪供用ノ物件ト

ニ拘ラス没収ヲ  
言渡スハ不當ニ  
非ス  
(卅一年一月全  
上)

○民法第七條  
心神喪失ノ常況ニ  
在ルモノハ禁治  
產者ヲ宣告シ後  
見人ニ付ス

○民法第十二條  
心神弱者豐饒者  
及ヒ浪費者ハ之  
ヲ保佐人ニ付ス

○家資分散法  
(明治二十三年  
八月法律第六  
十九號)

第一條 民事訴訟  
法ノ強制執行處  
分ニ因リ義務ヲ  
辨濟スル資力ナ  
キ債務者ニ對シ  
テハ云々  
一商法ニ破産ノ

罪体ナル物件トヲ混同スヘカラス罪体トハ犯罪ヲ組成スル要素ヲ云ヒ犯罪供用ノ物件ト  
ハ罪ヲ犯スニ用キタル物件ヲ云フ例ヘハ刑法第四百廿五條ノ規則ヲ遵守セスシテ火藥ヲ  
市街ニ運搬シタルモノアリトセハ其火藥ハ犯罪ヲ組成スル要素ニシテ罪体ナレハ之ヲ沒  
收スヘキニアラス而シテ之ヲ運搬シタル舟車モ罪体ナレハ之ヲ沒收スヘキニアラス又犯  
罪供用物件ニ付必要ナル要素ハ其罪質必ラス有意犯ナルヲ要ス故ニ過失殺傷ヲ生セシメ  
タル銃砲等ハ沒收スヘキモノニアラス然リ而シテ犯罪供用物件ヲ沒收スルノ理由ハ蓋シ  
此物件ヲ犯人ニ還付スルハ何人モ不快ノ感ナキ能ハサルノミナラス再犯ヲ豫防スル爲メ  
ナレハナリ

第三號犯罪ニ因テ得タル物件トハ官許ヲ得スシテ開キタル劇場ノ收入ノ如キ所有權ヲ得  
タル物件ヲ云フ故ニ贓品ハ犯罪ニ因テ得タル物件ト云フヘカラス抑モ贓品ノ如キハ正當  
ノ所有者ヲ發見シテ之ニ還付スヘキモノニシテ之ヲ發見セサルハ無主物トシテ國庫ノ  
所得ニ歸スルニ過キス故ニ斯ル官沒ハ一個ノ刑罰ニアラス又本號沒收ノ物件ハ犯罪ニ因  
テ得タル物件其者ヲ云ヒ其物件ヲ賣買又ハ讓與シテ得タル第二又ハ第三ノ利益ヲ云フニ

○規定セリ

○第二百六條  
内亂ノ豫備又ハ  
陰謀ヲ爲スト雖  
モ未タ其事ヲ行  
ハサル前ニ於テ  
官ニ自首シタル  
者ハ本刑ヲ免シ  
六月以上三年以  
下ノ監視ニ付ス

○第九十二條  
貨幣ヲ偽造變造  
シ及ヒ輸入取受  
シタル者未タ於  
テ官ニ自首シタ  
ル時ハ云々

○狩獵禁制ノ場所  
ニ於テ狩獵ヲ爲  
シタルハ狩獵  
ニ用キタル銃及  
ヒ網等ハ罪体ニ  
シテ犯罪ノ用ニ  
供シタル物件ニ  
アラス

非ラス然ルニ學者或ハ本號ニ犯罪ニ因テ得タル物件トアリテ犯人ニ所有權アルト占有權  
アルトヲ區分セサルヲ以テ犯人ハ贓物ニ占有權アレハ贓物ハ犯罪ニ因テ得タル物件ナリ  
ト云フニ何等ノ差支ナシト論スルモノアリ又實際ノ判例モ之ニ傾ケリト雖モ得タルトハ  
所有權ヲ得タルモノト解釋スルヨリ外其道ナケレハ前述ノ解釋ノ正當ナルヲ覺ユルノミ  
ナラス刑法改正案ニモ之ヲ明瞭ニ規定シテ犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物件ト  
云ヘリ亦以テ其何レカ正解ナルヲ知ルヘシ

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ

沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ  
係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス

本條ニ於テ前條第一號ノ禁制物ハ何人ノ所有物タルヲ問ハス之ヲ沒收スルハ其物件ノ存  
在スルノミカ社會ノ危害トナル物件ナレハナリ而シテ第二號ノ犯罪供用物及ヒ第三號ノ  
犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係ルハ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收セサルハ刑

(卅年十月大審院判決)

一 共犯ヨリ生シタル損害ハ職權ヲ以テ連帶ノ賠償ヲ命スルコトヲ得ス

(廿四年四月大審院判決)

一 親屬相盜ニ依テ得タル物件ハ贓物ト稱スヘカラス何トナレハ刑法上罪ヲ問ハサルモノナレハナリ

(廿五年七月決議) 一 被害者ヨリ連帶

罰一身ニ止マルノ原則ニ從フモノナリ所有主ナキ時トハ絶對ニ其物件カ無主物ナル時ノミニ限ラス所有主ノ知レサル場合ヲモ云フ而シテ所有主知レサル場合トハ所有主ノ有無不知ヲ云フニアラス其住所氏名ノ知レサル場合ヲ云フ

#### 第四節 徵償處分

徵償處分トハ損害ヲ賠償セシムル處分ヲ謂フ元來本處分タルヤ刑罰以外ノ民事責任ニ關スルモノナレハ刑法ニ規定スヘキモノニアラスト雖モ是ハ立法論ニ涉ルヲ以テ之ヲ避ケ逐條之カ解釋ヲ試ムヘシ

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

刑事裁判費用トハ証人醫師鑑定人通辯翻譯人ノ旅費日常解剖舍密ノ費用等ヲ云フ而シテ此等ノ費用額ハ刑法附則ニ規定セリ抑モ此等ノ費用ヲ犯人ニ科スルハ蓋シ何事ヲ問ハス不正ノ所爲ニ因リ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ其損害ヲ償ハサルヘカラストノ民法上ノ原則ニ基クモノニシテ其費用ノ負擔額ヲ全部又ハ幾分ト區分シタルハ多數ノ証人鑑定人等

ヲ請求スルニ非サレハ強テ連帶セシムルヲ得ス

(同上) 一 株式仲買又ハ國立銀行ヲ經テ賣買シタル公債證書ハ原價ヲ償フニアラサルコトヲ得ス

(同上) 一 贓金ヲ以テ買得シタル毛布ノ如キハ禁制品ニアラス又犯罪ニ因テ得タル物件ニモ非サレハ即チ買取者ノ所有物ナルヲ以テ之ニ下附スヘキハ勿論ナリ

(同上) 一 贓物カ典舖又ハ買主ノ手ニ現存

ヲ曉問スルカ如キ場合ニ於テ其費用全部カ犯人ノ所爲ニ出テタルモノト謂フ能ハサルコトアルノミナラス起訴ノ其當ヲ得スシテ違警罪ヲ輕罪ト輕罪ヲ重罪ト訴フルコトアリテ事件愈々重大ナレハ其費用愈々巨額ニ至ルコトアルヘケレハ此等ノ場合ニ其費用ノ全部ヲ犯人ノ負擔トスルハ不當ナルヲ以テ其幾分ヲ割テ負擔セシムヘキヲ要スレハナリ本條ノ犯人トハ廣ク被告人ヲ云フニアラス被告人ノ有罪ト爲リタルモノヲ云フ故ニ無罪又ハ免訴ノ場合ニハ其費用ハ國庫ノ負擔ニ歸スルモノタルコトハ刑事訴訟法第二百一條ニ規定スル處ニシテ其國庫ノ負擔ニ歸スル所以ハ本來被告ヲ嫌疑シタルハ其過誤官ニアルヲ以テナリ

第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セララル、ト雖モ被害者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免カル、コトヲ得ス

本條ハ何人ヲ問ハス他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ其意思ノ善惡ヲ論セス之ヲ賠償セサルベラズトノ民法上ノ原則ヲ適用シタルニ過キス而シテ前條ハ刑事裁判費用ニ關シ本條ハ贓物ノ還給及ヒ損害ノ賠償ニ關セリ即チ本條ハ刑事訴訟法第二條ノ私訴ノ目的物ニ關スル

ズルモ被害者ノ請求アルニ非サレハ還給セス  
 (同上)  
 一 公訴費用ハ控訴理由アルモ無罪ヲ免訴ノ外ハ負擔ヲ免セス  
 (二十七年十月大審院判決)  
 一 公訴裁判費用ヲ負擔セシムルニ付テハ法律上其理由ヲ明示スヘシトノ規定アルニ非サルヲ以テ特ニ之ヲ明示セサルモ不法ト云フヲ得ス  
 (二十七年十月同上)  
 一 裁判費用ノ點ニ對シテモ控訴シタリトスルモ裁判費用ハ常ニ本

モノニシテ贓物ノ還給トハ強盜等ノ物件ノ返還ヲ云ヒ損害ノ賠償トハ他人ノ身体財産等ニ及ホシタル損害ノ辨償ヲ云フ抑モ有罪人ヲ刑罰ニ處スルハ社會ノ安寧ヲ害シタルニ付テノ社會ニ對スル償ヒニシテ被害者一巳ノ民事上ノ償ヒニハ毫モ關係ヲ有セス故ニ犯人カ刑ヲ受ケタルヲ以テ民事上ノ賠償ヲモ完フシタルト謂フヲ得サレハ犯人ハ被害者ノ請求ニ對シ贓物ハ還給シ損害ハ賠償セサルヘカラサルハ論ヲ俟タス如此被告人刑ノ言渡ヲ受クルモ猶ホ此責任アリ況ヤ放免ノ場合例ヘハ錯誤ニ因リ他人ノ物件ヲ占有シタル場合等ニ於テ密盜罪ハ放免セラルヘキモ物件ハ必ス還給セサルヘカラサルノミナラス其物件既ニ費消ノ片ハ其價ヲ賠償セサルヘカラサルハ勿論ノコトニ屬ス是レ本條ノ規定アル所  
 以ナリ本條ノ犯人トハ誤弊アリ被告人ト改ムヘキカ  
**第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ナシテ之ヲ連帶セシム**  
 本條ハ數人ニテ同一ノ目的及ヒ同一ノ利益ヲ以テ他人ニ損害ヲ加ヘタル片ハ其損害ヲ起スノ共同意思ハ固ヨリ連帶ナルヲ以テ其損害ヲ賠償スルモ亦連帶ナルヘシトノ民法上ノ

案ノ判決ニ附從スルモノナレハ特ニ判決セサル限リハ本案ト存廢ヲ俱ニスルモノナリ故ニ本案モヲ棄却シタル場合ニハ裁判費用ノ點ニ付テモ棄却セラレタルモノトス  
 (廿七年十一月大審院判決)  
 一 材木賣買ノ仲次營業者ヲ以テ刑法附則五十五條ニ所謂公商ト認ムヘキモノナルヤ否ヤノ問題ハ事實上ノ判斷ニ屬スヘキモノトス  
 (三十年十一月同上)  
 一 公商ニ依リ買取

原則ニ基キタルモノナリ抑モ共犯トハ後ニ詳述スヘシト雖モ共犯ハ數人ニテ同一ノ目的及ヒ同一ノ意思ヲ以テ同一ノ罪ヲ犯シタルモノナレハ其犯罪ノ意思ハ固ヨリ共通ナルヲ以テ刑事上ハ勿論民事上ト雖モ其費用ノ賠償等ハ各自其全部ヲ連帶シテ負擔スヘキモノタルヤ論ヲ俟タス是レ本條ノ規定アル所以ニシテ本條ニ共犯トアルヲ以テ正犯ノミヲ云フニ在ラス從犯モ亦之ニ包含ス又連帶トハ其効力他ノ義務者ノ無資力ニ對シ其權利者ヲ擔保スルモノ即チ之ヲ換言スレハ義務者中ノ一人資力アリテ他ノ者ハ資力ヲ有セサル片ハ其他ノ者ノ爲メニモ亦其義務ヲ辨償スヘキモノトス但其他ノ者ニ對シ其辨償部分ヲ認求スルノ權利アルハ論ヲ俟タス然レモ被害者ヨリ連帶ヲ請求スルニアラサレハ強テ連帶セシムルヲ得サルハ又勿論ノコトニ屬ス  
**第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得若シ贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ請求ナシト雖モ直ニ之ヲ被害者ニ還付ス**  
 本條ハ裁判費用等ヲ審判スル管轄裁判所及ヒ其請求ノ必要ノ有無ニ付規定シタルモノニ



シタル外現物ヲ除  
 被害者ニ無償還  
 給フ爲スヘキモ  
 ノトス  
 (三十年十一月  
 同上)  
 一 背信罪ニ  
 シト論スルモ刑  
 法四百一條ニ詐  
 欺取財其他ノ犯  
 罪ニ關スル云々  
 トアレハ賍物タ  
 ル論ヲ俟タス故  
 ニ賍物返還ノ義  
 務アリトシタル  
 ハ當然ナリ  
 (同上)  
 一 妻ノ犯罪ニ因テ  
 他人ニ加ヘタル  
 損害ハ其夫民事  
 賠償人トシテ賠  
 償ノ責ニ任スヘ  
 キモノトス  
 (三十年十二月

シテ本條ニ所謂刑事裁判所トハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ヲ云フ若シ其審判終リタル  
 片ハ民事裁判所ニ非ラサレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス又犯人賠償ノ宣告ヲ受ケ賠償セサル  
 片ハ民事裁判所ニ強制執行ヲ求ムルコトヲ得ヘク又其犯人死去スル片ハ相續人ニ對シテ之  
 ヲ要求スルコトヲ得ヘキコトハ刑法附則ノ規定スル所タリ而シテ賍物ノ返還ニ付テハ賍物犯  
 人ノ手ニ現存スル片ハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ被害者ニ還付スルハ便宜上ノ理由ニ  
 基キタルモノニシテ直チニ文字ハ被害者ノ請求ヲ俟タストノ意義ニ出タルモノナレハ  
 其意義重複スルヲ以テ無用ノ文字タルヲ免レス若シ賍物轉讓シテ第三者ノ手ニアル片ハ  
 現占有者ニ對シ其請求ヲ爲スヘキモノニシテ盜品遺失品ハ其返還ヲ請求シ得ヘシト雖モ  
 其他ノ賍物ハ其返還ヲ請求シ得サルコトハ民法ノ規定スル所タリ而シテ此場合ニ付刑法附  
 則ハ民法執行法ニ依リ其多數ノ規定ヲ刪除セラレタリ  
 上述ノ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償賍物ノ返還ヲ目的トスル請求ハ民法ニ從ヒ被害者  
 ニ屬スヘキモノニシテ之ヲ私訴ト云フ抑モ私訴ハ其時効ノ期間ハ刑事訴訟法ノ時効期間  
 ヲ適用スヘク之ヲ審判スルニハ總テ民事訴訟法ノ規定ヲ用ユルヲ要セス又其判決ノ理由

同上)  
 一 犯罪人ナリトシ  
 テ告訴ヲ受ケレ  
 ハ其當時既ニ名  
 譽ヲ毀損シ損害  
 ヲ受ケタルモノ  
 ナリ故ニ名譽回  
 復ノ爲メ新聞紙  
 ニ廣告ヲ請求ス  
 ルハ新聞社カ廣  
 告掲載ヲ承諾セ  
 サル以前ニ在テ  
 モ告訴者ニ廣告  
 料ノ支拂ヲ命ス  
 ルハ當然ナリ  
 (卅一年一月同  
 上)

一 上訴中未決拘留  
 ヲ受サルモノニ  
 在テハ上訴中ノ  
 日數ヲ刑期ニ算  
 入セスシテ刑ノ  
 執行ヲナスヘキ

ニハ公訴ノ判決ノ理由ヲ援用スルヲ得ヘク其上告ハ刑事裁判所ニ爲スヘキモノナリト雖  
 モ豫審判事ハ元來証憑ヲ蒐集シテ犯罪事實ノ有無ヲ推測シ之カ言渡ヲ爲スニ止マルモノ  
 ナレハ私訴ノ裁判ヲ爲スヲ得ス而シテ一旦私訴トシテ提起シタル上ハ公訴ノ消滅ニヨリ  
 私訴ハ消滅スヘキモノニアラスシテ私訴ニ付テハ相當ノ判決ヲ爲サルヘカラス例ヘハ  
 賍物返還ヲ目的トシテ私訴ヲ提起シタル場合ニ之ヲ賍物ナリト判定シ得サル事實アリト  
 スルモ附帶トシテ受タル私訴ハ直チニ之ヲ斥クヘキモノニアラス即チ之ヲ換言スレハ犯  
 罪ニ因テ生シタル被害ト認め難シトノ理由ヲ以テ之ヲ棄却スヘキモノニアラスシテ民事  
 原告人ノ求メニ對シ相當ノ判決ヲ與ヘサルヘカラス

第五節 刑期計算

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時間ヲ以テシ  
 一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ  
 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セ

モノトス  
 (法曹會決議)  
 一 上訴中ノ日數ヲ  
 刑期ニ算入スル  
 ハ必ス公判宣告  
 ニ對スル時ニ限  
 正當ナルトス故  
 ルモノトス  
 控訴院ノ會議局  
 カ重罪裁判所ニ  
 送付スルノ言渡  
 送對スル上告ナ  
 ルニ於テハ其上  
 告カ正當ナルモ  
 其日數ヲ刑期ニ  
 算入スルヲ得  
 (同上)  
 一 被告人一審判決  
 ニ服セシ控訴ノ  
 申立ヲ爲シ同  
 ニ豫納金ノ免除  
 ヲ申請シタルニ  
 第二審ニ於テ之  
 カ免除ヲ與ヘス

ス

本條ハ刑ノ期間計算方ヲ規定シタルモノニシテ上述ノ如ク刑罰ノ最多數ハ自由刑ニ屬シ  
 而シテ自由刑ハ主トシテ期間ヲ以テ計算スルモノナレハ其期間ノ計算方ヲ一定スルノ必  
 要ヲ生ス是レ本節ノ規定アル所以ナリ無期刑ハ其名稱ノ如ク期限ヲ計算スルノ必要ナキ  
 カ如シト雖モ必ラスシモ其必要ナキニアラス例ヘハ假出獄ノ場合ニ於テ之ヲ見ル即チ無  
 期徒刑ノ十五年ヲ計算スヘキ時ノ如キ是ナリ又免幽閉ノ場合ニ於テ之ヲ見ル即チ無期流  
 刑ノ五年ヲ計算スヘキ時ノ如シ  
 夫レ普通年月日ヲ計算スルハ總テ曆ニ從フモノ、如シト雖モ若シ刑期ヲ計算スルニ此計  
 算法ニ依ルハ月ノ大小ニヨリ犯人ニ幸不幸ヲ生スルヲ以テ其長短ノ差ヲ避ケンカ爲メ  
 總テ曆ニ從フコト爲サスシテ一日ハ廿四時間ヲ以テ計算シ一月ハ三十日ヲ以テ計算スル  
 コトト定メタルナリ而シテ一年ハ曆ニ從フコト爲シタルハ假令年ニ潤年アルモ僅カ一日  
 ノ差アルノミナルヲ以テ便宜上曆ニ從ハシメタルナリ故ニ宣告ノ刑期若シ日數ヲ以テス  
 ルハ其宣告ノ日數ヲ二十四時ニ乘シタルモノヲ以テ其受刑期間トシ宣告ノ刑期若シ月

シテ一審判決  
 定ノ後檢事總長  
 ヲ以テ非常上告  
 第一審判決ノ  
 一部ヲ取消シタ  
 ル場合刑期ノ起  
 算ハ非常上告ノ  
 爲メ變更ヲ來ス  
 一 且ツ法律規定  
 ハ司法大臣ノ命  
 令又ハ檢事總長  
 權ヲ以テ前確定  
 判決ノ不法ヲ救  
 正セシカ爲メニ  
 檢事總長ニシテ  
 ハモノニシテ被  
 告ノ利益ナルカ  
 最モ初ニ第五  
 一審判決ノ起  
 算點ハ之カ爲メ  
 影響ヲ被ムラ  
 キモノニアラス

數ヲ以テスルハ其宣告ノ月數ヲ二十日ニ乘シタルモノヲ以テ其受刑期間トシ宣告ノ刑  
 期若シ年數ヲ以テスルハ其宣告ノ年數ヲ曆ニ從テ計算シ其執行ヲ始メタル年ノ月日ニ  
 中ル月日ノ前日ヲ以テ期間満了スヘキモノトス  
 第二項受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス之ヲ一日ニ算入シ放免ノ日ハ之ヲ算入セサル理由ハ若  
 シ受刑ノ初日ヨリ時間ヲ以テ日數ヲ計算スルハ其滿刑放免或ハ午前或ハ午後特ニ深更  
 ニ於テセサルヘカラサルコトナルヲ以テ其處分ノ煩雜ナルノミナラス犯人ニモ時刻遅ケ  
 レハ不便ナルニ依リ其初日ハ之ヲ算入スルコト爲シ其放免ノ日ハ期間ニ算入セサルコト  
 爲シタルナリ如此受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入スルカ故ニ午後ノ宣告モ一日ト  
 ナリ犯人ニ利益ナルカ如シト雖モ今日刑期満了スルモ放免ハ明日ヲ俟タサルヘカラサレ  
 ハ其利益ハ刑期ノ終リニ於テ相償フモノト謂フヘシ而シテ監獄則ニ依レハ刑期滿限ノ翌  
 日午前十時前ニ解放スヘキモノトセリ  
 第五十條 刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス  
 裁判確定前ハ訟關係人ハ刑事訴訟法ノ規定ニヨリ故障控訴上告等ヲ爲シ得ルヲ以テ假

(同上)  
 一、審ニテ無罪ヲ  
 言渡シタル判決  
 ニ對シテ檢事控訴  
 フナシ第二審ニ  
 於テ有罪ト判決  
 シタル場合ハ前  
 判宣告ノ日ヨリ  
 刑期ヲ起算ス  
 (同上)  
 一、欠席判決ノ場合  
 ニ於テハ逮捕狀  
 執行ノ日ヨリ刑  
 期ヲ起算ス  
 (同上)  
 一、上訴ノ取下ラナ  
 シタルハ其書  
 面ヲ上訴裁判所  
 ニ受理シタル日  
 ヨリ刑期ヲ起算  
 ス  
 (同上)  
 一、辯護人ノナス上  
 訴ノ申立ハ被告  
 人ノ意思ニ出タ

令判決アルモ其判決確定後ニアラサレハ之ヲ執行シ得サルハ論ヲ俟タス是レ刑罰ハ之ヲ  
 執行スルキハ之ヲ回復スルヲ得サルヲ以テナリ而シテ判決ハ法定ノ故障及ヒ上訴期間ノ  
 經過又ハ上告ニ對スル判決ニ依リテ確定スルモノナルコトハ亦論ヲ俟タス或場合ニハ判  
 決確定スルモ猶ホ直チニ執行セサルモノアリ死刑ノ如キ是ナリ蓋シ死刑ハ前述ノ如ク極  
 刑ナルヲ以テ司法大臣ノ命令ヲ俟テ之レヲ執行スヘキモノナレハナリ其他刑法第十四條  
 (祭日)第十五條(懐胎ノ婦女)第廿七條(罰金)第三十條(科料)ノ如キ場合ニハ各其法定ノ  
 期間ヲ經過スルニアラサレハ執行スヘカラス是レ本條ニ確定ノ後トアリテ確定日ヨリ執  
 行ストアラサル所以ナリ

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者  
 ハ左ノ例ニ從フ

- 一、犯人自ら上訴シテ其上訴正當ナルキハ前判宣告ノ日ヨリ起算  
 ス若シ其上訴不當ナルキハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 二、檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判

宣告ノ日ヨリ起算ス

三、上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入  
 スルヲ得ス

ル要セザレモ其  
 上訴ハ被告ノ人  
 代テナスモノナ  
 レハ上訴不當ナ  
 ル場合ニ於テハ  
 上訴判決ノ日ヨ  
 リ刑期ヲ起算ス  
 (同上)  
 一、欠席判決ヲ受ケ  
 居ル者他ノ犯罪  
 ノ爲メ逮捕セラ  
 レタル片其刑期  
 ハ逮捕ノ日ヨリ  
 起算ス  
 (同上)  
 一、刑法五十一條ニ  
 刑期ハ刑名宣告  
 ノ日ヨリ起算ス  
 トアルハ單ニ上  
 訴ヲ爲ササル場  
 合ヲ定メタル者  
 トス而シテ同條  
 ノ二號ニハ刑名  
 ノ文字ナキヲ以

本條ハ主トシテ刑期ノ起算點ヲ規定シタルモノニシテ其第一項ニ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨ  
 リ起算ストハ自由刑ノ宣告ニ係リ被告人ノ未決拘留ニアリテ上訴即チ控訴上告ヲ爲サバ  
 ル場合ニ付テ規定シタルモノナリ故ニ刑ノ宣告ヲ受ケテ其執行迄未決拘留ニアラサル者  
 ノ刑期ハ宣告ノ日ヨリセシテ裁判確定ノ當日ヨリ之ヲ起算スヘキナリ違警罪ノ拘留ノ  
 刑又ハ未決拘留セラレサル輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノ、如キ是レナリ而シテ其自由刑  
 ノ宣告ヲ受ケタルモノニシテ未決拘留ニアル者カ上訴ヲ爲サ、ル場合ニ於テ刑ノ宣告當  
 日ヨリ刑期ヲ起算スル所以ハ蓋シ其刑ノ宣告ヲ受テヨリ執行ニ至ルマテ未決拘留ニアリ  
 テ身体ノ拘禁ヲ受ケタルモノハ深ク苦痛ヲ感シテ實際刑ヲ執行セラレタルト殆ント同一  
 ナルヲ以テナリ抑モ刑期起算點ヲ定ムルニ付テハ三個ノ學說アルカ如シ曰ク刑期起算點  
 ハ裁判宣告ノ日ヲ以テスヘシ曰ク刑ヲ執行ニ着手シタル日ヲ以テスヘシ曰ク裁判確定ノ

テ其前判宣告ノ  
 法文ニハ無罪ノ  
 宣告モ亦該當ス  
 (廿四年十一月  
 大審院判決)  
 刑罰法五十二條ニ  
 ノ法文ニハ被告  
 及ヒ檢察官ヨリ  
 同時ニ上訴ヲ爲  
 シタル場合及檢  
 察官カ附帶上訴  
 フ爲シタル場合  
 ニモ之ヲ包含ス  
 (廿四年十二月  
 同上)  
 一 上訴中ニ係ル日  
 數ヲ刑罰ニ算入  
 スルハ必ス公判  
 宣告ニ對スル上  
 訴正當ナル時ニ  
 限ルモノトス故  
 ニ其他ノ言渡ニ  
 對スル上訴ハ正  
 當ナルモ刑罰ニ  
 算入スルヲ得ス

日ヲ以テスヘシト是レナリ第一說ニ依リ裁判宣告ノ日ヲ以テ刑罰ノ起算點トスヘシトセ  
 ハ刑ハ裁判確定前ト雖モ之ヲ執行スルコトナルノミナラス法律ニ於テ苟クモ上訴ヲ許ス  
 限リハ其上訴期間ノ經過セサル内ハ刑ヲ執行スルニ由ナカルヘキヲ以テ第一說ハ取ルニ  
 足ラス又第二說ニ依リ刑ノ執行ニ着手シタル日ヲ以テ刑罰ノ起算點トスヘシトセハ各場  
 合ニ於テ刑ノ執行ニ着手シタル日ヲ異ニスルノ錯雜ヲ來タスノミナラス刑ノ執行ニ着手  
 シタル日ヲ以テ刑罰ノ起算點ト爲スヘシトハ猶ホ刑罰ノ起算點ヨリ刑罰ヲ起算スヘシト  
 云フニ同シク無意義ノ論理ト云ハサルヘカラス因テ此說亦取ルニ足ラス第三說裁判確定  
 ノ日ヲ以テ刑罰ノ起算點トスヘシトノ說ハ最モ其當ヲ得タルモノト謂ハサルヘカラス何  
 トナレハ刑罰ノ國家ニ刑罰執行權ノ發生スル日ヨリ起算スヘキハ素ヨリ論スル迄モナク  
 而シテ國家ニ刑罰執行權ノ發生スルノ日ハ即チ裁判確定日ナルコト亦論スル迄モナケレハ  
 ナリ刑法改正案ハ此第三說ニ依レリ  
 上述ノ規定ハ被告人上訴ヲ爲サ、ル場合ニ係ルモノタルコトハ前述ノ通り若シ夫レ裁判  
 ノ宣告ニ對シ上訴ヲ爲シタル場合ハ如何本條第一號ハ犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル

(廿五年三月大  
 審院判決)  
 一 被告カ控訴申立  
 成立セサルモ其  
 後檢事總長ノ非  
 常上訴ニ依リ前  
 判決ヲ破毀スル  
 判ハ刑罰計算ハ  
 前判決宣告ノ日  
 ヨリ起算ス  
 (廿五年五月同  
 上)

一 上訴ヲ爲シ後取  
 下願書ヲ提出シ  
 其間屆アレハ上  
 訴不當ノ場合ト  
 同ニ歸スルヲ  
 以テ開届ノ日迄  
 ハ刑罰ニ算入ス  
 ルヲ得ス  
 (廿五年九月同  
 上)  
 一 被告ノ上告理由  
 アリテ破毀ノ後  
 第二控訴院ニ繫

片ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス其上訴不當ナル片ハ後判宣告ノ日ヨリ起算スト規定セリ是  
 レ蓋シ法律ハ上訴權ヲ被告ニ附與シタリト雖モ被告ニシテ其權ヲ濫用シタル片即チ上訴  
 カ不當ナル片ハ法律ハ之ヲ保護セシテ後判宣告ノ日ヨリ刑罰ヲ起算シ被告ニシテ其權  
 ヲ正當ニ行使シタル片即チ上訴カ正當ナル片ハ法律ハ之ヲ保護シテ前判宣告ノ日ヨリ起  
 算スト爲シタルナリ又第二號檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前  
 判宣告ノ日ヨリ起算スト爲シタルハ蓋シ檢事ノ上訴カ正當ナル片ハ前裁判ハ不當ナリ此  
 不當ノ裁判ヲ匡正センカ爲メ上訴審判中ノ拘留ヲ受ケタル不利益ヲ被告ニ歸スルノ理ナ  
 ク又其上訴不當ナル片ト雖モ其不當ノ責ハ檢事ニ在リテ被告ニアラサレハ是亦其前述ノ  
 不利益ヲ被告ニ歸スルノ理ナケレハ其上訴ノ當不當ヲ問ハス前判宣告ノ日ヨリ起算スト  
 爲シタルナリ又第三號上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑罰ニ算入スル  
 コトヲ得スト爲シタルハ蓋シ保釋ハ刑事訴訟法第五十條ニ責付ハ同法第五十九條ニ各  
 規定ノ通り何レノ場合ニ於テモ被告人ハ其保釋又ハ責付中ハ拘留ヲ受ケサルヲ以テ其日  
 數ヲ刑罰ニ算入スルコトヲ得ザルト爲シタルナリ然レモ保釋責付ノ當日ト之ヲ取消サレタ

屬中ニ於テ被告ノ控訴取下ケアリタリ。場台ニ刑期ハ一審判決ノ日ヨリ大審院破毀ノ日迄算入スヘキモノトス。(廿七年三月同)

一 上訴相當ナリシ効果トシテ刑期ヲ一審刑名ノ宣告ノ日ヨリ起算スル場合ニ於テ一審裁判力欠缺判決並ニ對席判決ノ二個アリタリ時ハ其對席判決宣告ノ日ヨリ起算スヘシ何トナレハ欠席判決ハ故障ノ受理ニ依テ消滅スルヲ以テナリ。(廿七年五月同)

ル當日トハ共ニ刑期ニ算入スヘキハ論フ俟タス

前述ノ如ク現行法ハ刑名宣告後ノ未決拘留ノ日數ヲ刑期ニ算入スヘキモノト爲シタレハ宣告前ノ未決拘留ト雖モ被告人ニ其責ナクシテ裁判官ノ都合ニ依リ其拘留日數ヲ延長スルコトアルヘキヲ以テ之カ刑ノ程度ニ從ヒ區別ヲ設ケテ同シク刑期ニ算入スヘキモノタルコトハ亦其當ヲ得タルモノト云フヘシ刑法改正案ニハ裁判確定ノ日ヨリ刑期ヲ起算スト規定シ未決拘留日數ハ宣告前タルト後タルト問ハス刑ノ種類ニ從ヒ區別ヲ設ケ其幾分ヲ本刑期ニ算入スヘキモノトナセリ亦以テ本條ニ對スル學說ノ一斑ヲ徵スルニ足ルヘシ本條ノ適用トシテ被告人第二審ニ敗訴ト爲リ上告シテ勝訴ト爲リタルハ第一審ノ宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘク又被告人第二審ニ勝テ檢事上告ヲ爲セハ其上告ノ當否ヲ問ハス亦第一審ノ宣告ノ日ヨリ起算スヘク又檢事控訴ヲ爲セハ勝敗ニ拘ハラズ第一審宣告ノ日ヨリ起算シ被告人ニ對シテ上告ヲ爲シタルハ勝敗ニ拘ハラズ是亦第一審宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘシト雖モ敗訴ノ場合ニハ第二審宣告ヨリ上告宣告ノ日迄ノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入スヘカラズ又檢事ノ上訴ニ付被告人附帶ノ上訴ヲ爲シタルハ其双方又ハ

一 刑法五十一條ニ上訴ノ場合ニハ上訴ノ結果犯人ノ利益トナルト否トニ拘ラス其日數ヲ刑期ニ算入スヘキモノトス故ニ被告カ上訴ヲ爲シタルモ檢事ノ附帶上告アル時ハ其上告ノ正當ナルト否トニ拘ラス前判ノ日ヨリ刑期ヲ起算セサル可ラス(廿七年六月同)

一 刑法五十一條三號ノ規定ハ上訴中ニ保釋又ハ責付セラレ居リタル者ハ上訴完結ノ前後ヲ問ハス其ノ保釋又ハ責

一方ノ當不當ヲ問ハス前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算シ被告人ノ上訴ニ付檢事附帶ノ上訴ヲ爲シタルハ檢事ノ附帶上訴カ上訴期間内ニ提起セラレタルト否ラサルト問ハス是亦前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘキナリ何トナレハ檢事ノ上訴ハ一旦之ヲ起セハ取テ下ルコト能ハサルノミナラス(刑、訴、二百四十六條)被告人上訴ヲ取下ルモ檢事ノ附帶上訴ハ獨立シテ判決ヲ受クヘキモノナレハナリ

附加刑ノ點ニ付上訴ニ勝テ主刑ノ點ニ付敗ヲ取リタルハ前判宣告ノ日ヨリ起算スヘキハ論フ俟タス何トナレハ本條第一號ハ一部正當ト全部正當トヲ區別セサレバナリ

上告取下ヲ願出タルハ上訴不當ノ場合ト同一ナルヲ以テ第二審裁判宣告ヨリ其取下願聞届ノ日マテハ刑期ニ算入スルヲ得ス

第一審ニ於テ無罪ヲ言渡シタル判決ニ對シ檢事控訴ヲ爲シ第二審ニ於テ有罪ト判決シタル場合ハ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算ス

被告人ノ法律上ノ代理人獨立シテ上訴シタルハ(刑、訴、二百四十四條)上訴ノ當不當ヲ問ハス前判ヨリ起算スヘキハ亦論フ俟タス何トナレハ法律上ノ代理人ハ自己ノ任務ヲ盡ス

付中ノ日數ハ刑  
期ニ算入スルコ  
トヲ得ストノ趣  
旨ナリト解釋ス  
ルヲ相當トス何  
トナレハ即チ身  
體ノ拘束ヲ受ケ  
サル保釋又ハ責  
付中ノ日數ヲ刑  
期ニ算入スルノ  
理アラサレハナ  
リ

（廿八年七月同  
上）  
一 甲裁判所ノ判決  
ニ對シテ控訴ヲ爲  
シタルニ控訴院  
ニ於テ管轄違ノ  
理由ヲ以テ事件  
ヲ乙裁判所ニ移  
スノ言渡ヲ爲シ  
其判決確定シタ  
ル時ハ甲裁判所  
ノ訴訟手續ハ全  
然無効ニ歸スヘ  
キ

爲メ法律ノ許シテ受タルモノナレハナリ

辯護人ノ上訴ハ被告人ノ意思ニ出タルコトノ証明ヲ要セサレモ其上訴ハ被告人ニ代リテ爲スモノニシテ獨立ノモノニアラサレハ上訴不當ナル場合ニ於テハ後判ヨリ起算ス  
第一審ヲ裁判ニ服セスシテ第二審ニ控訴シタルモ棄却セラレタルヲ以テ大審院ニ上告シテ破棄セラレ某控訴院ニ移サレタリ此間ノ日數ハ刑期ニ算入スヘキモノトス而シテ破棄ノ判決以後某控訴院ニ於テ第一審判決ヲ認可シテ控訴ヲ棄却セラレタリ此間ノ日數ハ被告ノ上訴不當ニ歸シタルヲ以テ刑期ニ算入スルヲ得ス

第一審判決ノ日ヨリ第二審ノ判決マテヲ刑期ニ算入スル場合ハ第二審ノ判決前日迄ヲ算フヘキモノニアラスシテ第二審判決ノ日迄ヲ算フヘキモノトス

**第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス**

刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スヘキハ前條第一項ノ規定ノ通りナルヲ以テ刑期限内トハ刑名宣告ノ日ヨリ執行満了マテノ期間ヲ云フ故ニ宣告ノ日ヨリ確定ノ日マテノ間ニ逃走シタル者ト雖モ尙ホ宣告ノ日ヨリ逃走ノ日迄ヲ刑期ニ算入スヘキナリ但右ハ自由刑ノ宣告ニ係リ被告人ノ未決拘留ニ在リテ上訴ヲ爲サ、ル場合ニ限ルハ勿論ナリ而シテ本條ニ逃走ノ日數ヲ除キトアルヲ以テ逃走ノ日ハ刑期ニ算入セサルモ就捕ノ日ハ刑期ニ算入スヘシト論スル學者アリト雖モ第四十九條ハ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ執行期間ハ一日ヲ二十四時間ニ計算スルノ規定ナルヲ以テ其兩日共時間ヲ以テ刑期ニ算入スヘキナリ又監視ヲ遁レタル者ハ其遁レタル日數ヲ除キ前後執行ヲ受ケタル日ヲ計算シ刑期ニ算入スヘキモノタルヲ論フ俟タス

キモノトス從テ  
其管轄違ノ判決  
以後更ニ第一審  
ノ判決アルマテ  
ノ拘留ハ未決拘  
留ト同視スヘキ  
モノニシテ刑期  
ニ算入スルヲ得  
ス  
（廿九年二月同  
上）  
一 故障ハ上訴ニ非  
ス故ニ故障申立  
ヲ理由アリトシ  
タル時ト雖モ刑  
法五十一條一號  
ヲ適用スルヲ得  
ス  
（廿九年十二月  
同上）  
一 大審院ニ於テ甲  
控訴院ノ判決破  
毀シテ乙控訴院  
ニ移送シタル場  
合ニ於テ其後ノ

シタル者ト雖モ尙ホ宣告ノ日ヨリ逃走ノ日迄ヲ刑期ニ算入スヘキナリ但右ハ自由刑ノ宣告ニ係リ被告人ノ未決拘留ニ在リテ上訴ヲ爲サ、ル場合ニ限ルハ勿論ナリ而シテ本條ニ逃走ノ日數ヲ除キトアルヲ以テ逃走ノ日ハ刑期ニ算入セサルモ就捕ノ日ハ刑期ニ算入スヘシト論スル學者アリト雖モ第四十九條ハ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ執行期間ハ一日ヲ二十四時間ニ計算スルノ規定ナルヲ以テ其兩日共時間ヲ以テ刑期ニ算入スヘキナリ又監視ヲ遁レタル者ハ其遁レタル日數ヲ除キ前後執行ヲ受ケタル日ヲ計算シ刑期ニ算入スヘキモノタルヲ論フ俟タス  
欠席判決ノ場合ニ於テ被告人捕ニ就キ故障ヲ爲シタル者ハ對席判決ヲ受タル日ヨリ刑期ヲ起算シ故障セサル者ハ裁判確定ノ日ヨリ起算スヘキモノ、如シト雖モ我刑法ハ前條ニ於テ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スト規定シ又第六十一條ニ於テ欠席判決ニ係ル時ハ期滿免除ハ其宣告ノ日ヨリ起算スト規定セルヲ以テ欠席判決ノ場合ト雖モ刑ノ執行ハ其宣告ノ日ヨリ始マレモノト論セサルベカラス從テ本條ニ依リ其逃走ノ日數ヲ除キ刑期ヲ計算スル場合ニハ逮捕狀執行ノ日ヨリ起算セサルヘカラサルノミナラズ欠席判決ヲ受ケ

上訴正當ナラサ  
ル以上ハ大審院  
ノ破毀ノ判決ヨ  
リ乙控訴院ノ判  
決アルマテノ日  
數ハ刑期ニ算入  
スヘキモノニ非  
ス  
(三十年九月同  
上)

居ル者他ノ犯罪ノ爲メ逮捕セラレタルモ亦其刑期ハ逮捕ノ日ヨリ起算セサルベカ  
ラサルナリ

### 第六節 假出獄

假出獄ノ規定ヲ設クルノ理由ハ囚人ノ悔改ヲ促シ且囚人ヲシテ獄舎ノ生活ヨリ普通ノ生  
活ニ移ルノ豫備ヲ得セシムルノミナラズ獄費ヲ減スルノ一端トナルニ在リ

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀

アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政處分ヲ以テ假ニ出獄  
ヲ許スコトヲ得

無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

流刑ノ囚ハ第廿一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用井ス

本條第一項重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者トアリテ重罪輕罪ヲ犯シタル者トナキヲ以テ  
輕罪ヲ犯シタルモノト雖モ輕罪ノ刑ヲ減シテ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ假出獄ヲ許

ス限リニアラサルコトハ勿論ノコトニ屬ス而シテ之ヲ重罪及ヒ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ  
限リタルハ此等ノ刑ハ刑期長クシテ犯人絶望ノ餘反テ惡事ヲナスモノナシトセサルヲ以  
テ犯人悔改スルキハ假出獄ヲ得ルノ望アルコトヲ示シタルモノナリ其悔改ノ狀アルヤ否ヤ  
ハ事實論ニシテ監獄官ノ認定ニ任ス故ニ假出獄ヲ許サル、ハ囚人ノ權利ニアラスシテ監  
獄官ノ職權ニ屬スルモノト謂フヘシ

第二項無期徒刑囚ニ仮出獄ヲ許スノ規定ヲ設ケタルハ亦囚徒ヲシテ再ヒ社會ニ列シ得ル  
ノ希望ヲ絶タシメス悔改ヲ促スニ在リ第三項流刑囚ニ仮出獄ノ例ヲ用キサルハ流刑囚ニ  
ハ免幽閉ノ設アレハナリ

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サ、ルト雖モ仍ホ島地ニ居住セ  
シム

假出獄ヲ許サル、ト雖モ仍ホ徒刑囚ヲシテ島地ニ居住セシムルハ假出獄中逃走ノ恐アル  
ノミナラス第五十六條ニ依リ再ヒ重罪ヲ犯シタルキハ直チニ出獄ヲ停止シ本刑ヲ執行  
スヘキモノナレハ更ニ之ヲ島地ニ護送スルノ煩アレハナリ

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

本條前段禁治産ノ幾分ヲ免スルコトヲ得セシメタルハ獄外ノ生活ヲ許シタル實効ヲ完カラシメンカ爲メナリ元來禁治産ハ重罪刑ニ附加スルモノナレハ其之ヲ免スルハ重罪囚ニ限ルハ論ヲ俟タス而シテ其幾分ヲ免スルハ尙ホ刑罰ノ目的ヲ達シ併セテ財産ノ浪費ヲ防ク爲メナリ後段特別監視ノ規則ハ刑法附則第四十三條乃至第四十五條ニ規定シアリテ普通監視ト其性質同シカラサルハ前述ノ如シ普通監視ハ附加ノ自由刑ナレモ特別監視ハ全ク行政上ノ處分ニシテ之ヲ宣告スルコトナク又特別監視ヲ了リタル後ハ更ニ普通監視ヲ執行セサルヘカラサルコトハ勿論ノコトニ屬ス

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタルモノハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ即チ檢改ノ情ナキモノナルヲ以テ出獄ノ恩典ヲ剝奪シ

仍ホ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得サルモノト其制裁法ヲ設ケタルナリ而シテ重罪輕罪ヲ犯サル囚人ト雖モ行狀不良ナルモ行政處分ヲ以テ假出獄ヲ停止スルコトヲ得ヘシト雖モ此場合ニハ出獄日數ヲ刑期ニ算入スヘキナリ即チ前者ハ法律上ノ處分ニシテ後者ハ行政處分タルニ過キサレハナリ又本條重罪輕罪ヲ犯シタル者トアルヲ以テ輕罪ヲ犯シタル者ニシテ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ尙ホ本條ノ適用ヲ受クヘタ又重罪輕罪トアルヲ以テ過失殺傷又ハ失火ノ如キ無意犯ノ者ト雖モ亦本條ノ適用ヲ受ケ直チニ出獄ヲ停止セラレ其出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スヘキモノト謂ハザルヘカラズ

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス  
本條ノ刑期限内ト云フ意義中ニハ假出獄中ヲモ包含ス何トナレハ仮出獄中モ亦刑期ニ算入スヘキモノナレハナリ又本條重罪輕罪トアルヲ以テ無意犯ニ屬スル輕罪ヲ犯シタルモノト雖モ本條ノ適用ヲ受ケ仮出獄ヲ許サレザルヘキナリ

第七節 期滿免除

期滿免除ト云ヒ時効ト云フ其意義相異ナルニアラス唯其用語ヲ異ニスルノミ民法及ヒ刑

一 欠席裁判ニ對スル故障申立ハ刑



ノ期滿免除ヲ得  
ヘキ期間ヲ經過  
シタル後ト雖モ  
之ヲ爲スコトヲ得  
何トナレハ刑事  
訴訟法第二百廿  
九條ニ故障申立  
期間ニ付キ別ニ  
之ヲ制限ナケレ  
バナリ

(廿七年三月法  
曹會決議)

一罰金不納ノ爲メ  
換刑ニヨリ禁錮  
ノ處分ヲ受タル  
片ハ逮捕狀ヲ發  
スルコトヲ得而シ  
テ此令狀ハ期滿  
免除ノ期限ヲ中  
斷スルノ効アリ  
(廿九年五月同  
上)

一拘留ノ刑ニ處セ  
ラレタル者ニ對  
シテハ逮捕狀ヲ

發スルコトヲ得ベ  
シ

(廿八年十一月  
同上)

一欠席判決ヲ受タ  
ル者ニ對シ逮捕  
狀ヲ發シタル片  
ハ最終ノ發付ノ  
日ヨリ期滿免除  
ヲ起算ス

(廿八年二月同  
上)

一欠席判決ニ假定  
力ヲ付ス

(七五實學士)

一詐欺的委託金費  
消ノ罪ハ其金額  
ヲ領收シ其目的  
ヲ遂ケタル時ニ  
於テ始メテ成立  
スレモノニ付之  
カ經時効モ亦其  
目的ヲ遂ケタル  
時ヨリ起算セサ  
ルヘカラス

事訴訟法等ニハ時効ト云ヒ刑法ノ用語ト相同シカラズト雖モ毫モ其意義ヲ異ニスルモノ  
ニアラズ抑モ時効ハ法定ノ期間ヲ經過シタル者ニハ其効力ニ依リ義務ヲ消滅セシメ又ハ  
權利ヲ取得セシムルモノニシテ刑事ニ於テハ刑ノ時効及ヒ公訴ノ時効アリ民事ニ於テモ  
本權ニ關スル時効及ヒ訴權ニ關スル時効アリト雖モ其各時効制定ノ理由ハ一ハ公益ニ基  
キ一ハ私益ニ基クノ相違アルノミニシテ其元來ノ旨趣ハ法律ハ權利ニ眠ムル者ヲ保護セ  
ス之ヲ換言スレハ權利者ノ睡眠即チ權利ノ不執行ニ因リ之ニ對スル義務ハ消滅シ其權利  
ハ他ニ取得セラルベシトノ法律ノ原則ニ據ルモノナリ學者或ハ時日久シキヲ經レハ證據  
湮滅シ之ヲ刑事ニスレハ其無罪ナルヲ假定推測スルヲ得ヘク又之ヲ民事ニスレハ其義務  
ノ消滅シタルヲ假定推測スルヲ得ヘク占有物取得ノ場合モ亦正當ニ所有權ヲ得タルモノ  
ト假定推測スルヲ得ヘシト雖モ刑ノ時効即チ刑ノ執行權ノ期滿免除ハ右ノ理由ト同シカ  
ラス刑ノ執行ハ既ニ判決ヲ受タルヲ以テ時日ヲ經過スルモ無罪ト推測シ又ハ時日ノ久シ  
キ爲メ其刑ヲ執行シ終リタリト推測スルコト能ハス即チ刑ノ時効ハ其犯罪ヲ社會カ忘レタ  
ルコト或ハ之ヲ忘レタリト推測セラルヘシトノ理由ニ基クモノナリト説キ或ハ有罪ノ判決

ヲ受タルモノハ多年一身ヲ潜伏シテ捕ヲ避ケントシ其間精神ヲ勞シ執行ヲ受ルト同一ノ  
痛苦ヲ受クルヲ以テ改心ヲ推測スルニ足レリ故ニ更ニ刑ヲ執行スル必要ナキ理由ニ基ク  
モノナリト説キ其他種々ノ説アリト雖モ是レ皆其制定ノ理由ノ一斑ヲ擧ケタルニ過キス  
シテ之ヲ以テ唯一ノ理由ト爲スヲ得ス何トナレハ若シ夫レ證據湮滅ヲ以テ唯一ノ理由ナ  
リトセハ罪跡顯然タルモノアルニ於テハ公訴ノ免除ノ理由トナスニ足ラザルト同時ニ刑  
ノ言渡ニ對スル免除ノ理由トナラサルハ論ヲ俟タス民事亦然リ又犯人カ犯罪ヲ自白シタ  
ル場合其他罪證顯然タル場合ニハ社會ハ之ヲ如何ニシテ其犯罪ヲ忘ルコトヲ得ンヤ其他  
多年間精神ヲ勞シ執行ヲ受ルト同一ノ痛苦ヲ感スルヲ以テ改心ヲ推測スルニ足レリト云  
フト雖モ豈ニ夫レ然ランヤ是レ唯々空想ノミ凡ソ人ノ心中ハ相同シカラス就捕ヲ苦慮ス  
ルモノアリ然ラサルモノアリ或犯人ニ於テハ反テ罪惡ヲ增長スルモノナキトセサレハ是  
亦唯一ノ理由ト爲スニ足ラズ之ヲ要スルニ刑事ノ時効ハ公益ノ爲メ民事ノ時効ハ私益ノ  
爲メ法律ハ權利ニ眠ムルモノヲ保護セズトノ法律ノ原則ニ基キ其制定ヲ爲シタルモノト  
謂ハサルヘカラス蓋シ公訴ノ時効ト云ヒ刑ノ時効ト云ヒ其法定期間ノ經過スル迄ニ其罪

(廿四年十月大  
審院判決)  
刑罰六十一條ニ  
期滿免除ハ刑ノ  
執行ヲ逋レタル  
日ヨリ起算スル  
日ヨリ起算スル  
ルキハ其宣告ノ  
日ヨリ起算スル  
アリ然ラハ其欠  
席判決ヲ受ケタ  
ル日ヨリ起算ス  
ル九條ニ規定ス  
ル年限ヲ經過シ  
タルニ於テハ其  
欠席判決ハ確定  
シ已ニ期滿免除  
ヲ得タル者ニ付  
其欠席判決ヲ受  
ケタル者ヨリ故  
障ノ申立ヲ爲ス  
キモノニ非スヘ  
キモノニ非スヘ  
上(廿七年三月同

證ヲ得テ起訴シ又ハ刑ノ執行ヲ爲シ得サルハ必竟當局者ハ睡眠シタルモノト謂ハサルヘ  
カラス民事亦然リ消滅時効ト云ヒ取得時効ト云ヒ其法定ノ期間ヲ經過スル迄ニ訴訟ヲ爲  
ザルハ必竟當事者ハ睡眠シタルモノト謂ハザルヘカラズ而シテ此等ノ權利ニ睡眠スルモ  
ノヲ法律ハ之ヲ保護セサルヘカラサルノ理由ナク又其必要ヲモ認メサルハ時効ノ制ヲ設  
ケ以テ權利者ハ一定ノ期間ニ其權利ヲ行使セサルハ法律ハ之ヲ保護セサルモノト規定シ  
タルモノナリ之ヲ換言スレハ一定ノ期間權利者ノ睡眠即チ權利ノ不執行ニ依リ之ニ對ス  
ル義務ハ消滅シ其權利ハ他ニ取得セラル、モノナルコトヲ規定シタルナリ今茲ニ序ヲ以テ  
民刑事時効ノ差違ヲ略述スレハ刑事ノ時効ハ公益ノ爲メニ設ケタルモノナルカ故ニ一人  
ナル被告人ハ之ヲ拋棄スルヲ得ザレモ民事ノ時効ハ公益ノ爲メニ設ケタルモノナルカ故  
ニ之カ爲メ利益ヲ受ル者ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得又刑事ノ時効ハ被告人申立ヲ爲サ、ルモ  
裁判官ハ公益ノ爲メ職權ヲ以テ其規則ヲ適用セサルヘカラズト雖モ民事ノ時効ハ其利益  
ヲ受ルモノヨリ其權利アルコトヲ主張セサルヘカラザル等是レナリ刑事ノ時効ハ一審二審  
ニ申立テス上告ニ至リテモ尙ホ時効ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ民事ノ時効ハ其時効

一凡刑ノ言渡ハ其  
對席タルト欠席  
之カ執行ヲ問ハス  
ト爲スモノナル  
ヲ以テ被告カ執  
行ヲ免ルル點ニ  
付テハ兩者相異  
ナラス故ニ刑法  
六十二條ヲ欠席  
判決ニ適用スル  
ヲ得サルノ理ナ  
シ(廿七年十一月  
同上)  
一私印私書偽造罪  
ハ行使ニ依リテ  
完成ス從テ其時  
効ノ成就ハ行使  
ノ日ヨリ起算ス  
ヘク偽造ノ日ヨ  
リ起算スヘキモ  
ソニ非ス(廿八年  
九月同上)

ヲ得タルヤ否ヤハ一ノ事實問題ニ屬スルヲ以テ上告ニ至テハ之ヲ申立ツルコトヲ得サルハ  
論ヲ俟タス

第五十八條 刑ノ執行ヲ逋レタル者ハ法律ニ定メタル期限ヲ經過ス  
ルニ因テ期滿免除ヲ得

本條ハ刑ノ時効ニ關スル概則ヲ規定シタルモノニシテ條意明晰更ニ說明ヲ要セスト雖モ  
本條ニ刑ノ執行ヲ逋レタル者トアルハ積極的ノ刑ノ執行即チ主刑ノ執行ヲ逋レタルモノ  
ヲ云ヒ附加刑ノ申剝奪公權停止公權ノ如キ消極的ノ刑ノ執行ヲ受クルモノハ之ヲ包含セ  
ス故ニ本條ノ主刑ハ重罪輕罪違警罪ヲ問ハス總テ之ヲ適用シ附加刑ハ附加罰金ト犯罪ニ  
因テ得タル物件ト犯罪供用ノ物件トニ係ル沒收ニハ之ヲ適用シ其他ノ剝奪公權停止公權  
等ニハ其適用ナシ然レモ刑ノ時効ニヨリ主刑ノ免除ヲ得タルキハ公權ノ停止モ亦共ニ免  
除セラルヘキハ論ヲ俟タス

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

一、死刑ハ三十年  
 二、無期徒刑流刑ハ二十五年  
 三、有期徒刑流刑ハ二十年  
 四、重懲役重禁獄ハ十五年  
 五、輕懲役輕禁獄ハ十年  
 六、禁錮罰金ハ七年  
 七、拘留科料ハ一年

本條ハ主刑ノ時効ニ關スル規定ニシテ罪ノ輕重ニ從ヒ其時効ノ期間ニ長短アルハ重キモノハ法律ハ長ク其執行權ヲ保護シ輕キモノハ法律ハ短ク之ヲ保護スルノ必要アレハナリ然ルニ刑事訴訟法第八條ニ依レハ公訴ノ時効ハ比較的ニ其期間ノ短キヲ見ル即チ重罪ハ十年輕罪ハ三年違警罪ハ六月ナリ如此刑ノ時効期間ト公訴ノ時効期間ニ甚タシキ差違アルハ刑ノ時効ハ一旦判決ヲ受ケ事既ニ確實トナリ社會ニ發表シタルモノナレハ長ク其刑

ノ執行權ヲ法律ハ保護スヘク反之公訴ノ時効ハ其事件タル未タ不確實ノモノニシテ社會ニモ未タ發表セサルモノナレハ比較的ニ法律ハ短ク其公訴權ヲ保護スヘキモノト爲シタルモノナリ本條ニ所謂主刑トハ本刑ナルヤ又ハ執行刑ナルヤ之ヲ換言スレハ各本條ノ刑若クハ其從犯未遂犯ノ減等其他特別ノ加減ヲ爲シタル刑ナルヤ又ハ酌量減輕ヲ爲シ實際言渡シタル刑ナルヤニ付テハ別ニ多言ヲ要セス後者ナルヲ明瞭ナリ何トナレハ時効ノ效力ハ刑ノ執行權ヲ消滅セシムルモノニシテ而シテ執行權ハ必ラズ實際言渡シタル刑ニ關係シ其言渡ノ確定ト同時ニ發生スルモノナレハ時効ノ期間モ亦其實際言渡シタル刑ニ因テ定ムヘケレハナリ況ンヤ又前條ニモ刑ノ執行ヲ通レタル者トアルヲ以テ本條ノ刑モ亦執行刑即チ實際言渡シタル刑ナルヲ明カナルニ於テヲヤ

第六十條 剝奪公權、停止公權、及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス  
 附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得  
 沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

本條ハ附加刑ノ時効ニ關スル規定ニシテ第一項剝奪公權、停止公權及ヒ監視ノ時効ヲ得サルハ此等ノ附加刑ハ元來消極的刑ノ執行ニ屬スルモノナレハ其執行ヲ遁ル、ニ由ナキトノ立法上ノ理由ニ出タルモノナルヘシト雖モ斯ル法文ハ無用ニ屬スルモノト謂フヘシ何トナレハ立法者ニ於テ此等ニ時効ヲ與ヘスト認ムルナレハ禁治産ニ關シ規定セサルト同シク特更ニ法文ニ明記スルヲ要セス唯其他ノ時効ヲ與フルモノ、ミヲ規定スレハ足レハナリ畢竟斯ル法文ノ存スルハ刑法改正案ノ一理由トスル所タルヘシ第二項附加罰金ノ主刑ト共ニ時効ヲ得ルハ罰金ハ財産刑ニシテ民法上ノ債權ト同一視スヘカラサルハ既ニ説述シタルヲ以テ民法ノ時効ニ依ルヘカラサルハ勿論刑ノ時効ニ從ヒ從ハ主ニ從フノ原則ニ依リ其主刑ト運命ヲ共ニスヘキモノナレハナリ而シテ附加罰金ヲ納完セサル爲メ換刑セラレタルキハ禁錮囚トナリタルモノナルヲ以テ第六ノ年限即チ七年ヲ以テ時効ノ年限トスヘキナリ第二項前段沒收ハ總テ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得ルハ重輕罪用ノ物件ト違警罪用ノ物件トヲ問ハス均シク之ヲ沒收スル以上ハ罪質ノ輕重ニヨリ年限ノ長短ヲ異ニスヘキニアラサレハナリ同項後段禁制物ノ期滿免除ヲ得サルハ蓋シ人民ノ禁制物所有ス

ルヲ許スヘカラサルハ幾年ヲ經ルモ其理由變ハルヘキニアラサレハナリ本條ニ於テ獨リ禁治産ニ關シ何等ノ規定ナキハ禁治産ハ主刑ノ期間其効ヲ生シ主刑ト進退ヲ共ニスルノ理由ニ依ルモノナラント雖モ果シテ然ラハ停止公權モ同一ノ理由ニ依リ何等ノ規定ヲ要セサルヘシ之ヲ要スルニ本條ノ法文ハ大ニ欠点アルモノト謂ハサルヘカラス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス 若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ欠席裁判ニ係ルキハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

本條前段ハ對席判決ニ關シ後段ハ欠席判決ニ關スル規定ニシテ前段時効期間ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算スルハ其遁レタル日ヨリ執行權ヲ實行シ得サルニ至ラシメタルヲ以テナリ換言スレハ其遁レタル日ヨリ執行權ハ不執行ヲ始メタルヲ以テナリ單ニ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算スト云ヘハ實ニ明晰ニシテ別ニ説明ヲ要セサルカ如シト雖モ之ヲ各刑ノ執行場合ニ付キ考案スレハ大ニ其否ラサルヲ知ルヘシ今夫レ死刑囚ノ裁判確定後

ニ逃走シタル場合ニ於テ之ヲ論スレハ死刑ハ判決確定スルモ之ヲ執行シ得サルハ已ニ説述ノ如シ執行スルヲ得サルニ執行ヲ遁ル、トアルヘキ謂レナシ故ニ其執行シ得ヘキ日ヨリ始メテ其執行ヲ遁レタリト謂フヲ得ヘシ而シテ執行シ得ヘキ日ハ即チ司法大臣ノ執行命令ヲ下シタル日ナレハ此日ヨリ起算スヘキナリ但司法大臣ノ命令ヲ下シタル後之ヲ執行セントスル間ニ逃走シタルハ其逃走ノ日ヨリ起算スヘキハ論ヲ俟タス又自由刑囚ノ其執行既ニ始マリタル後逃走スルハ其逃走ノ日ハ即チ執行ヲ遁レタル日ナルヲ以テ逃走ノ日ヨリ起算スヘキハ勿論ナレハ判決確定セサレハ執行權ノ發生ナシ其執行權ノ發生ナケレハ執行ヲ遁レタリト謂フヲ得サル故ニ犯人判決後直チニ逃走シタルハ判決確定ノ日ヨリ起算スヘキカ如クナレハ我刑法ハ第五十一條ニ刑名宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘキモノトセルヲ以テ其未決拘留ニ在ルモノハ刑名宣告ノ日ヨリ其執行ヲ遁レ得ルモノト論セザルヘカラス是ヲ以テ判決後直チニ逃走シタルハ其判決確定セサルモ其逃走ノ日ヨリ起算スヘキモノト謂フヘシ又罰金、科料、沒收ハ檢事既ニ其徴收ニ着手シタルハ其處分ヲ中止シタル時ヨリ執行ヲ遁レタルモノトシ又其徴收處分ヲ忘リタルハ裁判

確定ノ日ヨリ時効ヲ起算スヘキモノトス蓋シ罰金、科料ノ納完期限ハ換刑處分ノ期限ニシテ其期限内ト雖モ檢事ハ之ヲ徴收スルヲ得ヘキカ故ニ其徴收スルヲ得ヘキ日ヨリ期限ノ經過ヲ始ムヘキヲ以テナリ而シテ本條ニ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ストアルヲ以テ其日ハ時効ノ期間中ニ算入スヘキハ論ヲ俟タス

刑ノ執行ヲ遁レタルモノニシテ捕ニ就キ再ヒ逃走シタルハ其逃走ノ日ヨリ更ニ起算シ其就捕迄ノ逃走日數ノ完ク空無ニ歸スルハ其犯人ノ就捕カ執行權ノ休止セサルヲ證スルモノニシテ更ニ法律ハ其執行權ヲ保護スヘキモノナレハナリ

本條後段欠席判決ニ係ル時効ヲ其宣告ノ日ヨリ起算スルハ欠席判決ハ故障申立ノ期間ヲ經過セサル間ハ確定セス而シテ被告カ判決ノ送達ヲ受クルカ又ハ就捕ノ上判決ノ告知ヲ受クル迄ハ何時マテモ故障期間ヲ過クルコトナキカ故ニ判決確定ヲ俟タントスレハ遂ニ時効ヲ適用スル能ハサルニ至ルヘシ然ルニ執行權ノ休止スルハ對席判決ト欠席判決トヲ問ハス法律ハ之ヲ保護スルノ必要ナク且ツ刑名宣告ノ日ヨリ起算スル外ナキヲ以テ斯ク規定シタルモノナリ欠席判決ヲ受ケタル被告人出頭シテ故障ノ申立ヲナシ之ヲ受理セラレ

タルモ本案ノ判決言渡ヲ受ケサル前ニ於テ再ヒ逃走シタルルキハ再ヒ欠席判決ヲ爲シタル日ヨリ更ニ時効ノ期間ヲ起算スベキハ更ニ論ヲ俟タズ

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

本條ハ時効ノ中斷ニ關スル規定ニシテ時効ノ中斷ハ執行權ノ休止セサル徵證ナレハ法律ハ之ヲ保護セサルベカラズ從テ中斷ノ場合ハ更ニ時効ノ期間ヲ起算スヘキモノトス而シテ刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發スルハ生命刑自由刑ニ限リ罰金、科料ニハ發スベカラズ然レモ罰金、科料不納ノ爲メ換刑ニヨリ禁錮拘留ノ處分ヲ受ケタルルキハ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得ヘシ又最終ノ令狀ヲ出シタル日トナシタルハ一回ノ令狀ニ基因スル時効ハ二回ノ令狀ノ爲メニ中斷セラレ二回ハ三回ノ令狀ニ遞次其期間ノ經過ヲ中斷セラルレハナリ欠席判決ヲ受ケタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發シタルルキ亦同ジ抑モ刑ノ時効ノ期間ノ經過ヲ中斷スルニハ三個ノ原因アリ 第一、逮捕狀ヲ發スルコト即チ本條ノ場合 第二、捕ニ就クコト即チ前條ノ場合 第三、執行ノ所爲アルコト是レナリ而シテ罰金、科料ニハ逮

捕狀ヲ發スヘカラサルコトハ前述ノ如シト雖モ之ヲ中斷スルニハ第三ノ執行所爲アレハ足レリ例ヘハ財産刑ニ付檢事ガ其徵收處分ニ着手スルノ所爲アルルキハ已往ノ經過日數ハ之ヲ空無ニ歸シ更ニ其所爲ノ休止ノ日ヨリ起算スヘキカ如シ又本條ニ令狀ヲ發シタル日ヨリ起算ストアルヲ以テ發シタル日ハ時効ノ期間ニ算入スヘキハ論ヲ俟タズ

### 第八節 復 權

憲法第十六條ニ復權ハ 天皇之ヲ命ストアリ即チ復權ハ 天皇ノ大權ニ依リ 天皇カ之ヲ命スルモノニシテ犯人ハ之ヲ拒絕スル能ハサルモノタリ抑モ復權トハ何ソヤ復權トハ重罪處分者カ曩ニ剝奪セラレタル公權ヲ享有スル能力ヲ回復スルコトヲ云フ從テ曩ニ選舉セラレタル議員、任セラレタル官吏、下賜セラレタル位記等ノ如キハ更ニ選舉、任命、下賜セラレサルニ於テハ其權利アリト云フベカラズ之ヲ換言スレハ復權ニ依テ單ニ能力ノミノ回復ヲ得ルモ其位記等ノ榮典ハ之ヲ回復スル能ハサルナリ必竟復權ハ行狀方正ナルモノニ與フルノ賞典ニシテ犯人ノ自棄心ヲ翻ヘシ改過遷善ノ念ヲ發セシムルノミナラス主刑ノ執行全ク終リ數年ノ間檢改ノ狀アルニ於テハ其刑ヲ繼續シ終身之ヲ無能力者タ

一復權ハ能力ノ付與ナリ  
（江木博士）  
一大赦ノ効力ハ既往ニ遡ル罰金ハ還付ス  
（富井博士）  
一特赦ハ確定判決ノ効力ヲ破ル  
（江木博士）

ラシムルノ必要ナシトノ理由ニ基キ其制度ノ設ケアルモノト察セラレ、ナリ均シク行狀方正ノ者ニ與フル恩典ナレモ復權ハ假出獄ト其効力相同シカラス復權ハ主刑ノ執行ヲ終リタルモノニ與ヘ假出獄ハ主刑執行中ノモノニ與ヘ假出獄ハ之ヲ停止スルコトヲ得ルモ復權ハ之ヲ復ヒ奪フベカラズ而シテ復權ハ 天皇ノ大權ニ基キ假出獄ハ監獄官ノ職權ニ基クモノタルヤ更ニ説明ヲ要セス

第六十二條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年

ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

本條ハ復權ノ勅命ヲ得ルニ付テノ條件ヲ規定シタルモノニシテ其條件ハ(一)主刑ノ終リタル日又ハ主刑ノ時效ヲ得テ監視ニ付セラレタル日(二)主刑ノ終リタル日又ハ主刑ノ時效ヲ得テ監視ニ付セラレタル日ヨリ五年ヲ經過シタル日(三)復權ヲ與フヘキ情狀アル日是レナ

リ抑モ本條第一項ニ所謂主刑トハ重罪ノ主刑ヲ云ヒ主刑ノ終リタルトハ主刑ヲ執行シ終リタル場合ハ勿論特赦ヲ得タル場合ヲモ包含ス然レモ假出獄免幽閉ノ場合ハ主刑ノ終リタルモノト爲スコトヲ得サルハ第廿一條(免幽閉)第五十四條(假出獄)第五十六條(刑期ニ算入)ニ依リ之ヲ見ルベシ又五年ノ不變期間ヲ定メタルハ犯人ノ行狀ヲ視察シ悔改ノ情狀ヲ十分ニ認メタル上復權ノ恩典ニ浴セシメンガ爲メナリ而シテ其復權ヲ與フル情狀アルヤ否ヤハ固ヨリ 天皇ノ認定ニ依ルモノタルヤ勿論ナリ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因

テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載アルニ非サレハ復權ヲ得ス

赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス

前條ハ通常ノ場合ニ於テ復權ヲ得ルノ條件ヲ規定シ本條ハ特別ノ場合ニ於テ復權ヲ得ルノ條件ヲ規定シタルモノナリ即チ本條ハ大赦ニ因テ免罪ヲ得タルモノハ當然復權ヲ得ルニ特赦ニ因テ免刑ヲ得タルモノハ特命アルニ非サレハ復權ヲ得サルコトヲ規定シタルモノ

ナリ大赦又ハ特赦ニ因リ免罪又ハ免刑ヲ得復權ヲ得タル者ハ亦自ラ監視ヲ執行スヘキモノニアラサルハ勿論ナルヲ以テ第二項ニ於テ此等ノ者ハ當然監視ヲ免シタルモノト爲シタルナリ抑モ赦ニ二種アリ大赦及ヒ特赦是ナリ而シテ大赦特赦ハ減刑復權ト共ニ憲法第十六條ニ規定スル所ニシテ何レモ 天皇ノ大權ニ屬シ 天皇カ之ヲ命スルモノナルヤ更ニ説明ヲ要セサルモ今其大略ヲ説述スレハ大赦ハ國事犯ノ如キ或種ノ犯罪ニ對シテ與ヘラル、恩典ニシテ特赦ハ或一定ノ犯人限リ與ヘラル、恩典ナリ又大赦ハ判決確定後ナルト確定前ナルトヲ問ハス之ヲ行ハル而シテ有罪ヲ無罪視スルノ効力アルガ故ニ判決前ナレハ公訴權消滅シ判決確定後ナレハ判決取消ノ効力有シ從テ再犯ノ理由トナラス特赦ハ判決確定後ニ非サレハ行ハレス而シテ有罪ヲ無罪視スルノ効力アルニアラズシテ唯刑ノ執行ノ全部又ハ一部ヲ消滅セシムルニ止マルモノナレハ再犯ノ理由トナルモノナリト雖モ民事上ノ効力即チ損害賠償又ハ贓物返還ノ請求ニ其影響ヲ及ササルハ兩者同一ナリ何トナレハ兩者ハ公權ニ關スル主權者ノ命令ニシテ被害者ノ私權ヲ消滅セシムルノ理由ヲ有セサレハナリ前述ノ如ク大赦ハ罪ヲ免スルモノナレト特赦ハ罪ヲ免スルニアラズシテ

唯タ執行スヘキ刑ヲ免スルモノナレハ本條ニ特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者トアルハ用語釋當ラ欠クモノト謂ハサルベカラズ

**第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ**

前述ノ如ク復權ハ恩典ニシテ 天皇ノ大權ニ屬スルモノナレハ勅裁ニアラサレハ之ヲ得ヘカラザルハ論ヲ俟タス憲法第十六條ニ 天皇ハ大赦特赦減刑及ヒ復權ヲ命スト明文アルヲ以テ其勅裁ニアラサレハ之ヲ得ヘカラサルハ既ニ明瞭ナリ然ルニ茲ニ之カ規定ヲ設ケタルハ憲法ノ發布前ニ係ルヲ以テナリ

**第三章 加減例**

刑法カ犯罪ト刑罰ノ二者ヲ適度ニ量定スルニハ一般ノ量定ノ外尙ホ進シテ其罪情ト刑ノ程度ヲ量定セサルヘカラス是レ宥恕減輕自首減輕酌量減輕再犯加重刑ノ加減例等ノ設アル所以ナリ而シテ其二者ノ權衡ヲ量定スルニハ主觀的ナラサルヘカラス又客觀的ナラザルヘカラス其他萬般ノ方法ニ依ラサルヘカラスト雖モ這ハ立法論ニ屬スルヲ以テ暫ク之

一 刑法總則ノ基礎  
 刑罰ノ基礎  
 其本刑ノ基礎  
 四分ノ基礎  
 等トシテ加減  
 フシモノニシテ  
 スルモノニシテ  
 加減トシテ加減  
 基礎トシテ加減



スル者ニアラス  
 (二十年三月判  
 決)  
 一禁錮ヨリ四等ヲ  
 通減スルハ禁錮  
 銅ヲ減盡スルヲ  
 以テ拘留ニ處セ  
 サルヘカラス  
 (廿四年四月同  
 上)  
 一主刑ノ禁錮ヲ減  
 盡シテ拘留ニ處  
 スルハ附加刑  
 ノ罰金減シテ科  
 料トスルハト雖  
 モ之ヲ附加スル  
 コトヲ得ス  
 (廿一年十一月  
 同上)  
 一禁錮ヨリ四等ヲ  
 通減スル時ハ禁  
 錮減盡スルヲ以  
 テ拘留ニ處セサ  
 ルヘカラス  
 (廿四年四月大

ヲ説述スルヲ止メ刑ノ加減ニ法律上ノ加減ト裁判上ノ加減ト二者アルコトヲ略述スヘシ何  
 ヲカ法律上ノ加減ト云ヒ何ヲ裁判上ノ加減ト云フ乎法律上ノ加減トハ法律ノ規定ニヨ  
 リ法律其者カ刑ヲ加減スルヲ云ヒ裁判上ノ加減トハ法律ノ與ヘタル範圍内ニ於テ裁判官  
 カ判決ノ宣告ニ依テ刑ヲ加減スルモノヲ云フ又刑ノ加減ニ一般ノ加減ト特別ノ加減アリ  
 一般ノ加減トハ犯罪總体ニ通スル加減ニシテ特別加減トハ特種ノ犯罪ニ關スル加減ヲ云  
 フ總則ニ規定セル加減ハ前者ニ屬シ各本條ニ規定セル加減ハ後者ニ屬ス法律上ノ一般ノ  
 加重ハ一種ナリ曰ク再犯加重是レナリ其特別ノ加重ハ各本條ニ規定スル所タリ裁判上ノ  
 加重ハ一般ト特別トヲ問ハス減輕ノ場合ノ如ク一等又ハ二等ヲ加フルコトヲ許セシ規定ナ  
 シ故ニ裁判官ハ唯ダ法律カ其犯罪ニ科シタル刑ノ範圍内ニ於テ加重スルノミ又法律上ノ  
 一般ノ減輕ハ四種ナリ曰ク宥恕、自首、未遂犯、及ヒ從犯ノ場合ニ於ケル四個ノ減輕是  
 レナリ裁判上ノ一般ノ減輕ハ一種ナリ曰ク酌量減輕是レナリ而シテ特別ノ減輕ハ各本條  
 ニ於ケル減輕ノ場合はレナリ之ヲ要スルニ法律上ノ加減ハ法律其者カ刑ヲ加減スルモノ  
 ナレハ裁判官ヲ拘束スト雖モ裁判上ノ加減ハ法律ノ與ヘタル範圍内ニ於テ裁判官ガ刑ヲ

一審院判決  
 一被告カ富贓購買  
 ノ所爲再犯ニ係  
 ル時ハ明治十五  
 年二月二十五號  
 二條ニ定メタル  
 以下ノ重禁錮四  
 圓以上四十圓以  
 下ノ罰金ノ二倍  
 ノ範圍内ニ於テ  
 處分スルヘキモ  
 下ノ重禁錮ニ付  
 前ノ重禁錮ニ付  
 重禁錮二月十五  
 日罰金十圓ニ處  
 セラレタルモノ  
 ナレハ同布告三  
 條一ノ再犯シタル  
 罪ヲ再犯シタル  
 モノハ同條ニ定  
 メタル刑罰金額  
 ノ二倍ニ處スル  
 初犯ニ科シタル  
 刑罰金額ニ下ル

加重スルモノナレハ素ヨリ裁判官ヲ拘束スヘキ謂レナク全ク裁判官ノ隨意ナルモノトス  
 而シテ此二者如此相異ナレリト雖モ刑ノ加重ハ法律上ノモノト裁判上ノモノタルコトヲ問  
 ハス其加重ノ結果其罪ノ刑名ヲ變スルコトナシ故ニ違警罪ハ加ヘテ輕罪ノ刑ニ入ルコトナク  
 輕罪ハ加ヘテ重罪ノ刑ニ入ルコトヲ得サルハ相同シ反之刑ノ減輕ハ法律上ノモノト裁判上  
 ノモノタルコトヲ問ハス其減輕ノ結果其罪ノ刑名ヲ變スルコトアリ故ニ重罪ハ減シテ輕罪ノ  
 刑ニ入ルコトヲ得ヘク輕罪ハ減シテ違警罪ノ刑ニ入ルコトヲ得ヘキハ相同シ然リ而シテ此等  
 ノ刑ノ加減ヲ爲スニ當リテハ如何ナル例規ニ依ルヘキヤハ即チ本條ノ規定スル所タリ以  
 下逐條之カ解釋ヲ試ムベシ  
 第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕スヘキ時ハ後ノ數條ニ記載シ  
 タル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス  
 本條法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ストアルハ前ニ説明セル法律上ノ加減ヲ爲スヘキ時ト云フ  
 意義ニアラス此法律ニ於テトハ法律自カラ加減スル時ト云フニアラズシテ法律ノ規定ニ  
 從ヒ加減スヘキ時ト解釋スヘキモノニシテ裁判上ノ減輕ト雖モ法律ノ規定ヲ待テ減輕ス

一、得書ニ從ヒトノ  
 二、最下限ヲ重禁  
 三、金十圓ト定メサ  
 四、レハ假令モ其最  
 五、酌減スルモ七日  
 六、下限ヲ一月七  
 七、月十五ノ四日  
 八、金一分ノ十圓  
 九、四分ノ十圓  
 十、四分ノ十圓  
 十一、二分ノ十圓  
 十二、一分ノ十圓  
 十三、再犯ノ所カ被  
 十四、對シテ重禁錮一  
 十五、罰金六圓ニ處  
 十六、タルハ加減シ  
 十七、誤リタルモノナ  
 十八、(廿六年十二月  
 十九、同上)  
 二十、同布告ノ二條ニ

一、判決ニ加重ノ方  
 二、法及加重シタル  
 三、刑期金額ノ範圍  
 四、ハ特ニ之ヲ明シ  
 五、セサルモ明シ則  
 六、ノ規定ニ依リ自  
 七、ラ明ナリトス而  
 八、シテ總則ノ法條  
 九、ハ必シモ逐一之  
 十、ヲ示スルヲ要セ  
 十一、ス即チ加重ノ法  
 十二、條タル九十二條  
 十三、ヲ適用セハ該七  
 十四、十條ノ如キハ明  
 十五、示スルノ限リニ  
 十六、アラス  
 十七、(廿七年四月同  
 十八、上)

ルノ點ニ於テハ法律上ノ加減ト相同シキヲ以テ勿論本條ノ適用ヲ受タヘキモノトス但書  
 加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ストナシタルハ死刑ハ刑ノ極度ニシテ一度之ヲ執行セバ回復ス  
 ヘカラズ而シテ無期徒刑之ニ次クト雖モ其輕重ノ差異相距ルコト甚ダシク無期徒刑ヨリ重キ一  
 等又ハ二等ト云フヲ得ズ故ニ死刑ヲ無期徒刑ニ下スコトヲ許スニ拘ハラズ無期徒刑ヲ死刑ニ上  
 スコトヲ得サルモノト規定シタルモノナリ

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一、死刑
  - 二、無期徒刑
  - 三、有期徒刑
  - 四、重懲役
  - 五、輕懲役
- 第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一、死刑  
 二、無期徒刑  
 三、有期徒刑  
 四、重禁獄  
 五、輕禁獄

第六十七條ハ一般ノ重罪刑ヲ加減スル等級ヲ規定シ第六十八條ハ重罪刑ノ中國事ニ關ス  
 ル重罪刑ヲ加減スル等級ヲ規定シタルモノナレバ必竟第六十八條ヲ第六十七條ノ但書ト  
 シテ規定スルモ亦差支ナキナリ然ラハ何故ニ其等級ヲ異ニスヘキヤ我刑法ハ嘗テ說述ス  
 ル如ク常事犯及ヒ國事犯ニ科スルニ各其刑ヲ異ニスレハ從テ其刑ノ加減法モ亦相異ナル  
 ヲ要スルハ自明ノ條理ナリトス是レ兩條ノ加減法ヲ異ニスル所以ナリ而シテ兩條ノ一ヨ  
 リ五ニ至ル等級ハ刑ノ昇降順序各一等ヲ異ニスルモノナレハ死刑ニ處スヘキヲ一等減ス  
 レハ第六十七條ニ於テハ無期徒刑トナリ二等減スレハ有期徒刑トナル又之ニ反シ有期徒

一原判決ハ法律ノ適用上錯誤ノ廉ナキモ刑法三百一一條ニ依リ三百一一條一項ノ刑ニ

其長期重禁錮三其九月ト成ルナリ而シテ八十五條ニ從ヒ其本刑ニ一等ヲ減スルハ其長期ハ二年テ三月ノ刑期ヲ算出スヘキ謂レナシ  
（廿八年三月同上）  
一加減例ノ如キ總則ハ必スシモ之ヲ判決書ニ掲グルヲ要セス  
（廿九年一月同上）

刑ニ處スヘキヲ一等加フレハ無期徒刑トナリ二等加フレハ死刑トナルモ加ヘテ死刑ニ入ルヘカラサルハ前條ノ規定スル所タリ第六十八條ニ於テモ亦此加減法ニ依ルヘキハ説明ヲ俟タズ

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕スヘキ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕スヘキ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕懲役ハ原ト常事犯ノ刑ニシテ定役アリ故ニ定役アル重禁錮ニ處シ輕禁獄ハ固ト國事犯ノ刑ニシテ定役ナシ故ニ定役ナキ輕禁錮ニ處スヘキモノト爲シタルナリ然ルニ禁錮ハ重輕ヲ問ハス共ニ十一日以上五年以下ノ一刑アルノミナレハ其範圍廣キニ過キ重罪ヲ犯シタル被告人ヲ罰スルニハ寬ニ流ル、ノ恐レアル故ニ其範圍ノ稍々長期ナル二年以上五年以下ノ範圍ヲ設ケ以テ重罪刑ヨリ下減シタル一等ト爲スコトヲ定メタルモナリ

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕スヘキ時ハ各本條ニ記載シタル刑

期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重スヘキ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得

本條第一項禁錮罰金ニ該ル者加減スヘキ時ハ各本條ノ刑期金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲シタルハ蓋シ重罪ノ刑ハ輕懲役ト云ヒ重懲役ト云ヒ徒刑ト云ヒ各定役ニ服スルモノニシテ其刑ノ性質相類似セルヲ以テ輕懲役ニ加ヘテ重懲役トナシ重懲役ニ加ヘテ徒刑トナスカ如ク其刑ヲ變スルコトヲ得ルモ輕罪ノ刑ハ如此ナル能ハス重禁錮ニハ定役アレハ輕禁錮ニハ定役ナク又罰金ハ金刑ニシテ其性質大ニ同シカラサルヲ以テ罰金ニ加ヘテ輕禁錮トナシ輕禁錮ニ加ヘテ重禁錮トナスカ如ク其刑ヲ變スルヲ得サルヲ以テナリ加之第廿四條ニ依レハ禁錮ハ重輕ヲ問ハス其大範圍ハ十一日以上五年以下第廿六條ニ依

レハ罰金ハ二圓以上ト爲シ其各大範圍内ニ於テ更ニ各本條ニ其長短多寡ヲ區分シアレハ  
 孰レヲ上位トシ孰レヲ下位ト定メ難キヲ以テナリ而シテ各本條ノ刑期金額ノ四分ノ一ヲ  
 加減スルヲ以テ一等ト爲スモノナレハ其長期短期ノ兩期其多額少額ノ兩額ニ付キ之ヲ行  
 フモノタルヤ勿論ノコニ屬ス故ニ例ヘハ二年以上五年以下ニ四分ノ一ヲ加フレハ二年六  
 月以上六年三月以下トナリ又之ヲ減スレハ一年六月以上三年九月以下トナリ其加減シタ  
 ル刑ニモ亦長短ノ範圍ヲ有スルモノタルカ如シ罰金亦之ニ準ス夫レ二等以上加減スル場  
 合ニ於テ其方法ニ二種アリ通加減法及ヒ遞加減法是レナリ通加減法ハ本刑ノ四分ノ一四  
 分ノ二四分ノ三四分ノ四ヲ本刑ヨリ加減スル方法ナルヲ以テ四等ヲ減スレハ減盡ス遞加  
 減法ハ四分ノ一ヲ加減シタル數ニ基キ遞次加減スルノ方法ナリ然ルニ本項ニ各本條ニ記  
 載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ加減ストアリ即チ本刑ノ四分ノ一ヲ加減スヘキモノトア  
 ルヲ以テ加減スヘキ四分ノ一ハ本刑ニ就テ之ヲ算出スヘキモノニシテ既ニ四分ノ一ヲ加  
 減シタル刑ニ就テ第二ノ四分ノ一ヲ算出シ其數ヨリ又四分ノ一ヲ加減スルカ如キ遞加減  
 法ハ我刑法ハ之ヲ取ラサルナリ尙第九十九條ニ至リ之ヲ詳述スヘシ

第二項輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得サルハ重罪ノ刑ハ加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得サ  
 ルト同一ノ理由ニシテ輕罪ト重罪ハ恰カモ無期徒刑ト死刑ノ比ノ如ク重罪刑ニハ必ラス剝  
 奪公權等ノ附加アルモ輕罪刑ニハ否サル等其階段相距ルコト甚タ遠ク一ノ加重ノ情狀アル  
 カ爲メ加ヘテ重罪ニ入ルカ如キハ其謂ハレナレハケレバナリ而シテ如此輕罪ノ刑ニ加  
 ヘテ重罪ノ刑ニ入ルコトヲ得ズト爲ス以上ハ禁錮ノ長期ニハ加重ナルモノナキカ故ニ七年  
 ニ至ルコトヲ得ルト但書ヲ加ヘタルナリ其七年トナシタルハ七年ニ止マスシテ其以上ニ及  
 ブヲ得ルコトスルニ於テハ懲役下其年限差違ナキニ至ルヲ以テナリ罰金ニ但書ヲ加ヘサ  
 ルハ罰金ニ以テ最多額ノ制限ヲケレハナリ

第七十一條 禁錮ヲ盡減シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時

ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數壹圓九拾五錢

以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルコトヲ得

本條前段ハ禁錮罰金ヲ減盡シタル場合ニ付キ後段ハ其否ラサル場合ニ付キ規定シタルナ  
 リ前段禁錮罰金ヲ四等減シテ寡數ニ至ルハ違警罪ノ刑ニ處スルハ重罪ヲ減盡シタル時仍

ホ輕罪ノ刑ニ處スルカ如ク犯人ヲ刑セスシテ放免スヘキ者ニアラサレハナリ而シテ輕罪ノ刑ハ其範圍頗ル廣大ナレトモ違警罪ノ刑ハ其範圍頗ル狹小ナレハ重罪ノ刑ヲ輕罪ニ下ス時ハ一般ノ禁錮ノ大範圍内ニ於テ二年以上五年以下ノ程度ヲ設ケテ之ヲ一等トシ輕罪ノ刑ヲ違警罪ニ下スルハ其程度ヲ制限セザルナリ後段減盡ニアラスシテ其短期寡數ノミ違警罪ニ下ル時拘留科料ニ處スルコトヲ得ト爲シタルハ減盡シタル場合ニ違警罪ノ刑ニ處スルト同一ノ理由ニシテ別ニ説明ヲ要セサレトモ此場合ニハ其短期寡數ハ本刑ヲ減シタルモノニ從ハサルベカラズ例ヘハ十一月以上三月以下ノ禁錮ヨリ一等ヲ減スレハ八日以上二月七日以下トナル故ニ十一月以上二月七日以下ノ禁錮又ハ八日以上十日以下ノ拘留ニ處スルコトヲ得ヘシト雖モ一日以上七日以下ノ拘留ニ處スルコトヲ得サルカ如シ之ニ反シ減盡ノ場合ニ於テ拘留科料ニ處スルハ其各範圍内ニ於テ之ヲ處スルコトヲ得其制限ナシ或學者ハ不減盡ノ場合ニ於テモ亦拘留科料ノ各範圍内全般ニ付キ制限ナク之ニ處スルヲ得ト論スルモノアリト雖モ此說ハ取ルニ足ラス大審院ノ判決モ亦此說ヲ容レズ又本條ノ末文ニ處スルコトヲ得ルトアルハ拘留科料ニ處スルモ又ハ放免スルモ隨意ナルノ意義ニアラズ犯

情重キ時ハ禁錮罰金ニ處スルヲ得ヘク其情輕キ時ハ拘留科料ニ處スルヲ得ヘシトノ意義ナルコトハ勿論ノトニ屬ス

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減スヘキ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ

其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルコトヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ

至ルコトヲ得減シテ一日以下ニ降スコトヲ得スコトヲ得ス科料ハ加ヘテ貳圓四拾

錢ニ至ルコトヲ得減シテ五錢以下ニ降スコトヲ得ス

本條第一項拘留科料ニ該ル者ノ加減例ヲ禁錮罰金ノ例ニ依ラシメ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲シタルハ禁錮罰金ニ於ケル規定ノ理由ト同シク拘留科料ハ其性質相同シカラスシテ科料ヲ加ヘテ拘留ト爲シ又拘留ヲ減シテ科料ト爲スコトヲ得ザルヲ以テナリ第二項違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルコトヲ得サルハ輕罪ノ刑ヲ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ禁シタル法意ト同シク違警罪ノ刑ト輕罪ノ刑トハ恰カモ輕罪ノ刑ト重罪ノ刑トノ如ク其相距

ルノ頗ル遠ク加重ノ情狀メミヲ以テ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ許サハルヲ以テナリ然レモ其結果トシテ拘留ノ長期以上科料ノ高額以上ニ該ル犯人ニ對シテハ之ヲ加重スルヲ得ザルヲ差支ラ生ズルヲ以テ拘留ハ加ヘテ十二日ニ科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得ルト定メタルナリ又其拘留ヲ一日以下ニ降スヲ得ス科料ヲ五錢以下ニ降スヲ得スト定メタルハ何時何分ノ拘留ノ如キ一錢二錢ノ科料ノ如キハ極メテ細短細少ニシテ刑ノ目的ヲ達セサルヲ以テナリ拘留科料ヲ四等減シ即チ減盡シタル場合ニハ被告人ヲ放免スヘク又減盡セサル場合即チ其短期寡數ノミ拘留一日以下科料五錢以下ニ下リタル場合ニモ裁判官ハ其以下ニ降スヲ相當ナリトスルモ亦被告人ヲ放免スヘキナリ何トナレハ一日以下ノ拘留五錢以下ノ科料ニ降スヲ得ストノ規定ハ一日以下五錢以下ノ刑ナキヲ示シタルモノニシテ裁判官ノ酌量ノ職權ヲ妨害シテ其制限ヲ加ヘタル法文ニアラザレハナリ

**第七十二條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス**

本條禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日未滿ノ端數ヲ除棄スルノ規定ハ

前條拘留ヲ一日以下ニ降スヲ得サルノ規定ト同一ノ理由ニ出テタルニアラス前條ハ其全數カ一日以下ニ下リタル場合本條ハ加減ノ端數カ一日未滿ナル場合ヲ規定シタルモノニシテ其一日未滿ノ端數ヲ除棄スルハ其分數ヲ増完シテ犯人ニ不利益ヲ與ヘンヨリハ之ヲ除棄シテ利益ヲ得セシムルヲ穩當トスルノミナラス分數ヲ細カニ計算スルハ執行上困難ナルヲ以テナリ而シテ罰金科料ニ付テ何厚ノ如キ小數ヲ生スルモ法律ハ之ヲ除棄セサルハ執行ノ困難ナケレハナリ

**第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタルモ止タ主刑ヲ科ス**

本條ハ附加罰金ノ加減法ハ主刑ニ從テ加減スルモノナルヲ規定シタルモノナリ抑モ附加刑ハ前述ノ如ク罰金ノ外數多アリト雖モ獨リ罰金ノミニ付キ本條ニ其規定ヲ設ケタルハ罰金ハ加減シ得ヘキ者ナリト雖モ剝奪公權ハ終身ニシテ停止公權ハ主刑ト其期間ヲ同フシ又沒收ハ或ル特定物ヲ沒收スル者ナレハ各加減シ得ヘキモノニアラス監視ハ加減スルヲ得ヘキ刑ナレモ元來監視ハ再犯ヲ豫防スル爲メ犯人ノ舉動ヲ檢束スルモノナルカ故

ニ其刑期ノ如キモ元ヨリ短キ(六月以上二年以下、六月以上三年以下)モノナレハ若シ之ヲ減シテ僅少ノ期間トナサハ其刑ノ目的ヲ達スルヲ能ハサレバナリ而シテ主刑ニ從テ附加罰金ヲ加減スルノ方法ハ主刑ノ罰金ノ加減法ト同シク其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲シ若シ附加ノ罰金ヲ減盡シタルハ主刑ノミヲ科スヘキモノトス蓋シ罰金ハ第廿六條ニ依リ二圓以上ナルヲ以テ二圓ヨリ下ルハ之ヲ科料ト稱セサルベカラズ然ルニ科料ハ違警罪ノ主刑ニシテ之ヲ附加刑ト爲スナキヲ以テ附加罰金ヲ減シテ二圓ニ下リタルハ唯主刑ノミヲ科スヘキ者ナルヲ以テナリ故ニ禁錮ハ存スルモ附加罰金ノミ減盡シタルハ單ニ禁錮ニ處シ禁錮及ヒ附加罰金ヲ共ニ減盡シタルハ單ニ拘留ニ處スヘキナリ大審院判決例ニ主刑ノ禁錮ヲ減盡シテ拘留ニ處スルハ附加刑ノ罰金減シテ科料ニ下ルト雖モ之ヲ附加スルヲ得ストアルハ前述ノ理由ニ出テタル者ト謂フヘシ若シ夫レ禁錮ハ減盡シ又ハ其短期十日以下ニ及ヒタルニ罰金ハ仍ホ二圓以上ノ範圍ニ存スルハ如何此ノ如キ場合若シアリトセハ罰金ヲ附加スヘキ主刑ナキヲ以テ罰金ハ自然消滅シタル者トシ單ニ拘留ニ處スルヲ相當トス蓋シ從ハ主ニ伴フノ原則ニ因ルヘキ者ナレハナリ

### 第四章 不論罪及ヒ減輕

#### 第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

本條ノ規定ハ主トシテ主觀的ニ屬シ刑法哲學的トモ謂フヘキ規定ニ屬ス余ハ本編緒論ニ於テ我刑法ハ純正主義及ヒ結果主義ヲ折衷シタル所謂折衷主義ヲ採用シタルモノナルコトヲ説述シ從テ或ル所爲ヲ犯罪トスルニハ背徳及ヒ加害ノ二要素ヲ具備セサルベカラザルモノナルコトヲ説述セリ業既ニ犯罪ハ背徳及ヒ加害ノ二要素ヲ具備セサルベカラザルモノナルニ於テハ犯罪ノ主体ト爲リ得ル者ハ有形ノ人類ニ限ルモノナルヲモ説述セリ而シテ背徳ハ人ノ自由ニ關シ人ノ意思ニ關シ人ノ辨別ニ關シ加害ハ社會カ受クル損害ニ關スルモノニシテ背徳ハ主觀的ニ屬シ加害ハ客觀的ニ屬スルト同時ニ本章ハ背徳ニ關スル規定ナルヲ以テ余ハ前ニ本章ノ規定ハ主トシテ主觀的ニ屬スルモノト説述セシ所以ナリ抑モ前述ノ如ク犯罪ハ背徳及ヒ加害ノ二要素ヲ具備セサルベカラサルモノナルニ於テハ犯罪ノ成立ニハ所爲アルヲ要スルヘ勿論ナレトモ其所爲タルヤ之ヲ行フノ意思即チ犯

一 懲治場留置ノ言  
 渡ニ對シテハ上  
 訴ヲ許サス故ニ  
 上訴期間ヲ告知  
 スヘキ者ニ非ス  
 (廿六年十一月  
 大審院判決)  
 一 懲治場留置處分  
 ニ付テハ法律ノ  
 規定ニ備ナルヲ  
 以テ法律ノ趣旨  
 ヲ推究シテ左ノ  
 如ク論定セサル  
 一 留置處分ヲ爲  
 スヘキ裁判所  
 ハ其公訴事件  
 ヲ裁判シタル  
 裁判所即チ不  
 論罪ノ言渡ヲ  
 ナシタル裁判  
 所ナリ  
 二 檢事ハ留置處  
 分ノミヲ目的  
 トシテ公訴ヲ

起スルヲ得サ  
ルノミナラシ  
公訴中ニハ留  
置ノ請求ヲモ  
包含スト云フ  
ト得サルナ  
リ何トナレハ  
無罪ノ人ニ對  
シ刑罰以外ナ  
ル處分ヲ求ム  
ル爲メノ公訴  
アルヘキ者ニ  
アラサレバナ  
リ故ニ留置ハ  
法律ニ於テ公  
訴ヲ受ケタル  
事件ニ付裁判  
所ニ命シタル  
特別ノ處分ト  
爲サルベカ  
ラズ  
三裁判所ハ公訴  
ヲ受ケタル事  
件ニ付テハ別  
段ノ請求ヲ待

タズ留置處分  
ヲナスコト得  
留置處分ハ如  
何ノ方式ニヨ  
リ之ヲ言渡シ  
タルニ拘ハラ  
ズ不論罪ノ判  
決トハ全ク其  
性質ヲ異ニス  
ルモノナレハ  
該處分ハ一個  
ノ命令ニ屬ス  
ルモノト云ハ  
サルヲ得ズ  
五留置處分ニ對  
シテハ上訴ヲ  
ナスコト得ズ  
六留置處分ハ檢  
事ノ指揮ニヨ  
リ之ヲ執行ス  
ヘキモノトス  
(廿五年六月決議)  
一是非ノ辨別トハ  
行爲ノ善惡ヲ識  
別スルノ知力ニ

二

意アルヲ要シ其所爲ノ是非善惡ヲ識別スル辨別アルヲ要シ又其惡事タルヲ知ルヲ以テ之  
ヲ爲サ、ラント欲スレハ爲サ、ルヲ得ルノ自由アルヲ要ス此三個ノ條件即チ自由、辨別、  
及ヒ犯意ヲ具備シ行ヒタル所爲ヲ始メテ犯罪トハ謂フナリ而シテ右辨別及ヒ自由ノ二條  
件ハ有意犯無意犯タルト重罪、輕罪、違警罪タルト問ハズ犯罪ノ成立スルニハ一般ニ之  
ヲ具フルヲ要スレトモ犯意ノ一條件ハ之ヲ欠クモ猶ホ犯罪成立スルノ例外アリ之ヲ無意  
犯又ハ過失犯ト云フ夫レ社會ニ加害ノ所爲ヲ行フモ何故ニ右三個ノ條件ノ一ヲ欠ケハ犯  
罪ト爲サ、ルカ或學者ハ國家ハ背徳及ヒ加害ノ具備シタル所爲ノミヲ罰スルコトヲ得ヘキ  
カ故ニ社會ニ害ヲ加フルモ背徳ナケレハ本人ニ責任ナキヲ以テ國家ハ之ヲ罰スルノ權ナ  
シト云フト雖モ此論ハ正皓ヲ得タルモノト謂フヘカラズ何トナレハ國家ニ害ヲ加フレハ  
三個ノ條件ヲ欠クト否ラサルト問ハズ被害者タル國家ハ己ニ危害ヲ受ケタルモノナル  
ヲ以テ之ヲ罰スルノ必要アリト認メハ之ヲ罰スルノ權アリト云ハサルベカラズ然ルニ之  
ヲ罰セサルハ如此モノヲ罰スルノ必要ナキモノト認メタレハナリ即チ自由ナキモノ辨別  
ヲ欠クモノ犯意ナキモノ、所爲ハ假令社會ニ害ヲ加フルモ社會ニ眞ノ危險ヲモ生セサル

ノミナラス又之ヲ罰シタレバトテ自由辨別等ナキモノ、如キハ毫モ其刑罰ノ眞味ヲ感セ  
サルベク反之彼ノ是非ヲ辨別シ之ヲ爲スノ自由ナリ又之ヲ犯スノ意思アリテ加害ノ所爲  
ヲ行フカ如キモノニ至テハ社會ニ眞ノ危險ヲ生スルモノト謂フヲ得ベク又之ヲ罰シテ刑  
罰ノ目的ヲ達スルヲ得ベキモノナレハ如此ノモノニシテ始メテ國家ハ之ヲ罰スルノ必要  
アルヲ認メタルナリ上述ノ如ク國家ハ其必要アリテ之ヲ罰スル所爲ヲ犯罪ト爲スヲ以テ  
其之ヲ罰スル必要ナキ所爲即チ辨別、自由、犯意ノ一ヲ欠クモノ、所爲ノ如キハ之ヲ犯罪  
ト見ルベカラズ換言スレハ無罪又ハ犯罪成立セサルモノト論セサルベカラズ抑本章不論  
罪ノ文字ノ如キ其意味實ニ漠トシテ明瞭ナラズ罪アレトモ措テ問ハスト解スヘキガ如シ  
ト雖モ法意ノアル所ハ前述ノ如ク犯人カ精神的要素タル辨別、自由、犯意、ノ一條件以  
上ヲ欠クニ基ク無罪即チ犯罪ノ不成立ト云フニ外ナラズ又減輕ニ宥恕減輕、自首減輕、酌  
量減輕アリト雖モ減輕ハ不論罪ト異ナリテ犯罪行爲ニハ必要ノ條件具備スルヲ以テ其罪  
固ヨリ成立スルモ他ノ原因ニヨリ刑ヲ減輕スルモノヲ云フ茲ニ一ノ附言スヘキコトハ彼ノ  
第三百十四條乃至第三百十六條ノ規定所謂正當防衛即チ權利執行ノ規定ニ付テナリ我現



シテ罪ヲ犯ス意  
思ノ有無ニ關セ  
ス

(廿四年四月判決)  
一 亂醉シテ果シテ  
知覺精神ヲ喪失  
シタルニ由ル所  
爲ナルハ不論  
罪ノ原因トナル

(廿二年三月全上)  
一 嗜好ノ酒量ヲ過  
コシタルノミヲ  
以テ知覺精神ヲ  
喪失シタル者ト  
云フヲ得ス

(廿二年三月全上)  
一 法律上年齡ヲ算  
スルヲ以テスヘ  
キモノニシテ日  
ヲ以テ算フヘキ  
モノニアラズ

(廿二年十月全上)  
一 是非ノ辨別アリ  
テ犯シタルコトヲ  
判決ニ明示セサ

ルハ不法ナリ  
一 九年十月全上  
一 犯人自身ノ内部  
ニ強制ハ不論罪  
ノ理由トナラズ

(岡田學士)  
一 其意ニ非サルト  
ハ希望スル念ナ  
クシテトノ意ナ  
リ

(江木博士)  
一 精神上ノ自由ヲ  
欠キテ解スベ  
シ

(富井博士)  
一 岡田學士  
一 第七十五條第二  
項ハ人力以外ノ  
強力ニ限リ自由  
ヲ失フタル場合  
ナリ

(江木博士)  
一 龜山松室  
一 兩學士

行法ハ正當防衛ノ規定ヲ第八十四條ニ依リ殺傷ニ關スル特別ノ宥恕及ヒ不論罪ト爲シ之  
ヲ前述ノ數條ニ規定シアリト雖モ正當防衛ノ方法ハ單ニ殺傷ニ限ルヘキモノニアラズ又  
防衛ノ主体ヲ生命、身体、財產ニ制限シアリト雖モ其他ノ權利ヲモ保護スヘキハ論ヲ俟タ  
ス仍テ之ヲ本章ノ中ニ規定スヘキモノト信スレトモ這ハ又立法論ニ涉ルヲ以テ之ヲ避ケ  
進ンテ逐條之カ解釋ヲ試ルベシ

第七十五條 抗拒スヘカラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非ルノ所爲ハ其罪  
ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避クヘカラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親  
屬ノ身体ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同シ

本章ハ自由ヲ欠クニ基ク所爲ノ不論罪タルコトヲ規定シタルモノナリ抑モ人ハ他人ノ強力  
又ハ人以外ノ強力ニ抑壓セラレテ身体ノ自由ヲ喪失シ又ハ精神ノ自由ヲ喪失ス而シテ身  
体ノ自由ヲ有形ノ自由ト云ヒ精神ノ自由ヲ無形ノ自由ト云フ今此ノ有形ノ自由ヲ喪失シ  
タル所爲ノ從來學者ガ引用セル例ヲ擧クレハ  
(1) 甲者カ乙者ニ手ヲ捕ヘラレ力及ハスシテ丙者ヲ毆打創傷シタルカ如キハ他人ノ強力ニ

ヨル甲者カ有形上ノ自由ヲ欠クニ基ク所爲ナリ  
(2) 囚徒ガ船舶ヲ以テ他ニ護送セララル、際暴風ノ爲メ絶海ノ孤島ニ漂着セシメラレ之ニ上  
陸シタルカ如キハ人以外ノ強力ニヨル囚徒カ有形上ノ自由ヲ欠クニ基ク所爲ナリ  
又其無形ノ自由ヲ喪失シタル所爲ノ從來學者ガ引用セル例ヲ擧クレハ  
(1) 内乱ノ際家屋ヲ燒拂ヒ一族ヲ廢ニスヘシト脅迫セラレ終ニ賊ニ降リタルカ如キ是レ他  
人ノ強力ニヨル精神上無形ノ自由ヲ欠クニ基ク所爲ナリ  
(2) 航海中船舶覆没シ將ニ溺レシトスルニ當リ僅カニ一人ノミヲ救フニ足ル木片ヲ發見シ  
テ之ニ取付キタル他人ヲ木片ヨリ突放シ自己ノミ至キヲ得テ他人ヲ溺死セシメタルカ  
如キ是レ人以外ノ強力ニヨル無形ノ自由ヲ欠クニ基ク所爲ナリ

學者或ハ有形ノ自由ヲ欠クニ基ク場合ハ本條ニ包含セサルト爲シ其理由ニ有形ノ自由ト  
ハ身体ノ自由ニ運動スルヲ云フ從テ有形ノ自由即チ身体運動ノ自由ヲ欠クニ基ク所爲ハ  
其者ノ所爲ト云フ能ハス前例甲ノ毆打シタル手ハ乙ノ機械トナリシニ過キスシテ之ヲ使  
用シタル乙ノ所爲ナリ又囚徒カ豫定ノ場所ニ往カザリシハ囚徒ニ逃走ノ所爲アルニ非ズ

一 故意トハ犯罪ノ結果ヲ生シメントスル意思ナリ  
 (江木博士) 第一項ノ場合ニ合マルト雖モ特ニ事實ノ判定ヲ禁シタル法律ノ推定ヲ示ス  
 (富士博士) 自然ノ強力ニ依ルカ爲メニアラズシテ一種ノ防衛ナリト  
 (古賀學士) 一犯意トハ故意ニ人ヲ害スルノ意思ヲ云フ  
 (江木博士) 一國法カ罪トシテ示シタル所爲ヲ實行セシトスル決心ヲ云フ  
 (岡田學士)

一 十二歳未満ノ幼者精神喪失者自由欠缺者ト無意ニ付テモ責任ナシ  
 (古賀學士) 一 刑法八十條ニ謂フ是非ノ辨別トハ所爲ノ善惡ヲ識別スルノ知力ニシテ罪ヲ犯スノ意思ノ有無ニ關セス  
 (廿四年四月判決) 一 被告人ノ年齢ヲ算出スルニハ明治六年三月六號布告ニ依リ其生月ヨリ起算スヘキモノトス  
 (廿四年六月全上) 一 十六歳以上二十歳未満ノ犯罪者ニ付テハ刑法上二十年ニ滿

暴風ナル人以外ノ強力カ囚徒ヲ他所ニ往カシメタルノミ此ノ如ク既ニ犯意ナク又犯罪ノ所爲モナクハ其犯罪ノ成立セサルコトハ本條ノ規定アルカ爲メニアラズシテ一般ノ原則ノ適用ナリ是ヲ以テ本條ノ不諭罪ハ自由ノ喪失ヲ理由トシタルモノナルモ有形上ノ自由ヲ喪失シタル場合ハ本條ニ包含セスト説明スト雖モ本條ノ所爲ノ文字ニ付テハ法律ハ自己ノ運動ナルト他ニ運動セシメラレタルト區別セサルノミナラス反テ本條ニ所謂所爲ハ自己ノ運動ニ因ル所爲ニアラスト雖モ尙ホ自己ノ所爲ト見做シタルコトヲ知ルニ足レリ何トナレハ第一項ニハ強制ト云ヒ第二項ニハ天災又ハ意外ノ變ニ因リト云ヒ以テ其運動ノ所爲ハ自己ノ所爲ニアラスシテ強制ノ爲メ又ハ人以外ノ強力ノ爲メト明言シ斯ル場合ニモ其原因ヲ問ハス自己ノ所爲ナルコトヲ示シアレバナリ從テ本條ハ有形ナルト無形ナルトヲ問ハス總テ自由ヲ欠クニ基ク所爲ハ之ヲ包含スルモノト論セザルヘカラズ本條第一項ノ不諭罪タルニハ其抗拒スヘカラサル強制カ偶然ニ出テ其強制ヲ受クヘキコトヲ豫知セズ若クハ豫知スルコトヲ得サリシヲ要シ又強制ヲ避クル手段ナキコト又強制ニ因ル危害ノ確的ナルコト又其危害カ被強制者カ行フ所ノ害ニ比シ大ナルコト又其危害

ノ目前ニ在ルコト等ヲ要ス而シテ本項ニ其意ニ非サルノ所爲トハ犯意ナキノ所爲ト云フ意義ニアラスシテ自由ヲ欠キタル所爲ト云フ意義ニ解釋スヘキナリ第二項ノ不諭罪タルニモ亦其避クヘカラサル危難カ偶然ニシテ之ヲ避クル手段ナク又確的ニシテ目前ニ在ルコト等ヲ要スルハ勿論ナリ而シテ本項ニ所謂親屬ハ第十章親屬例ニ依ルヘキハ亦勿論ナリ(人ヲ殺サレハ已レ全キヲ得サル場合即チ二者擇一ノ本項ノ場合ニ於テモ普通ノ人情ヨリ觀察シテ自由ヲ失フタルモノトス)  
 今第一項ト第二項トノ關係ヲ説述センニ或學者ハ第一項ハ自由ヲ欠クニ基ク所爲ハ總ヘテ不諭罪タルコトノ一般ノ原則ヲ規定シタルモノナリ故ニ第二項ニ規定シタル場合モ亦第一項ニ包含セラルベシト雖モ第二項ハ事實審判ヲ許サスシテ當然無罪ノ言渡ヲナスヘキニ必要ナル條件トシテ特ニ規定シタルモノニシテ自己又ハ親屬ノ身体防衛カ必要條件ナルコトヲ規定シタルモノナルヲ以テ若シ此ノ條件ヲ欠キ自己又ハ親屬ノ財産及ヒ刑法以外ノ縁者ノ身体財産ヲ防衛スルノ所爲ト雖モ天災又ハ意外ノ變其他總テ強制ニヨリ自由ヲ失フタルニ出タルト否トヲ審案シ其自由ヲ失フタルニ出タルモノハ本條第一項ニヨ

ルト否トヲ區  
別スルヲ必要ト  
ナスモ其丁年未  
丁年ノ區別ヲ爲  
ス必要ナキカ故  
ニ右斷罪ノ際明  
治六年三月六號  
及同五年三月三  
十七號布告ヲ適  
用シ同年四月十  
一號即チ丁年ヲ  
定メタル布告ヲ  
適用セサルハ相  
當ナリ

(廿六年十月全上)  
一 罪ヲ犯ス時十  
二歳ニ滿タサ  
ル者ノ不諭罪  
及親屬相盜者ノ  
竊盜ヲ以テ論セ  
サルハ畢竟身分  
ニ依リ其罪ヲ論  
セサルノミ其性  
質ニ於テハ即チ  
竊盜タルヲ論フ

リ無罪ヲ宣告スヘシト説ケリト雖モ第一項ハ他人ノ爲メニ強制セラレテ自由ヲ失フタル  
場合ヲ規定シ第二項ハ人以外ノ強力ニヨリ自由ヲ失フタル場合ヲ規定シ併セテ強制力人  
ヨリ來リタル時ハ制限ナシト雖モ人以外ヨリ來リタル時ハ自己又ハ親屬ノ身体ヲ防衛ス  
ル時ニ限り不諭罪ナルコトヲ示シタルナリ他人ニ強制セラレタルトキハ自由ヲ欠クノ所  
爲カ盡ク無罪トナリ人以外ノ強制ナルトキハ自由ヲ欠クノ所爲カ無罪トナルニハ特ニ自  
己又ハ親屬ノ身体ヲ防衛スル所爲ニ限ルヘキ理由ナシト雖モ法文ノ解釋トシテハ以上ノ  
如ク説明セサルヲ得ズ何トナレハ第二項ハ天災云々ト明記シテ第一項ニ對シ別種ノ人以  
外ノ強制ニ係ル場合ヲ規定シタルモノナルコト明瞭ナルノミナラズ第二項ノ場合ト雖モ  
避クヘカラサル危難トアル以上ハ固ヨリ事實ノ審査ヲ爲ササルベカラサルハ勿論ナレバ  
ナリ反對ノ學說ハ一種ノ理論ニ依リ法文ヲ曲解スルモノト謂ハサルベカラズ蓋シ第二項  
ニ於テ自己又ハ親屬ノ身体ヲ防衛スル場合ニ限りタルハ猶ホ第三編第一章第三節中ニ規  
定セル正當防衛ノ主体ヲ生命、身体、財産ニ限りタルカ如シ是ヲ以テ必要ノ條件ト爲シ事  
實審判ヲ許サズシテ當然無罪ヲ言渡スヘシトノ法意ニアラサルナリ夫レ一般ノ法理ヨリ

俟タス故ニ十二  
歳未滿ノ幼者及  
親屬間ノ竊盜ニ  
係ル財物ヲ寄藏  
シ又ハ放買シタ  
ル者ハ刑法ノ制  
裁ヲ免レズ

(廿七年一月全上)  
一 十二歳ニ滿タ  
サルモノハ其  
罪ヲ論セズト  
規定シタルハ罪  
免ストシテ之ヲ  
非スルノ法意ニ  
非スルハ犯罪組  
成ノ要素タル罪  
ヲ犯スノ思ニ觸  
ルコトアリト  
雖モ固ヨリ罪ヲ  
犯シタルト爲ス  
ヘカラス從テ一  
般ノ犯罪ニ幼者  
ノ加功スルコト  
アルモ之カ爲メ

推論スレハ兩者共斯ル制限ヲ設クヘキ謂ハレナシト雖モ是レ現行法ノ欠点ニシテ此ノ  
欠点アルヲ以テ猥リニ法文ヲ曲解スヘカラサルナリ若シ夫レ立法論トシテハ上述ノ理由  
ニ依リ刑法改正案ノ規定ニ同意シ自己又ハ他人ノ生命、身体、自由又ハ財産ニ對スル現在  
ノ危難ヲ避クル爲メ己ムルヲ得サルニ出タル所爲ハ其所爲ヨリ生シタル害其避ケン  
ズル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セスト本條ヲ改正スヘキモノト信スルナリ。  
天災又ハ意外ノ變ニ原因セズ貧困ニ迫リテ人ヲ殺シ飢餓ニ迫リテ飲食物ヲ盜ミタル所爲  
ハ第一項ノ抗拒スヘカラサル強制ニモアラズ又第二項ノ避クヘカラザル危難ニモアラザ  
レハ不諭罪ノ限リニアラズト雖モ其飢餓カ天災又ハ凶年ニ原因スルトキハ不諭罪ヲ以テ  
論スル場合モアルベシ

**第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪  
ヲ論セズ**

本條ハ前條ノ如ク意アリテ爲セル所爲ナリト雖モ自由ヲ有セサル所爲ニ係ルヲ以テ犯罪  
トナラサル即チ不諭罪ナル場合ヲ規定シタルモノニシテ本條ノ不諭罪タルニハ本屬長官

二人以上共ニ其罪ヲ犯シタルモノト爲スヘカラサルコト勿論ナリトス  
 (廿八年七月全上)  
 一 飲酒酩酊ヲ以テ精神ノ喪失ト認ムルト否トハ承審官ノ事實認定ニ屬ス  
 (廿八年七月全上)  
 一 法律ハ酒癖者ノ飲酒シタル事實ヲ以テ知覺精神ノ喪失ヲ推測スルコトナシ  
 (廿八年七月全上)  
 一 被告ノ年齢ハ必スシモ戸籍ニ憑據スルヲ要セズ証人及參考人ノ豫審調査ヲ探容シ之ニ依テ算定スルコトヲ得

而シテ其年齢ノ算定ハ事實問題ニ屬ス  
 (廿九年三月全上)  
 一 刑法八十一條ニ所謂十六歳以上ノ文詞ニハ滿十六歳ヲ包含ス  
 (廿九年三月全上)  
 一 連續犯ハ分割スヘカラス從テ最初ノ犯行丁年未滿ナレバトテ之ヲ分割シテ刑法八十一條ヲ適用スルコトヲ得ス  
 (卅年五月全上)

ノ適法ノ命令ニ從ヒ職務ヲ以テ爲シタル所爲ナルコトヲ要スルモノナリ之ヲ分解シテ説明スレハ第一長官ノ命令ノ適法ナルヲ要ス故ニ其命令ハ受命ノ屬官カ執行ヲ拒絶スルヲ得サル命令ニ限ルモノトス若シ夫レ法律規則ニ違反シタル命令ハ長官ト解釋ヲ異ニシ然ル法律規則ヲ執行スヘキ命令ニ對シテハ屬官ハ之カ執行ヲ拒絶スルコトヲ得ヘシト雖モ長官カ事實ノ認定ヲ誤リタル命令ニハ屬官ハ其執行ヲ拒ムコトヲ得ズ第二長官ノ適法ノ命令ニ從ヒタル所爲ナルコトヲ要ス若シ夫レ命令ニ從ハサル所爲ナルトキハ自己單獨ノ所爲トナルヲ以テ自由ヲ有セスト謂フヘカラズ故ニ本條ノ不諭罪ヲ以テ論スヘキニアラズ第三職務ヲ以テ爲シタル所爲ナルヲ要ス若シ夫レ職務外ノ所爲ニ係ルトキハ命令ト服從トノ關係ナキヲ以テ本條ヲ以テ論スヘカラサルハ別ニ説明ヲ要セス之ヲ要スルニ屬官ノ所爲ハ職務ヲ以テ行ヒ長官ノ命令ニ從ヒ其命令ノ適法ナルコトヲ要スルナリ然レトモ法令ヲ命令スル所ニ依リ其職務ヲ以テ爲シタル者モ亦本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ト同シキヲ以テ本條ノ法文ハ其規定ノ範圍狹隘ニ失スルヲ覺ユ

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於

テ別ニ罪ヲ定メタルモノハ此ノ限りニ在ラズ  
 罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス  
 罪本重カルヘクシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルコトヲ得ス  
 法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スコトヲ得ズ  
 前二條ハ意思アレトモ自由ヲ有セサルニ因リ不諭罪タル場合ヲ規定シ本條ハ自由ヲ有スレバ意思ナキニ因リ不諭罪タル場合ヲ規定シタルモノナリ本條第一項罪ヲ犯スノ意ナキ所爲トハ各本條ニ規定セル罪ヲ犯スノ意思ナキ所爲ヲ云フ故ニ謀殺罪ノ如キハ熟考上ノ意思ヲ要シ故殺罪ノ如キハ唯故意ノミヲ要シ文章偽造行使罪ノ如キハ故意ノミニテハ罪トナラスシテ眞物ニ擬シタルモノヲ造ル意思アル外眞物ノ如ク之ヲ行使セントスル特別ノ意思アルヲ要ス然レトモ罪ヲ犯スノ意即チ犯意ハ犯罪ヲ決定セシメタル原因ト混同スヘカラズ例ヘハ貧困ニ原因シ利慾ニ原因スル等竊盜罪ノ原因ハ種々アルベシト雖モ是レ竊盜罪ノ原因ニシテ竊盜罪ノ犯意ニアラサルカ如シ又犯意ハ犯罪事實ノ因テ生シタル所爲ヲ行フノ意思ト混同スヘカラズ例ヘハ銃獵ニ過ツテ人ヲ殺シタルカ如キ其殺人ノ事實

ノ生シタル發砲ノ所爲ハ有意ヲ以テ行ヒタルモ殺害ノ犯意ハ之ヲ欠キタルカ如シ今夫レ  
 犯意ト犯罪ノ所爲トノ關係ヲ畧述スレハ犯罪ノ所爲トハ犯意ト其犯意ノ向フ事實トヲ相  
 連絡スル所ノ行動ヲ云フ故ニ所爲ハ手段ヨリシテ犯意ヲ事實ニ連絡セシムル所ノ行動ノ  
 謂ナリ行動ト事實トハ同一ナルカ如クナレトモ決シテ然ラス事實ハ行動ノ結果ノ狀態ニ  
 過キス例ヘハ物カ窃取セラレテ犯人ノ手ニ在リト云フハ是レ事實ナリ全ク犯罪ノ主体ノ  
 關係ナクシテ他ヨリ客觀的ニ其狀態ヲ言顯ハシタルニ過キス然レトモ犯人カ物ヲ窃取シ  
 タリト云フトキハ犯人カ物ヲ窃取セントスル犯意ト其物カ窃マレタリト云フ事實トカ相  
 連絡スルヲ以テ主觀的ヨリシテ之ヲ所爲ト稱スルコトヲ得ヘシ然リ而シテ本項何故ニ犯  
 意ナキノ所爲ハ之ヲ罰セサルヤト云フニ犯意ナキノ所爲ト雖モ社會ニ害毒ヲ流スニ至ッ  
 テハ同一ニシテ國家ハ之ヲ罰スルコト得ルナリト雖モ犯意ナキノ所爲迄モ之ヲ罰スルノ必  
 要ヲ認メサルヲ以テ斯ル所爲ハ或場合ヲ除クノ外總テ之ヲ不論罪ト爲シタルナリ而シテ  
 其或場合トハ本項但書ノ法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル場合はレナリ即チ過失殺傷罪  
 ノ如キ失火罪ノ如キ或ハ意思ノ有無ヲ必要トセサル違警罪ノ如キハ無意ノ所爲ナリト雖

モ之ヲ罰スルモノトス蓋シ此等ノ場合ハ假令無意ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルニ非ザレハ國  
 家カ社會ノ安寧ヲ維持スルコト能ハサルモノト認メタルヲ以テナリ彼ノ自由ヲ欠クモノ  
 犯意ナキモノ是非ヲ辨別セサルモノ、如キハ元來其ノ者ニ責任ナキヲ以テ國家ハ是等ヲ  
 罰スル權ナクトノ學說ハ是ニ至テ窮セリト謂フベシ何トナレハ無意犯ト雖モ之ヲ罰スル  
 ヲ要スル場合即チ本項但書ノ規定ヲ要スルノ場合アリテ而シテ此等ノ場合ハ該學說ヲ以  
 テ之ヲ解決スルコト能ハサレバナリ

本條第二項及ヒ第三項ハ犯人カ法律上罪ノ構成スヘキ事實ヲ知ラサリシニ因テ犯シタル  
 場合即チ犯人ノ意思ト其ノ犯シタル事實トカ連絡セサル場合ノ無罪タルヘキヲ規定セル  
 ナリ例ヘハ第二項ノ場合ハ一個ノ物件カ他人ノ所有ナルコトヲ知ラスシテ自己ノ物件又  
 ハ無主物ナリト心得之ヲ占有シタル場合ヲ云ヒ第三項ノ場合ハ他人ト心得テ之ヲ殺害セ  
 シニ實ハ自己ノ父母ナリシト云フカ如キ場合ヲ云フ然レトモ第二項及ヒ第三項ハ必竟犯  
 意ナキ事項ナルヲ以テ之ヲ別ニ規定スルノ必要ナキモノト謂ハザルベカラズ  
 第四項ハ法律規則ヲ知ラサルモノハ犯意ナキモノニアラサルヲ以テ無罪タルヲ得サルコ

トヲ規定セルナリ抑モ法律規則ハ施行期限ニ至レハ法律ハ人皆之ヲ知得シタルモソト推測ス既ニ之ヲ知得シタル以上ハ之ヲ犯ス者之ヲ無罪トナスヘカラズ換言スレハ法律規則ヲ施行期限ニ至リ知ラサルハ人ノ過失ナリ其過失ヲ理由トシテ責任ヲ免レ得ヘキ謂ハレナシト云ハサルベカラズ然レトモ裁判官ニ於テ其不知ノ程度ヲ考量シ酌量減輕ヲ與フルハ固ヨリ差支ナキコトタルハ勿論ナリ今其ノ法律規則ヲ知ラスシテ犯シタル者ト犯意ナク行ヒタル者トノ區別ヲ例セハ遺失物隠匿ノ如キ偶々之ヲ罪トスル法律規則ナシト考ヘテ實行シタルカ如キハ即チ法律規則ヲ知ラスシテ犯シタルニ外ナラズ之ニ反シ之ヲ罪トスル法律規則アリシヲ知ルトスルモ其遺失物ハ自己ノ物ナリト思惟シテ之ヲ實行シタルカ如キハ即チ國法カ罪トシテ其正條ニ示シタル所爲ヲ實行セントスル意思ナキヲ以テ犯意ナキモノト謂ハサルヘカラザルガ如シ

**第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論ゼズ**

本條ハ犯時辨別ヲ欠クソ所爲即チ精神ノ障礙ニ因ル所爲ハ不論罪タルヲ規定セルナリ本條ニ犯時即チ罪ヲ犯ス時トアルヲ以テ所爲ノ當時精神ノ喪失アルコトヲ要ス故ニ會テ

精神ヲ喪失シタルコトアルモ全愈後ノ犯罪ハ有罪ニシテ又犯罪後精神ノ喪失ヲ來シタル者モ亦有罪タルヤ勿論ナリトス抑モ本條ニ所謂知覺精神トハ何ソヤ知覺トハ五官カ各感得スル機能ヲ云ヒ精神トハ是非善惡ヲ識別スル機能ヲ云フト説明ヲナスモノアリト雖トモ這ハ心理学ニ譲ルモノトシテ本條ハ前述ノ如ク其知覺精神ハ如何ナルモノナルハ辨別ヲ欠クモノ即チ是非ヲ辨別セサルモノ、不論罪タル場合ヲ規定シタルモノナラズハ犯時ニ於ケル辨別ハ有無ヲ調査スルヲ以テ緊要ナル事項トスルノミナラス又知覺精神ヲ喪失シタルト認ムヘキ原因モノニシテ足ラズ即チ醫學上ニ於テ精神病トシテ痴呆病、欠損症、抑憂症、興奮症等アリト云ヒ尙ホ酩酊ノ如キモ知覺精神喪失ノ原因タルヲ得ヘシト雖モ其原因タルヤ深ク之ヲ研究スルノ必要ナシ唯所爲ノ當時辨別ヲ欠キタルヤ否ヤヲ調査スルノ必要アルソミ然リ而シテ本項辨別ヲ欠キタル者ノ所爲ハ何故ニ之ヲ不論罪トスルヤニ付テハ既ニ前述セルヲ以テ再々ヒ茲ニ贅セスト雖トモ酩酊ニ付テハ古來三個ノ場合ニ付各學說ヲ異ニセルモノ、如シ其第一ノ場合ハ罪ヲ犯スニ勇氣ヲ加フル爲メ醉狂シタル場合第二ノ場合ハ自ら好シテ飲酒シ醉狂シタル場合第三ノ場合ハ自己ノ過失又ハ

好意ニ非ラスシテ飲酒シ酔狂シタル場合はヒナリ余謂フニ此等ノ三個ノ場合ニ付テハ各別ニ之ヲ討究スルノ必要ナク唯タ前述ノ如ク所爲ノ當時其酔狂カ精神ノ障礙ヲ爲シ是非ノ辨別ヲ欠キタリヤ否ヤヲ以テ罪ノ有無ヲ論斷スヘキモノト信ス而シテ其技ニ至リタル原因ヲ探究スルノ必要ナキヲ以テ其原因ハ第一ノ場合ノ如ク罪ヲ犯スニ勇氣ヲ加フル爲メナルモ第二ノ場合ノ如ク自ら好シテ飲酒シタルモノナルモ第三ノ場合ノ如ク自己ノ過失又ハ好意ニアラスシテ酔狂シタルモノナルモ何レノ場合ヲ問ハス所爲ノ當時辨別ヲ欠キタルコト明瞭ナルニ於テハ無罪ナリト論決スヘキナリ然レモ第一ノ場合ノ如キハ豫期ノ如ク犯行ヲ遂ケタル場合多カルヘク從テ精神ノ喪失ニ非ラサルヲ以テ有罪タルヘキナリ

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キササル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セ

ス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キササル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

前條ハ犯時ニ精神ヲ喪失シ辨別ヲ欠キタル所爲ハ不論罪タルコトヲ規定シ本三條ハ之ヲ喪失シタルニアラズシテ精神ノ發達不十分ナル爲メ辨別ヲ全ク欠クカ又ハ其辨別完全ナラサルカニ因リ不論罪トシ又ハ其罪ヲ宥恕スルコトヲ規定シタルモノナリ抑モ人ノ知覺精神ハ年齢ト著シキ關係アルモノニシテ年ヲ經ルニ從ヒ漸次發達スルモノナレハ古來年齢ト犯罪トノ關係ニ付キ刑法ノ主義凡ソ三個アリ法定主義、裁判主義、及ヒ折衷主義是レナリ法定主義トハ法律ニ一定ノ年齢ヲ示シ之ニ達セサル幼者ハ總テ辨別ヲ欠キタルモノトシテ其ノ所爲ヲ舉テ無罪ト爲シ裁判官ノ反證ヲ舉ルコトヲ許サ、ルノ主義、裁判主義トハ知覺精神ノ發達辨別有無ノ鑑別ハ總テ裁判官ニ一任スルノ主義、折衷主義トハ右二者ヲ

折衷シ法律ニ年齢ノ限界ヲ示シ而シテ之ト同時ニ法律ニ於テ多少裁判官ヲシテ反証ヲ舉  
 ゲテ法律ノ推測ヲ覆スコトヲ得セシムルノ主義ヲ云フ而シテ我刑法ハ第三ノ折衷主義ヲ採  
 用シ犯罪ニ關シ人ノ年齢ヲ三期ニ區別セリ即チ第七十九條ヲ一期トシ第八十條ヲ二期ト  
 シ第八十一條ヲ三期トセリ第一期即チ第七十九條ノ場合ハ十二歳未満ノモノトス此場合  
 ニ於テハ如何ナル所爲アルモ絶對ニ辨別ナキモノトシ無罪ト定メタルモノナルヲ以テ裁  
 判官ニ於テ如何ニ十分ノ精神ノ發達アリト認ムルモ有罪ト爲ス能ハス即チ反證ヲ以テ法  
 律ノ推定ヲ覆ヘスゴトヲ得サルモノナリ第二期即チ第八十條ノ場合ハ十二歳以上十六歳  
 未満ノモノトス此場合ニ於テハ犯罪ノ要素具備スルニ於テハ裁判官ニ於テ是非ノ辨別ア  
 ルヤ否ヤヲ鑑別シ或ハ有罪トシ或ハ無罪ト爲スコトヲ得ルト雖トモ尙ホ法律ハ假令有罪  
 ノ場合ニテモ知覺精神ノ發達不完全ナルモノト推定シ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス故ニ此  
 場合ニハ裁判官ニ年齢ノ爲メ罪責ノ有無ヲ判決スルノ職權アリテ反証ヲ舉クルコトヲ許  
 スモノナリ第三期即チ第八十一條ノ場合ハ十六歳以上二十歳未満ノモノトス此場合ハ犯  
 罪ノ要素具備スルニ於テハ法律ハ一般ニ罪責アリト推定スルモノナレドモ未タ智識完全ナ

ラサルモノトシ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス故ニ此場合ニハ裁判官ハ一ニ法律ノ推定ニ服  
 從セサルヘカラスシテ年齢ノ爲メ罪責ノ有無ヲ推定スルノ職權ナキモノトス或學者ハ二  
 十歳以上ヲ第四期トセリ此場合ノ者ハ法律初メテ智識完全ナルモノト推定シテ一般ニ罪  
 責アリトス

第七十九條第八十條ニ罪ヲ犯ス時トハ罪トナルヘキ所ノ所爲ヲ行ヒタル時ト云フノ意義  
 ニシテ罪ヲ論セストハ前述ノ如ク法律ノ所謂罪ニ非スト云フノ意義即チ無罪タルベシト  
 ノ意義ナリ又右兩條ニ不論罪トナリタル者ハ情狀ニヨリ懲治場ニ之ヲ留置スルコトヲ得  
 ト爲シタルハ蓋シ幼者ノ犯罪ハ往々教育ヲ怠リ又ハ両親ノ惡例ヲ見習フニ原因スルカ故  
 ニ之ヲ罰センヨリハ寧ロ之ヲ留置シテ薰陶改良ヲ圖リ社會ニ罪人ヲ出サバシメン爲メ  
 ナリ而シテ兩條ニ情狀ニヨリトハ辨別アルヤ否ヤノ疑アルト云フノ意義ニアラスシテ  
 教育監督等ノ不十分ナル疑ヒアル場合ヲ云フ夫レ留置處分ハ其性質上ヨリ論スレハ行政  
 上ノ處分ニ屬スルカ如シト雖モ苟クモ本人ノ意思ニ反シ身体ノ拘束ヲナスモノナレバ司  
 法處分トシテ裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナレトモ裁判所ハ別ニ檢事ノ論告ヲ俟タスシ



テ其職權ヲ以テ之ヲ處分スルコトヲ得ベシ何トナレハ其處分ハ幼者ニ刑ヲ科スルニ非ラズシテ幼者ノ利益ヲ圖ルニ外ナラサレバナリ若シ夫レ檢事カ公訴ヲ提起スヘカラストン又ハ豫審判事カ免訴ノ決定ヲ爲ス等ノ時ニ單ニ留置處分ノミヲ爲スヲ要スル場合ノ如キハ何レノ裁判所ノ管轄ニ屬スルヤ元來留置處分ハ純然タル刑事訴訟ニアラザルモ此刑法ノ適用ヲ目的トスルモノナレハ仍ホ之ヲ刑事訴訟ト見做シテ刑事裁判所ニ於テ之ヲ處分スヘキモノタルヤ前述ノ如シ而シテ裁判所構成法ニ依レハ區裁判所ノ權限及ヒ大審院ノ權限ニ屬セサルモノ一切ノ刑事訴訟ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナルヲ以テ其管轄ハ地方裁判所ニアリトス

第八十條是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案ストハ世事一般ノ事物ニ付キ是非ノ辨別アルヤ否ヤヲ云フニアラズシテ幼者カ特ニ其行ヒタル事柄ニ付キテノミ其是非ノ辨別アリシヤ否ヤヲ審案スヘキモノヲ云フ又第八十條第八十一條ノ幼者ノ是非ノ辨別アリテ責任ヲ免カレ、能ハサルニ尙ホ之ヲ減等スル所以ハ智識ノ不完全ナルヲ以テナリ又右兩條本刑ノ減等ニ付テハ裁判官ハ常ニ法律ノ規定ニ從ヒ之ヲ行ハサル可ラサルモノニシテ其ノ自由

ニ屬セサルコトハ勿論ノコトニ屬ス

然ラハ第七十九條第八十條及ヒ第八十一條ノ年齡ノ計算法ハ如何刑法上ノ年齡ニ關シテ特ニ規定シタルモノナキニ於テハ一般ノ年齡ヲ規定シタル明治六年第三十六號布告ニヨリ之ヲ算定セサルヘカテラサルトハ勿論ノコトトス而シテ該布告ニハ年齡ヲ計算スルニハ幾年幾月ト算スヘク舊曆中ニ在テハ一干支ヲ以テ一年トシ其生年ノ月數ハ本年ノ月數ト通算シ十二月ヲ以テ一年トナスヘキ旨ヲ規定シアレハ刑法上ノ年齡モ月ヲ以テ算シ一月ノ端數ハ一日ト雖モ仍ホ之ヲ一月ニ算スヘキモノト謂ハサルベカラズ

**第八十二條 瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得**

本條ハ瘖啞者ノ不論罪ナルコトヲ規定シタルモノニシテ瘖啞者トハ聾ニシテ啞ヲ兼タル者ヲ云フ故ニ其一ヲ能スル者ハ不論罪ノ限リニアラス夫レ瘖啞者ハ耳聞クコト能ハス口言フコト能ハザレハ教育ヲ受クルニ由テテ智識發達ノ途ヲ從テ是非ノ辨別力ヲ欠クモノナレハトテ之ヲ無論罪ト爲シタルモノナラント雖モ近來瘖啞者ノ教育法日ニ益々開ケタル現

時代ニ於テ瘖啞者ヲ十二歳以下ノ幼者ト同視シ均シク其所爲ヲ不論罪トスルニ於テハ聊カ立法上其當ヲ得タルモノト謂フヲ得ザレバ瘖啞者ヲ十二歳以上十六歳以下ノ幼者ト同一ノ位置トシテ之ヲ處分スル等現行法ヲ改正スヘキ点ナリトス既ニ法律ハ瘖啞者ヲ以テ一般ニ智識ナキ者ト推定スルヲ以テ十二歳以下ノ幼者ト同シク瘖啞者タルヲノ一点ヲ證明スレハ無罪タルヘキモノニシテ犯罪ノ當時其ノ特別ノ事件ニ付キ智識ナキコトヲ証明スルヲ要セサルハ別ニ説明ヲ俟タズ

第八十二條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルヲ得ス

滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス

本條ハ違警罪ニ於ケル責任年齢ハ重罪輕罪ニ於ケル責任年齢ト異ナルコトヲ規定シタルモノニシテ其之ヲ異ニスルハ蓋シ違警罪ハ主トシテ社會ニ與ヘタル害迹ヲ罰スル無意犯ニシテ其罪刑輕微ナルヲ以テナリ然レトモ十二歳未滿者及ヒ瘖啞者ハ法律ハ全ク其辨別

ヲ欠クモノトシ總テ之ヲ不論罪ト爲シタル以上ハ違警罪ニ限り之ヲ罰スルノ理由ナキヲ以テ本條末文ニ其之ヲ不論罪トスル規定ヲ設ケタルナリ

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各其本條ニ於テ之ヲ記載ス

本條ハ本節規定ノ不論罪及ヒ宥恕減輕ノ外各本條ノ特別ノ不論罪及ヒ宥恕減輕ノアルヲ示シタルモノニシテ其之ヲ特別ノ不論罪及ヒ宥恕減輕ト爲シ之ヲ一般ノモノト爲サハリシ立法上ノ可否ハ其各本條ニ至リ之ヲ畧論スヘシト雖モ今茲ニ其特別ノ不論罪及ヒ宥恕減輕ノ如何ナルモノナルヤヲ指示スレハ第五百五十三條ニ於ケル親屬犯人藏匿親屬罪証隠蔽ニ關スル不論罪第三編第一章第三節ニ於ケル殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪第三百七十七條ニ於ケル親屬相盜ニ關スル不論罪等はレナリ

### 第一節 自首減輕

自首減輕ハ犯罪後ノ所爲ニ依リ其犯罪ノ責任ヲ減輕スルモノニシテ全ク政策上ノ理由ニ基クモノナリ而シテ其ノ理由四アリ第一犯人ヲ容易ニ知り得ルコト第二犯人ヲ捜査スル

一 強盜殺人犯ニモ  
自首減輕ノ例ヲ  
用ユルコトアルハ  
シ即チ殺人ノ如  
何ナル意思ニ出

ルカヲ審案シテ  
減輕スヘシ  
(十九年七月判決)  
一事未タ發覺セザ  
ル前トハ犯者ノ  
誰タルトハ發覺  
セサル場合ヲ  
云フモノニシテ  
犯罪事件ノ發覺  
シタルト否トハ  
問フ所ニアラズ  
(廿年九月全上)  
賭博ノ現行ヲ巡  
査ニ撞見セラレ  
タルハ已ニ發覺  
アリトス故ニ現  
場ヨリ逃走シテ  
後自首スルモ之  
ヲ減刑セス  
(廿二年十月全上)  
監視規則違犯ハ  
警察署ニ出頭シ  
テ謹慎ヲ表セザ  
ルト共ニ即チ其  
犯罪アル事實及

ヒ犯人ノ誰タル  
ト發覺シタルモ  
ノナルヲ以テ自  
首減刑ヲ與ヘス  
(廿二年五月全上)  
自首減輕ハ止タ  
其自首シタル犯  
罪ニ限ル故ニ之  
ニ附帶スル犯罪  
ニシテ自首セザ  
ル部分ニ及ホス  
コトヲ得ス即チ  
監守盜ヲ自首ス  
ルモ其附帶ニシ  
テ且ツ其手段タ  
ル官文書偽造及  
ヒ官印盜用ノ自  
首セサル部分ハ  
減刑ノ限ニアラ  
ズ  
(十九年三月全上)  
既發自首トハ官  
及ヒ被害者ニ於  
テ犯人ノ誰タル  
トヲ知ルカ又ハ

ノ手續及ヒ費用ヲ省クコト第三犯人ヲ罰セサルノ恐ナキコト第四無辜ヲ罰スルノ恐レナ  
キコト是レナリ支那法系ノ學說ハ罪惡悔悟ヲ以テ自首減輕ノ理由ト爲スト雖モ此ノ說ハ  
我刑法ヲ解釋スレコト能ハズ何トナレバ我刑法ニ於テハ假令真心悔悟ノ自首ト雖モ其日  
時カ事發覺後ニ係レハ減刑スルコトナク反之悔悟ノ念ナク減刑ノミヲ目的トシテ首出シタ  
ル者モ事發覺前ナレハ減刑ヲ受クヘキモノナレバナリ且ツ夫レ罪惡悔悟ノ如キハ全ク犯  
人ノ心情ニ基クモノニシテ裁判官ハ自首ノ各人ニ付キ嚴密ニ之ヲ調査セサレハ知得シ能  
ハサルノミナラズ假令嚴密ニ之ヲ調査シタル場合ト雖モ尙ホ其錯誤ナキヲ保スヘカラサ  
ルモノナレハ法律ハ斯ル豫知スルコト能ハサル悔悟ナルモノヲ以テ之ヲ理由トシ減輕法ヲ  
設クルコトヲ得サルハ勿論ノコトス

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者

ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラズ  
自首減輕ハ上述ノ如ク犯人ノ心情ニ基クモノニアラズシテ公益ニ基キ設ケタルモノナレ  
ハ本條ニ所謂發覺ハ官ニ於テ犯罪事實アリシコトヲ知ルノミナラス其犯人ノ誰某タルコトヲ

モ知ラザルニ於テハ之ヲ發覺アリト謂フヲ得ス故ニ官ニ於テ犯人ノ誰某タルコトヲ知ラザ  
ルニ於テハ被害者ニ發覺シタルト否トヲ問ハズ事既ニ發覺シタルト謂フヲ得サレハ減等  
スヘキナリ而シテ官トハ搜查權ヲ有スル檢察官又ハ司法警察官ヲ云フ故ニ搜查權ヲ有セザ  
ル判事等ハ官ニ包含セス何トナレハ犯罪ヲ裁判官又ハ行政官吏ニ自首スルモ何等ノ處分  
ヲモナス能ハスシテ恰カモ通常人カ本人ヨリ犯罪事實ヲ聞知シタルト同シク自首ノ爲メ  
直接ノ効果ヲ生スルコトナキヲ以テナリ又自首トハ其犯罪ヲ告知スルノミナラス自己ヲ逮  
捕シ得ル位置ニ置カザレハ官直チニ之ヲ逮捕スルコト能ハス又之ヲ罰スルコト能ハスシテ自  
首法ヲ設ケタル旨趣ニ適フコトナケレバナリ然レモ犯罪ヲ告知シ其身ヲ逮捕シ得ル位置ニ  
置キタル事實アルニ於テハ必ラスシモ自身官ニ出頭スルヲ要セスシテ書面又ハ代人ヲ以  
テスルモ妨ケナシ又本條ニ所謂本刑トハ他ノ條ニ於ケル本刑ト同シク第九十九條ニ依リ  
各本條ノ刑ヲ云フ而シテ從犯未遂犯並ニ各本條ノ特別ノ加重減輕ハ其加減シタルモノヲ  
本刑トナス故ニ本條ノ自首減輕ヲ右刑ヲ基本トシ之ヲ減輕スヘキモノタルヤ更ニ説明ヲ  
要セス

發覺シテアリタル  
モノヲ云フ故ニ  
犯人ノ誰タル  
以前ハ自首ノ効  
アリ

(十九年六月全上)  
一戸長役場ノ主任  
者ニ官金竊取ノ  
始末内濟ヲ乞ヒ  
タル書面ヲ送リ  
タルハ自首ノ効  
アリ

(廿一年三月全上)  
一贓物ノ全部ヲ還  
サシテ其幾分  
ヲ償還シ其餘ハ  
勘辨ヲ得タルハ  
全部ノ償還ト均  
シク自首減刑ノ  
外尙ホ二等ヲ減  
スヘキモノナリ  
(十九年五月全上)  
一刑法八十五條ハ  
罪ヲ犯シ事未タ

發覺セサル前ニ  
官ニ自首シタル  
者ハ減等スルノ  
法規ニシテ監  
逃走ノ如キ已發  
罪ハ該法條ノ支  
配外ナリトス  
(廿四年六月全上)  
一自首ハ事未タ官  
ニ發覺セサル前  
ニ於テ官ニ之ヲ  
爲ス時ハ有効ニ  
シテ減輕ヲ與ヘ  
サルヘカラス從  
テ其事ノ被害者  
ニ發覺スルト否  
トハ敢テ之ヲ問  
ハス  
(廿六年十二月全上)  
一裁判宣告前ニ任  
意ニ自首ヲ爲シ  
タルモ自首ト云  
ヲ得ス  
(廿七年六月全上)  
一偽證ノ自首モ一

本條但書謀殺ニ自首減輕ヲ與ヘサルハ蓋シ人ヲ謀殺スルモ犯人ニ於テ即時ニ自首ス  
レハ決シテ死刑又ハ無期徒刑ニ處セラル、コトナシトセバ初メヨリ此減輕ヲ受ルノ希望ヲ  
以テ容易ニ謀殺罪ヲ犯スノ弊ヲ生スベキノ恐レアレバナリ然レモ謀殺ヲ犯ス程ノ者  
ハ既ニ其刑ヲ受クルコトヲ甘ニスル者ナレハ假令減輕ヲ與ヘズト規定シタリトモ之ヲ恐レ  
テ謀殺ヲ斷念スルカ如キハ稀ナルノミナラス謀殺ノ如キ重大ナル犯罪ハ最モ急ニ其  
犯人ヲ知ルヲ要シ有罪ヲ免カレシメ無罪ヲ罰スルノ弊ヲ防カサルベカラザルモノナレハ  
毫モ謀殺ニ限り自首減輕ヲ與ヘサルノ理由トナラサルヲ以テ此等ノ點ハ改正スヘキモ  
ノト謂ハサルベカラズ

第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ  
損害ヲ賠償シタルハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部  
ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス

本條及ヒ次條ハ財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者ノ自首減輕ニ關スル特例ヲ規定シタルモノ  
ニシテ少シク前條ノ規定ト其選ヲ異ニス抑モ贓物ノ返還損害ノ賠償ハ元來私訴ニ屬スル

モノニシテ私法上犯人ノ自然負擔スヘキ義務ナルヲ以テ刑罰上ニ何等ノ影響ヲ及ボス  
ヘキモノニアラズト雖モ唯對財産罪ハ公益ヲ害スルヨリモ寧ロ一私人ノ私權ヲ破リタル  
ノ損害著大ナルヲ以テ成ルヘク加害者ヲ以テ任意ニ之ヲ償還セシメントスル政策上ノ理  
由ニ基キ斯ル特例ヲ設ケタルモノナリ而シテ其之ヲ對財産罪ニ限リタルハ對生命身體罪  
ハ之ヲ原狀ニ回復スルコト能ハサレハナリ又本條ノ償還ハ未タ其要求ヲ受ケサル前自ラ進  
ンテ之ヲ爲スヲ要ス然レモ現在ノ贓物ヲ必ラズシモ裁判所ニ提出スルヲ要セス贓物ハ或  
處ニ埋藏セルヲ以テ官ノ力ニ因テ所有者ニ還付セラレタシト云ヒ又ハ有價證券等ヲ提出  
シテ賠償スルハ償還タルニ妨ケナシ右ハ單獨犯ノ場合ニ於テハ一ノ疑点ナシト雖モ數人  
共犯ノ場合例ヘハ甲乙二人ニテ千圓ヲ竊取シ内九百圓ハ甲、百圓ハ乙、之ヲ分チタルハ乙  
其分チ得タル百圓ノミヲ還償スルモ三等減ヲ受クル能ハス甲ノ分チ得タル九百圓ヲモ賠  
償セサルヘカラズ反之甲千圓ヲ償還シテ乙ハ唯自首ノミヲ爲シタルハ乙ハ三等減ヲ受  
クベシ又甲ハ從犯若クハ正犯ナル時モ亦同一ナリト謂フベシ若シ贓物金額ニ非スシテ物  
件ナルハ其物件ノ價額ヲ評定シ以テ還償ノ半數以上ナルヤ否ヲ定メサルベカラズ而シ

一般自首ノ總則ニ依ル

(七年十二月全上)  
一 刑法八十五條ニ所謂官トアルハ捜査權ヲ有スルハ  
檢事又ハ司法警察官ヲ指示シタルモ  
官ニシテ捜査權ヲ有セサルハ豫審判事ハ包含セシテ豫審判事ニ爲シタル自首ハ法律上無効ナリ  
(其年三月全上)  
一 自己ノ犯罪ヲ悔悟セシ旨申送リテタル官吏ニ宛テ之ヲ以テ官ニ自首シタルモノト認ムルヲ得ス  
(其年四月全上)

テ贓物ノ外ニ他ニ損害ヲ生セシメタルキハ之ヲ併セテ損害額トナシ全体ヲ償還セサレハ本條ノ全部ヲ還償シタルモノト謂フ能ハサルハ勿論トス

第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

前述ノ如ク本條モ亦財産ニ對スル罪ニ關スル自首減輕ノ特例ヲ定メタルモノニシテ官ニ自首スルト同シク被害者ニ首服スル者ヲ以テ自首減輕ヲ與フベキヲ示シタルモノナリ蓋シ這ハ是レ理論ニ根據スルニ非スシテ唯對財產罪ハ公益ヲ害スルヨリモ寧ロ一私人ノ私權ヲ破リタルノ損害大ナルヲ以テ政策上斯ル特例ヲ設ケタルニ外ナキハ前述ノ如シ

第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ

本條ハ本節記載ノ外自首ノ特例アルヲ規定シタルモノニシテ其特例ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ノ自首即チ第百廿六條ノ場合貨幣ノ偽造變造ノ自首即チ第百九十二條ノ場合偽證ノ自首即チ第二百二十六條ノ場合はレナリ而シテ此等ノ場合ニ於テ刑ヲ全免スルハ其事一

一 告訴狀ノ取下  
ハ自首ニ非ス  
成立ス

(其年七月全上)  
一 自首ハ告訴發  
ヲ受理スル職權ヲ  
有スル檢事又ハ司  
法警察官ニ對シテ  
爲スニ非サレハ其  
効テ有セズ故ニ豫  
審判事ノ訊問ニ對  
スル自首ハ自首ニ  
非ズ

(其年一月全上)  
一 自首ノ事實ヲ認  
メナカラテ自首減  
等ノ法條ヲ明示  
セサル判決ハ理  
由不備ノ不法ア  
リ

(其年九月全上)  
一 檢事ノ推問ニ基  
ツケル犯罪事實  
ノ告白ハ自首ニ

且成ルニ於テハ不測ノ大害ヲ生スルヲ以テ之ヲ未發ニ防ク政策上ノ理由ニ出タルモノナリ其各本條ニ從フトハ其減輕等法ノミ各其本條ニ從フト云フ意義ニシテ其未ダ官ニ發覺セナル前ナルト及ヒ官ニ自首スルト要スルト等ハ總テ本節ノ自首減輕ニ關スル總則ニ依ラザルベラカザルトハ論ヲ俟タズ

第三節 酌量減輕

第三章加減例ニ於テ說述セル如ク減輕ニ法律上ノ減輕ト裁判上ノ減輕ノ二種アリテ本節ノ酌量減輕ハ裁判上ノ減輕ニ屬ス即チ本節ノ酌量減輕ハ法律カ必ラス減輕スヘキヲ命セスシテ其減スルト否トヲ裁判官ニ一任スルモノナリ抑モ此酌量減輕ヲ設ケタルハ立法者カ他ク迄罪刑其當ヲ得セシメンカ爲メニシテ元來死刑ト無期刑ハ範圍ナキカ故ニ酌量減輕ノ設ケナクハ如何ニ減輕ノ情狀アレバトテ一定ノ刑ヲ科スルノ外ナクシテ罪刑其當ヲ得サルノミナラズ右二個ノ刑ノ外ハ各刑期金額ノ範圍アリト雖モ其範圍ハ狭少ニシテ千差萬別ノ犯情ニ應シ罪刑其當ヲ得サルヲ以テナリ而シテ前述ノ如ク酌量減輕ハ其原因ニ制限ナク主觀的即チ犯人ノ情實ト客觀的即チ犯罪事實トヲ問ハス皆ナ其減輕ノ原因

非ズ  
(三年十月全上)

第三節 酌量減輕  
一 酌量減輕ヲ爲サ  
ルル理由トシ  
テ第二審裁判ヲ取  
消スルヲ得蓋シ  
控訴ハ上告ト異  
ナリテ若干ノ原  
由ニ拘束セラレ  
トナク被告ハ  
唯一審ニ服シ  
難シトシ一語ヲ  
以テ控訴シ得ベ  
ク又裁判所モ第  
一審ノ爲メニ製  
肘セラル、ナ  
ケレハ唯不當ナ  
リトノ一語ヲ以  
テ之ヲ取消シ以  
テ犯罪ニ適應ス  
ル所ノ刑ヲ盛ル  
コトヲ得レバナリ  
(廿五年二月決議)

ト爲リ得ヘシ然ルニ反對說アリ曰ク犯罪事實ノ狀況ハ立法者之ヲ豫見スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ二人以上ノ窃盜、持兇器窃盜等種々之ヲ豫見シテ各其刑ヲ定メタリ之ニ反シテ犯人ノ情實ニ至リテハ到底之ヲ豫見スルコト能ハス或ハ放蕩ノ爲メ或ハ親ノ貧苦ヲ救ハシ爲メ窃盜罪ヲ犯スモノアリテ其情實千差萬別ニシテ一々其刑ヲ定ムルコト能ハサル故ニ酌量減輕ハ特ニ此犯人ノ情實ニ基キ罪刑其當ヲ得セシメンカ爲メニ設ケタルモノナレハ其原因ハ唯犯人ノ情實ニ限ルヘシト然レモ犯罪事實ノ狀況ハ盡ク之ヲ網羅シタルト謂フヲ得ザルノミナラズ我刑法ハ前述ノ如ク折衷主義ヲ採リ加害即チ犯罪事實ノ外背徳即チ犯人ノ情實ヲモ觀察シテ刑ヲ定メタルモノナレハ其定メタル刑ノ原因トナルニハ各兩個ノ情況アルノミナラズ其酌量減輕ノ原因トナルニモ亦右兩個ノ情況アルベキハ勿論ニシテ之ヲ要スルニ犯罪ノ刑ヲ科スルニハ兩個ノ情況ヲ相分離シテ觀察スヘキニアラス況ンヤ第八十九條ニハ所犯情狀原諒スヘキモノトアリテ犯罪ノ遠因ト云フカ如キ主觀的犯人ノ情實ニ限ラス客觀的犯罪事實ヲモ併セテ之ヲ原諒スヘキモノト解釋スルニ餘地アルニ於テヲヤ是レ反對說ノ採ルニ足ラサル所以ナリトス茲ニ一問題アリ原諒スヘキ情狀アル

一 酌量減輕ハ本刑ノ範圍ニ從テ減輕スヘキモノニシテ被告人ニ科スヘキ刑期ヲ定メ其刑期ヨリ減輕スヘキモノニ非ズ  
(廿五年十月判決)  
一 犯罪事實ニ付原諒スルニ付テハ犯人ノ情狀即チ意思ノ程度ニ依ル此結果可分的ニシテ共犯ト共ニスルヲ要セス  
(古實學士)

トハ其減等ノ爲メ犯人ニ實益ヲ與ヘサルモ必ラズ酌量法ヲ行ハサルベカラサル乎ノ問題是レナリ此問題タルヤ重罪刑ニ付テハ酌量減輕アレハ犯人必ラズ其利益ヲ受クルヲ得ヘケレハ重罪刑ノ場合ニハ問題トナラズト雖モ輕罪違警罪ノ刑ニ付テハ一等又ハ二等ヲ減スルモ其減等法ハ本刑ノ四分一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲スカ故ニ假令減等スルモ犯人ハ其利益ヲ受ケサル場合ヲ生スルコトアリ例ヘハ窃盜罪ノ刑ノ二月以上四年以下ヲ二等ヲ減スルモ一月以上二年以下トナレハ此範圍内ニ於テ一年ニ處セラル、モ其一年ノ刑ハ本刑タル二月以上四年以下ノ範圍内ニモアルヲ以テ犯人ハ毫モ減輕ノ利益ヲ受ケサレハ斯ル場合ニ問題トナルナリ而シテ此問題ヲ解釋スル學說二個ニ分レ互ニ相牒々スト雖モ余ハ積極說ヲ採ルモノナリ何トナレハ法律上ノ減輕ト雖モ實際上ハ其本刑ノ範圍ヨリ下シ犯人ヲ處分セサルモ必ラズ法律ノ規定ニ依リテ之ヲ減輕セサルベカラサルト同シク裁判上ノ減輕即チ酌量減輕モ苟クモ原諒スヘキ情狀アルト認メタルトキハ實際上ノ結果如何ヲ問ハス酌量法ヲ行フヘキノミナラズ犯人ノ利益上ヨリ論スルモ刑期ノ幾分ヲ減セラレ、ノ利益ハアラサルモ判決ノ宣告ニ於テ減輕セラル、ノ名譽上ノ利益大ニ之レ有ルヘ

ケレハナリ況ンヤ第八十九條ニモ唯所犯情狀原諒スヘキ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得トノミアツテ法定ノ最低短期又ハ最低金額ニ處スルヲ重シトスルモ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得トアラサルニ於テヤ又裁判官ハ法定ノ刑ヲ酌ニ過ルトシ或ハ誤認アリトシテ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得スト雖モ判決書ニハ酌量減輕ノ理由ノ明示ヲ要セス唯犯情原諒スヘキカ故ニ何等ヲ減スト記載スルヲ以テ足レリトス

第八十九條 重罪、輕罪、違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒スヘキ者ハ酌量シテ本刑ヲ減スルコトヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕スヘキ者ト雖モ其酌量スヘキ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得

本條第一項ハ酌量減輕ハ罪ノ如何ナル種類ヲ問ハス之ヲ適用シ得ルコトヲ規定シ第二項ハ法律上ノ加重減輕ヲ適用スヘキ者ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ適用シ得ルコトヲ規定シタルモノナリ本條ニ本刑トアルハ第七十條ニ於テ説明セル如ク各本條ノ刑及ビ從犯未遂犯ノ減等其他各本條ノ特別ノ加重減輕ノ場合ニ於テハ其加減シタル者ヲ本刑ト謂フ然レモ違警罪

一 再犯加重ヲ言渡シテナカラ單ニ被告ガ前犯ノ罪名斷ラレタル所ニ依リテ大赦令ニ依リテ消滅シタル事由ナキモ不備アルモノト

ニ付テハ從犯ナク又特別ノ減輕ナキヲ以テ違警罪ノ本刑ハ常ニ各本條ノ刑ナリト謂ベシ若シ夫レ法律上ノ加減ハ本條ノ減輕ト併發シタル場合ニ於テ如何ナル順序ニ其加減ヲ行フヘキヤハ第六章加減順序ノ條下ニ於テ詳述スヘシ

第九十條 酌量減輕スヘキ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

本條ハ酌量減輕ノ減等法ヲ規定シタルモノニシテ其減等法ハ前條ニ説明セル本刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減スルコトヲ裁判官ニ一任シ其情狀ノ輕重ヲ區別シテ一等又ハ二等ヲ減スヘキコトヲ法律ハ制限セサルモノトス

第五章 再犯加重

再犯加重ハ法律上ノ加重ニシテ前節裁判上ノ減輕タル酌量減輕ト其趣ヲ異ニス即チ本章再犯加重ハ法律カ必ラズ加重スヘキヲ命シ其加重スルト否トヲ裁判官ニ一任セサルモノトシ抑モ再犯トハ何ゾヤ再犯トハ有罪ノ判決確定後再ヒ罪ヲ犯スコトヲ謂フ故ニ再犯ノ成立スルニハ第一有罪ノ判決確定シタルコトヲ要シ第二再度犯罪アルコトヲ要ス第一有罪ノ判決確定シタルコトヲ要スルヲ以テ犯罪アリト雖モ未ダ判決ヲ經ズ又ハ假令判決アリタリト

（廿四年五月判決）  
 一 被告ノ犯罪再犯  
 已上ナルハ何  
 等ノ犯罪ニ依リ  
 何レノ裁判所ニ  
 於テ如何ナル刑  
 ニ處セラレタル  
 ヤ其事實ヲ明示  
 セサルハ理由不  
 備ノ不法タリ  
 （廿四年四月全上）  
 一 輕罪三犯以上ヲ  
 認メ刑法九十八  
 條ヲ適用セサル  
 モ九十二條ヲ適  
 用セハ不法ニ非  
 ス  
 （廿七年八月全上）  
 一 判決書ニ何年中  
 何罪ニ依リ何ニ  
 處セラレタリト  
 アレハ其旨ヲ示  
 サハルモ再犯加  
 重上ニ影響ナシ

雖モ未タ確定セサル間ハ再ヒ犯罪アルモ再犯ノ理由トナラズ又第二再度犯罪アルコトヲ要  
 スルヲ以テ罪トナルヘキ所爲ヲ決行シタルモ犯罪ノ要素ヲ欠キタル等ニ依リ犯罪ノ成立  
 セサル場合ハ再犯ノ理由トナラサルハ勿論ナリト雖モ此再犯ノ罪ハ初犯ノ罪ト同性質ノ  
 犯罪ナルト否ト問ハサルナリ然レモ再犯ヲ以テ論スルニハ前後ノ犯罪牽連ナキヲ要ス  
 故ニ囚徒逃走罪ノ如キ前犯罪ノ刑ノ施行ニ關係ヲ有スル犯罪ハ再犯トナラス蓋シ此等  
 犯罪ハ初犯アラサレハ生スルコトナキ犯罪ナルヲ以テ之ヲ加重スルキハ自然前犯ノ刑ヲ加  
 重スルニ外ナラザレハナリ其他常事犯ト軍事犯トハ互ニ再犯ノ理由トナラザルコト及ヒ再  
 犯ノ場合ト雖モ加重セサルモノアルコト等ハ各條下ニ至リ説述ズヘシ然リ而シテ法律ハ  
 何故ニ再犯ノ刑ヲ加重スルヤ蓋シ初犯ノ刑ヲ受タルニ拘ハラヌ尙ホ之ニ懲リス罪ヲ犯ス  
 ハ其背徳加害ノ点前犯ノ時ヨリ一層重大ナルヲ以テ更ニ重ク之ヲ罰シテ刑罰ノ目的ヲ達  
 スルノ必要アレバナリ如此再犯加重ハ犯罪事實ノ状態ニヨル客觀的理由ニ基カスシテ犯  
 人ノ心情タル主觀的理由ニ基クヲ以テ刑法第六六條ニ所謂身分ニヨリ刑ヲ加重スルモノ  
 ナルカ故ニ共犯ノ場合ニ於テ他ノ犯人ニ之ヲ及シテ加重スルコトナキハ説明ヲ要セザルナ

（廿年二月全上）  
 一 判決ハ特典ノ爲  
 メニ其効ヲ失ハ  
 ス從テ前犯重罪  
 ノ判決ヲ受ケタ  
 ル後特典ニ依リ  
 輕罪ノ刑ニ減セ  
 ラルモ後犯重  
 罪ニ係ル時ハ仍  
 ホ重罪ノ再犯加  
 重ヲ以テ之ヲ論  
 ス  
 （廿年十月全上）  
 一 單行ノ條例ニシ  
 テ再犯加重ノ規  
 定ナキモノハ刑  
 法ノ總則ニ依リ  
 再犯加重ノ處分  
 ヲナスヘキモノ  
 トス  
 （廿九年六月全上）  
 一 刑法九十二條ニ  
 再犯輕罪ニ該ル  
 時トアルハ再犯  
 ノ罪輕罪ノ刑ニ

リ現行法ノ再犯加重ニ對シ種々ノ學說アリテ再犯ヲ以テ論スヘキハ有罪ノ判決確定後タ  
 ルノミナラズ其刑ノ施行後再ヒ犯罪アルコトヲ要スヘキモノ又罪ノ性質輕重ヲ問ハス一般  
 ニ再犯ヲ以テ論スルハ其場合廣キニ失シ無用ノ加重ヲ爲スモノ又重罪輕罪ニ關シ初犯ト  
 再犯トノ間ノ日數ニ付キ何等ノ制限ナク一般ニ再犯ヲ以テ論スルハ犯人ニ對シ酷ニ失ス  
 ルモノ等ノ批難アリト雖モ這ハ立法論ニ屬スレバ之ヲ省略シ逐條之カ解釋ヲ試ムベシ而  
 シテ便宜上第九十一條第九十二條第九十三條ヲ合併シテ其解釋ヲ爲サントス  
 第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ルハ本  
 刑ニ一等ヲ加フ  
 第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ルハ  
 本刑ニ一等ヲ加フ  
 第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ルハ  
 本刑ニ一等ヲ加フ但一年內再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地內ニ於  
 テ再犯シタルハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス



該ル時ヲ指シタルモノトス  
（三十年十月全上）  
一 再犯ニ係ル數罪俱發ノ場合ニ於テハ先ツ再犯ニ重例ニ照シ其數罪ニ付各一等ヲ加ヘ然ル後數罪俱發例ヲ適用シテ一ノ重ニ從ヒ處斷スヘキ者トス  
（三十年十月全上）  
一 誤テ再犯加重例ニ適用シタルモ其罪ハ數罪俱發ニ係リ他ノ重キ罪ニ從ヒ處斷シタルハ犯人ニ科シタル刑ニ利害ハ影響ヲ及ホス  
一 ナキヲ以テ原判決破棄ノ限リニアラス  
（廿一年十月判決）

一 煙草稅則ノ如キ專ラ納稅上ニ關シ其規則ヲ設ケタルモノナレバ即チ同稅則第三十一條ニ特定シテ如ク假令該稅則ニヨリ處斷セラレ再犯尙ホ同稅則ヲ以テ處斷スヘキニ該場所合ハ勿論再犯ノ普通刑法又ハ他法ノ再犯加重例ヲ照シテ特別記シアラサル規則ニ照シ處斷スヘキ時トシテ同條ニ付テハ普通刑法ノ總則ニ定メタル再犯加重例ヲ適用スヘカ  
ラズ故ニ古物商

本三條ハ各前後ノ犯罪ニ付キ再犯加重ヲ以テ論スヘキモノヲ規定シタルモノニシテ第九十一條ハ前犯後犯共ニ重罪ナルトキ第九十二條ハ前犯重罪ニシテ後犯輕罪ナルトキ及ヒ前犯後犯共ニ輕罪ナルトキ第九十三條ハ前犯後犯共ニ違警罪ニシテ初犯後一年內其違警罪ヲ管轄スル裁判所ノ管轄地內ニテ再犯シタルハ各一等ヲ加重スヘキモノナルヲ規定シタルナリ蓋シ此等ノ場合ニ加重スルハ前述ノ如ク初犯ノ刑ニ處セラレタルニ拘ハラズ之ニ懲リス尙ホ罪ヲ犯シ其背德加害ノ点前犯ノ時ヨリ一層重大ナルヲ以テ更ニ重ク之ヲ罰スヘキモノナレバナリ而シテ前犯輕罪ニシテ後犯重罪ナルハ前犯違警罪ニシテ後犯重罪又ハ輕罪ナルハ及ヒ前犯重罪又ハ輕罪ニシテ後犯違警罪ナルハ各之ヲ加重セサルハ蓋シ再犯ノ刑初犯ノ刑ヨリ重キカ故ニ其刑ヲ加重スルニ及ハスシテ尙ホ十分再犯人ヲ罰シ之ヲ懲戒スルニ足ルノミナラス各其前後ノ犯罪其性質ヲ異ニスルヲ以テナリ本三條孰レモ刑ニ處セラレタル者トアリテ罪ヲ犯シタル者トナキヲ以テ先ニ重罪ヲ犯シタルモ減輕ニヨリ實際輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ後ニ重罪ヲ犯ス者等ハ再犯ヲ以テ論スヘキニアラス又本三條孰レモ刑ニ處セラレタル者トアリテ刑ヲ施行シ終リタル者トナキヲ以

テ假令一日ノ施行ヲ受ケサルモ其判決確定後ニ犯罪アレハ再犯ヲ以テ論スヘキナリ又本前二條孰レモ其初犯ト再犯トノ間ニ經過シタル時間ニ制限ナキヲ以テ初犯後幾十年ヲ經過シタル後ニ犯罪アルモ再犯トナルヘキナリ其第九十三條違警罪ニ限リ時ト處トニ制限ヲ設ケタルハ違警罪ハ素ト微罪又ハ無意犯ナレハ其刑ノ苦痛忘レ易ク且ツ各地方毎ニ特別ノ違警罪多キニ在ルカ故ナリ又本三條孰レモ何罪ニ該ル時トアルヲ以テ其重罪、輕罪、違警罪トハ其罪ノ性質上重罪、輕罪、違警罪ナルトキヲ指シタルモノニシテ此刑法又ハ他ノ法令ニ於ケル重罪、輕罪、違警罪ト問ハサルノミナラス實際犯人ニ科スル所ノ刑ノ如何ヲモ問ハサルナリ而シテ罪ノ性質ノ重罪、輕罪、違警罪ナルヤ否ヤヲ知ルニハ第一編總則ニヨリ減輕セラルル者ハ其刑ヲ減輕ノ爲メ他ノ罪ノ刑ニ下ルモ其罪質ハ變セザレモ第二編以下各本條特別ノ減等及ヒ從犯未遂犯ノ減等ハ其罪質ヲ變スルモノナルヲ以テ此等ノ點ハ大ニ注意スヘキモノトス又本三條ノ本刑トハ前條等ニ於テ屢說述ノ通り總則ノ減等法ヲ適用セサルベカラザル時ハ未タ減等セサル刑ヲ本刑ト云ヒ總則ノ中從犯及ヒ未遂犯其他各本條ノ特別ノ減等ヲ用ユル場合ニハ其減等シタルモノヲ以テ本刑ト爲スヘキハ

取締條例中ニ刑

法ノ再犯加重例

ヲ用ヒスト特記

シテラサレニ初

犯煙草稅則ニヨ

リ處斷セラレタ

ルトキハ加重ノ

限ニアラズ

(廿一年四月同上)

一普通犯罪ニヨリ

處斷セラレタル

後徵兵令ニ違犯

シタルハ尚ホ

再犯加重ス

(廿八年十月決議)

一窃盜罪ニテ一度

囚徒逃走罪ニテ

一度都合兩度ノ

前科アル者尙ホ

又窃盜罪ヲ犯シ

タルハ前ノ逃

走罪ノ處刑ヲ前

科中ニ加ヘ三犯

ヲ以テ論スヘシ

何トナレハ第百

論ヲ俟タス

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定後ニ非サレバ之ヲ論スルヲ

ナ得ス

本條ハ再犯ハ初犯ノ裁判確定後ニ生シタルモノニアラサレハ之ヲ加重セサルヲ規定シタルモノニシテ其何故ニ初犯ノ裁判確定後ニ生シタル再犯ニアラサレハ之ヲ加重セサルヤ即チ再犯ヲ以テ論セサルヤノ理由ハ蓋シ裁判未確定ノ間ハ法律上上訴スルヲ得ルヲ以テ其罪ノ有無スラ明カナラサルノミナラズ犯人ハ自信シテ無罪ナリト思惟セルコトモアルヲ以テ毫モ犯人ヲ懲戒スルノ効ナキハ勿論ナレバナリ加之再犯加重ノ理由即チ初犯ノ刑ヲ受タルニ拘ハラズ之ニ懲リス尚ホ再犯スルカ如キハ其背徳加害ノ点前犯ヨリ一層重キヲ以テ更ニ之ヲ重ク罰スルトノ理由ニ反ケバナリ然レ前裁判ニシテ一旦確定スレハ當然判決執行ノ効ヲ生スヘキノ理アルヲ以テ確定後ニ犯罪ノ生シタル場合ハ再犯ヲ以テ論スヘキモノト規定シタルモノナリ乍併再犯加重ノ理由ヲ全然貫徹スレニハ其初犯ノ刑ノ執行ヲ終リタル後再犯アルニアラサレハ之ヲ加重セスト規定スル方可然カ

四十三條ハ現ニ  
判決スル罪カ囚  
徒逃走ニ係ルハ  
ノミニ適用スヘ  
キ規定ニシテ他  
罪ニ適用スヘキ  
モノニアラサレ  
ハナリ  
(廿八年十月決議)

第九拾五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタルハ先ツ

其定役ニ服スヘキ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯

再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該

ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス

罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラズ各之ヲ徴収ス

本條ハ初犯刑ト再犯刑トヲ共ニ執行スヘキ場合ニ於ケル刑ノ執行順序ヲ規定シタルモノナリ抑モ此場合ニ於テ本條カ判決宣告ノ順序ニ依ラスシテ特ニ執行順序ヲ定メ刑ノ輕重ノ順序ニ依リ先ツ其重キヲ前ニシ其輕キヲ後ニスルト爲シタルハ若シ夫レ宣告ノ前後ニ依リ刑ヲ執行スルトセハ禁錮ノ刑期限内重罪ヲ犯スモ先ツ其禁錮ノ執行ヲ終ラザルベカラザレバ其禁錮ノ執行中ハ假令大惡人ト雖モ公權ヲ剝奪スルコト能ハサルベク又初犯ハ輕禁錮再犯ハ重禁錮ナルハ直チニ服役ノ苦痛ヲ與フルコト能ハサルノ不都合アレバナリ而シテ其刑ノ輕重ハ第百條規定ノ標準ニ依リ定役ノアルモノト定役ノナキモノト共ニ執行スルハ定役ノアルモノヲ重シトシ孰レモ定役ノアルモノナルモ及ヒ孰レモ定役ナ

キモノナルハ其刑期ノ長キモノヲ重トシ之ヲ先キニ執行スヘキモノトス但第二項罰金  
 料科ハ順序ニ依ラス之ヲ同時ニ徵收スルコト爲シタルハ蓋シ罰金科料ハ財産刑ニシ  
 テ同時ニ執行シ得ヘキモノナレハナリ故ニ初犯再犯共ニ罰金又ハ科料ナルハ同時ニ之  
 ヲ徵收シ其一方ノ金額ノミヲ納完セサルニヨリ換刑シタルハ亦之ヲ同時ニ執行シ其雙  
 方ノ金額共ニ納完セサルニヨリ換刑シタルハ本條第一項末段ニ依リ刑期ノ長キモノ即  
 チ重キモノヲ先ニ執行スヘキモノトス若シ夫レ定役アル主刑ト附加ノ罰金ニ處セラレ限  
 内納完セサルハ如キハ定役アル主刑執行後ニ其換刑ヲ執行セサルヘカラザルハ勿論ト  
 ス總テ附加刑ハ主刑執行ノ順序ニ從テ通算トスレモ監視ニ付テハ刑法附則第三十四條  
 ニ依リ主刑滿了ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ之ヲ執行ス

初犯無期刑ニシテ再犯無期又ハ有期刑ナルハ事實上再犯ノ刑ヲ執行スルノ期ナカルヘ  
 キヲ以テ其後幾回犯罪アルモ死刑ニ處セラレサル限リハ再犯三犯ノ刑ヲ執行スルニ由ナ  
 ケン刑法ニ此等ノ場合ニ於ケル處分法ノ規定ナキハ欠点ナレモ幸ニ監獄則ハ第四十五條  
 ニ依リ或一定ノ期間ノ範圍内ニ於テ兩脚又ハ一脚ニ鉄ヲ施シ仍ホ鉄丸ヲ屬シタル鉄索ヲ

其鉄ニ貫キ腰間ニ綴帶セシメ其綴帶ノ所ニ下鍵シ其監房ニ在ルモ晝間ハ仍ホ之ヲ施スモ  
 ノトセリ

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯

シタルトキハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ  
 以テ論スルコトヲ得ズ

本條ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者即チ常事犯ニアラサレハ再タヒ常律ノ重罪輕罪  
 ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論セサルコトヲ規定シタルモノナリ蓋シ軍事犯ト常事犯トハ全ク其  
 性質ヲ異ニス即チ軍事犯ハ軍隊ノ秩序安寧ヲ毀損スルノ犯罪常事犯ハ社會一般ノ秩序安  
 寧ヲ毀損スルノ犯罪ナレハ先ニ軍事犯ニ依リ處刑セラレタレバトテ更ニ再ヒ常律ヲ犯ス  
 モ背徳加害ノ点前犯ヨリ一層重大ナリト謂フコト能ハサレバ再犯加重ノ理由トナラザル  
 ヲ以テナリ之ニ反シ初犯常事犯ニシテ再犯軍事犯ナルトキハ如何此關係ハ陸軍刑法第四  
 十五條ニ於テ再ヒ軍律ノ罪ヲ犯スニ非ラサレハ再犯ヲ以テ論セサルヲ規定シアレバ常  
 律及ヒ軍律ニ於テ各再犯ヲ以テ論スルニハ互ニ前後犯共ニ同性質ノ犯罪タルヲ要スト云

フニ歸着スルモノナリ本條陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者トハ殆ント舊文ニ屬スト云ベシ何トナレバ陸海軍裁判所タル陸海軍々法會議ニ於テ判決シタルモノト普通裁判所ニ於テ判決シタルモノトヲ問ハス前後犯共同性質ノ犯罪ニアラサレハ再犯ヲ以テ論セサルコトハ前述ノ如クナルノミナラズ普通裁判所ハ普通人ヲ裁判スル管轄ヲ有シ陸海軍軍法會議ハ軍人ヲ裁判スル管轄ヲ有スルモノナレトモ普通人ト雖モ軍事犯ニ依リテ處斷セラル、場合アルト同時ニ軍人ト雖モ常事犯ニ依テ處斷セラル、場合アレハ管轄ノ如何ニ拘ハラズ唯犯罪ノ性質ニ依リ再犯ヲ以テ論スヘキモノト否トヲ區別スヘキモノナレバナリ又本條ニ所謂常律ニ從ヒ處斷シタル者トハ普通刑法ノミナラス陸海軍刑法ノ如キ特別法以外ノ總テノ法令ニ依テ處斷シタルモノヲ云フ終リニ本條ト第四條ノ關係ヲ一言スレハ第四條ハ一所爲ニシテ軍律常律共ニ之ヲ罰スルモノハ軍律ヲ以テ之ヲ處斷スヘク即チ特別法ハ普通法ニ優ルト云フ原則ヲ規定シタルモノ本條ハ前後犯共軍事犯又ハ常事犯ニアラサレハ再犯ヲ以テ論セスト云フ趣旨ヲ規定シタルモノト謂フベシ

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯

ヲ以テ論スルコトヲ得ズ

本條ハ大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再タヒ犯罪アリト雖モ再犯ヲ以テ論セサルコトヲ規定シタルモノニシテ其理由ハ既ニ期滿免除ノ章ニ於テ説述セル如ク特赦復權ハ裁判ヲ取消スノ効力ナキト雖モ大赦ハ裁判確定後ナルモ之ヲ取消スノ効力アリ即チ罪ヲ免シタルモノナルカ故ニ後チ罪ヲ犯スモ再犯トナラザルナリ此等ハ大赦ノ自然ノ性質ヨリ明瞭ナルヲ以テ更ニ茲ニ規定スルノ必要ナキモノト云フヘキカ

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

本條ハ三犯以上ノ者ノ加重法ヲ規定シタルモノニシテ何故ニ三犯以上ノ者ト雖モ再犯ノ例ニヨリ其刑一等ヲ加フルニ止マルヤノ理由ハ三等四等ト遞加スルトキハ際涯ナクシテ終ニ過酷ノ刑ヲ科スルニ至ルヲ以テナリ

第六章 加減順序

上來説述セル如ク刑ノ加減ニハ宥恕ノ爲メ減輕スヘキアリ自首ノ爲メ減輕スヘキアリ酌量シテ減輕スヘキアリ又再犯ノ爲メ加重スヘキアリ此等ノ原因各單獨ニ生スルトキハ唯

二人以上其犯ハ特別ノ加重ナルハ其加ヘタル刑ヲ以テ本則トスヘシ  
(廿二年九月判決)

刑法第三百十一  
條ノ宥恕減輕ハ  
犯罪ノ種類ニヨ  
リ特別ニ定ムル  
モノニシテ總則  
ノ減輕ニ非ラサ  
ルヲ以テ其減輕  
シタルモノヲ以  
テ本トナシ而後  
總則ノ酌量減輕  
ヲナスヘキモノ  
ナリ然ルニ先ツ  
未遂犯ノ減輕ヲ  
ナシテ本刑ヲ定  
メ而シテ特別ノ  
宥恕減輕ト總則  
ノ酌量減輕トヲ  
通減シタルハ不  
當ナリ  
(廿二年二月全上)  
一強盜ノ未遂犯ハ  
輕罪ナリ抑モ重  
罪ト云ヒ輕罪ト  
別ハ其罪質ノ區

加減例ヲ適用シテ十分ナリト雖モ同時ニ數多ノ原因併發スルトキハ加減例ヲ以テノミ斷  
スルコト能ハス而シテ此併發ノ場合ニ於テ其加減ノ順序ニ依リ犯人ニ利害ノ關係ヲ及ホ  
スコト重大ナルヲ以テ其順序ヲ裁判官ニ一任セスシテ之ヲ法律ニ一定シタルモノナリ何  
ヲカ加減ノ順序ニ依リ犯人ニ利害ノ關係アリヤト云フニ今夫レ無期徒刑ニ該ル犯人ニ一  
等加重ノ原因アリ又一等減輕ノ原因アル場合ニ於テ加重ヲ先ニスレハ加ヘテ死刑ニ入ル  
コトヲ得サル故ニ尙ホ無期徒刑ニ止マル而シテ之ヨリ一等ヲ減スレハ有期徒刑トナルベ  
シト雖モ之ニ反シ減輕ヲ先ニスレハ無期徒刑ヨリ一等ヲ減シテ有期徒刑トナリ而シテ之  
ニ一等ヲ加フレハ無期徒刑トナルベシ又輕懲役ニ該ル犯人ニ各一等加減ノ原因アル場合  
ニ於テ加重ヲ先ニスレハ輕懲役ニ一等ヲ加ヘテ重懲役トナリ之ヨリ一等ヲ減スレハ元ノ  
輕懲役ニ該ルト雖モ減輕ヲ先ニスレハ二年以上五年以下ノ重禁錮トナル而シテ輕罪ノ刑  
ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得サルヲ以テ一等ヲ加フルモ二年六月以上六年三月以下ノ重  
禁錮ニ過キス如此加減ノ順序ヲ變スルニ因リ前例ニ於テ加重ヲ先ニスレハ被告ニ利益ト  
ナリ後例ニ於テ加重ヲ先ニスレハ被告ニ不利益トナル即チ之ヲ換言スレハ加重ヲ先ニス

キ所爲ニ對シテ  
律ニ於テ本刑ト  
シテ如何ニ依テ  
別スルノ外ナシ  
即チ法律ノ本刑  
ヲ科スルモノハ  
其罪質ノ重罪タ  
ルモノハ其罪質  
輕罪タリ而シテ  
未遂犯ノ減輕ハ  
刑法第九十九條  
第一項未段ノ規  
定ニヨリ其減輕  
シタル刑ハ本刑  
ナリトセリ故ニ  
強盜罪ニシテ未  
遂犯ノ爲メ減輕  
セラルバモノハ  
本刑トシテ輕罪  
ノ刑ヲ科スルモ  
ノナリ然ラバ其  
所爲ノ輕罪タル

ルトモ或ハ犯人ニ利益トナルコトアリ或ハ不利益トナル等ノコトヲ生ス是レ法律ニ其加  
減ノ順序ヲ一定スル必要アル所以ナリ

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス

ヘキ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ビ未遂犯罪ノ減等  
其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本  
刑ト爲ス

一 再犯加重

二 宥恕減輕

三 自首減輕

四 酌量減輕

本條ハ加減順序及ヒ其方法ヲ規定シタルモノナリ抑モ本條ニ所謂本刑トハ如何此本刑ト  
ハ罪ノ性質上其罪ニ該當スル所ノ刑ヲ云フ故ニ一般ノ場合ニハ各本條ノ刑ハ各本條ノ罪  
ニ該當スル本刑ニシテ從犯未遂犯ノ減等其他各本條ノ特別ノ加減ヲ適用スル場合ハ其加

明白タルベシ  
(廿九年二月決議)  
一未遂犯ノ一等級減  
ハ法定ニシテ  
二等減ハ裁判上  
ノモノナリ  
(古賀學士)

シタル所ノ刑ハ其罪ニ該當スル本刑ナリト謂ハサルベカラズ故ニ本條ハ從犯未遂犯及ヒ特別ノ加減ハ其加減シタル所ノ刑ヲ以テ本刑ト爲セリ蓋シ此等ノ加減ハ所爲ノ形狀ニ基クモノ即チ客觀的ニ屬スルモノニシテ罪質ヲ變スルヲ以テナリ之ニ反シ犯人ノ情實ニ基クモノ即チ主觀的ニ屬スルモノハ所爲ノ形狀ニ關係ナキヲ以テ唯ニ加減ノ情狀アリト雖モ罪質ヲ變スルニ至ラズ然リ而シテ重罪、輕罪、違警罪ヲ區別スルニハ其犯罪ノ性質上其罪ニ該當スル所ノ本刑ニヨリ其罪名ヲ一定スルヨリ外ナキヲ以テ強盜ノ未遂犯ハ輕罪ナリト論決セサルベカラズ抑本條ハ此本刑ヲ犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ加減スル時ハ第一、再犯ノ加重第二、宥恕減輕第三、自首減輕第四、酌量減輕ノ順序ニ依ルヘキモノトセリ斯ク本條ハ何故ニ加重ヲ先ニシテ減輕ヲ後チニシタルヤ蓋シ前述ノ如ク加重ヲ先ニスレハ或ハ犯人ニ利益トナルコトアリ或ハ不利益トナルコトアルヲ以テ加重ヲ先ニスレハ犯人ニ利益アルカ爲メナリトノ論理ハ此疑團ヲ解決スルコト能ハザルモノト謂フベシ唯其加重ヲ先ニシ減輕ヲ後ニシタルハ深キ理由アルニアラズ刑罰ハ刑ヲ科スルヲ本トシ刑ヲ減スルヲ末トスルノミナラズ加ヲ先ニシ減ヲ後ニスルノ順序ハ算數ノ自然ノ順序

タルヲ以テナリ而シテ自首減輕ヲ宥恕減輕ノ次ニ置キタルハ自首減輕ハ犯罪發生後ニ係ルヲ以テナリ又酌量減輕ヲ末位ニ置キサルハ法律上ノ減輕タル宥恕減輕及ヒ自首減輕ノ二種ノ減輕ヲ爲シタル後ニ非ラサレハ其刑ノ嚴ニ過クルヤ否ヤヲ知ルベカラサルヲ以テナリ其順序設定ノ理由如此、其順序ニ依ル加減法如何ン蓋シ加減法ニ依リ二個ノ說アリ遞加遞減法ニヨルベシトノ說及ヒ通加通減法ニヨルベシトノ說是レナリ遞加減法說ニ依レハ本刑ニ再犯ノ加重ヲ爲シ其加重シタル刑期ヲ基本トシテ宥恕ノ減輕ヲナシ其次ニ其減輕シタル刑期ヲ基本トシテ自首ノ減輕ヲナシ又其減輕シタル刑期ヲ基本トシテ酌量減輕ヲナスベシト云フニ在レ此說ハ第七十條ノ明文即チ各本條ノ刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等トナシ云々ノ條意ヲ無視スルモノナレハ探ルニ足ラス通加減法說ニヨレハ均シク第七十條ニヨリ本刑ヲ基本トシ加減スヘキモノナレハ加重ノ原因ト減輕ノ原因トハ通加減ノ法ニ依リ計算スヘシト云フニ在リ而シテ此通加減法ニモ亦二種ノ說アリ第一說ハ通加減ノ法ニ依リ加減スヘシト雖モ條文ニ左ノ順序ニ從テトアリ且ツ加減ノ原因ニ一二三四ト番號ヲ付シアルカ故ニ加減相殺ヲ許サスト云フニ在リ第二說ハ條文

ニ如此順序アリト雖モ元來加減共本刑ヲ基本トシテ計算スルモノナレハ加減ハ相殺ヲ許スモノナリト云フニ在リト雖モ第二說ハ探ルニ足ラズ何トナレハ相殺トハ双方同等ノモノヲ有スルトキ互ニ相消スノ謂ヒナリ然ルニ加減ノ場合ニ於テ無期刑ハ加ヘテ死ニ入ル、コヲ許サバ爾ヲ以テ無期刑ヲ加フヘキ等級ヲ有セス即チ其減等ト相消スヘキ同等ノモノヲ有セサレハ總テノ場合ニ於テ加減相殺ヲ許ストノ說ハ論理貫徹セサルモノト謂フベシ或學者ハ斯ル場合ハ想像上仮リニ死刑ニ入ル、ハ妨ケナキヲ以テ相殺ヲ許スヘシト唱フルモノアリト雖モ擬律上ニ於テ想像上ノ計算方ヲ許スヘカラサルノミナラス第六十六條ノ加ヘテ死ニ入ルコトヲ得ストノ條文ハ加等ノ刑ニテハ死ニ入ルコトヲ得サルモ加減ノ計算中ニ在テハ加ヘテ死ニ入ルモ妨ケナシトハ到底解釋ヲナスコト能ハザルナリ因テ第一說ハ其解釋ノ正鵠ヲ得タルモノト謂ハザルヘカラズ

本條但書ノ加減順序ハ如何即チ從犯未遂犯及ヒ特別ノ加重減輕ノ諸原因カ同時ニ併發シタル時ハ其加減順序如何ニスヘキヤ之カ解釋ヲ異ニスル諸說一二ニ止ラスト雖モ此場合ニハ總テ通加減法ニ依リ加減相殺スヘキモノト論セサルベカラス何トナレハ彼我ノ間其

一 法律規則ニ刑法ノ數罪俱發例ヲ適用セストノ明文ナキ以上ハ刑法ノ總則ヲ適用シ數犯俱發ヲ以テ論スルモ不當ニアラス  
 (廿年二月判決)  
 一人ノ被告人ニシテ數罪アルハハ判決ノ際各罪ニ付其刑ヲ定メ

各原因ノ性質同シク客觀的ニ屬シテ相異ナルヲ見サルノミナラス法律ハ是等ノ加減ノ原因ヲ同列ニ置キ特ニ明文ヲ以テ一定ノ順序ヲ示サ、レバナリ若シ夫レ但書ノ加減ト本文ノ加減ト併發シタルトキハ如何ニスヘキヤ之ニ關スル學說亦一二ニ止ラスト雖モ此場合ニハ前述ノ理由ニ依リ但書ノ加減ハ通加減法ニ依テ加減相殺シテ而シテ其得タル刑ハ本文ノ加減ノ基本刑即チ本刑トナル故ニ此基本刑ヨリ本文ノ加減ヲ順序ノ如ク通加減シ其加減ハ相殺ヲ許サルモノト論セサルベカラス

第七章 數罪俱發

數罪俱發トハ同一人ノ犯シタル二個以上ノ犯罪發覺シタルトキ其孰レニ對シテモ未タ確定判決ヲ經サル狀態並ニ一罪ニ對シテ既ニ確定判決ヲ經タル後ニ於テ其判決前ニ犯シタル餘罪ノ發覺シタル狀態ヲ云フ而シテ其再犯トノ差違ハ確定判決ノ有無一点ニアリ故ニ數罪俱發ノ二個ノ要件ハ第一、同一人ニシテ二個以上ノ罪ヲ犯シタルコト第二、前ニ犯シタル罪ニ付確定判決アラサルニ更ニ他罪ヲ犯シタルコト是レナリ右第一ノ要件ヲ必要トスル故ニ繼續犯、連續犯及ヒ慣行犯ノ如キハ各一罪ヲ成スニ過キササルヲ以テ數罪俱發トナラ

(廿五年五月決議)  
 一 前發ノ刑ヲ以テ  
 後發ノ刑ニ通算  
 スルハ主刑ト主  
 刑ヲ通算スル  
 モノニシテ其附  
 加刑ト主刑ヲ通  
 算スルヲ得サル  
 モノトス  
 ノ罰金ヲ輕禁錮  
 ニ換ヘタル場合  
 ハ之ヲ後發ノ主  
 刑ニ通算スヘキ  
 モノニアラズ  
 (廿五年六月判決)  
 一 附加刑執行ノ期  
 限ハ後發ノ主刑  
 ニ通算スヘキモ  
 ノニアラズ故ニ  
 監視ノ期限ハ後  
 發ノ主刑ニ通算  
 スヘカラズ  
 (廿五年七月全上)  
 一 茲ニ被告人アリ

ス又第二ノ要件ヲ必要トスル故ニ確定判決後ニ生スル再犯ト差違アリト云フベシ前述ノ  
 如ク繼續犯、連續犯及ヒ慣行犯カ數罪俱發トナラサルト同時ニ所謂想像的數罪モ我刑法  
 ノ數罪トナラズ唯實体的ノ數罪ノミ數罪トナルモノトス今想像的數罪ノ如何ナルモノナ  
 ルヤヲ說述スレハ凡ソ二種アリ第一種ハ一個ノ所爲カ數個ノ法律即チ罪名ニ觸レタル場  
 合例ヘハ徵兵忌避ノ一個ノ所爲ハ刑法第七十八條ト徵兵令第三十一條トノ各規定ニ觸  
 ル、ト雖モ是レ想像的ノ數罪俱發ニシテ其實數罪トシテ論スヘキモノニアラズシテ此場  
 合特別法ハ普通法ニ勝ルト云フ原則ニ依リ徵兵令違反ノ一罪トナルカ如シ第二種ハ一罪  
 カ法律ノ規定ニ依リ他罪ノ中ニ吸收セシメラレタル場合例ヘハ家宅侵入ハ屋內竊盜ノ手  
 段トシテ又毆打劍傷ハ謀殺ノ手段トシテ孰レモ竊盜又謀殺ノ罪ニ吸收セシメ法律カ  
 一罪トシテ罰スルカ如シ若シ夫レ實体的數罪即チ我刑法ニ所謂數罪ノ如キニ至リテハ二  
 個以上獨立ノ犯意ト犯行アル場合ニシテ例ヘハ人ヲ殺シ犯跡ヲ晦マサン爲メ家屋ニ放火  
 シ且ツ之ニ乘シテ被害者ノ所持セル財物ヲ取去ル場合ニ於テ殺人、放火、及ヒ竊盜ノ三個  
 ノ犯罪ヲ構成スルカ如シ

明治廿四年四月  
 (第一) 他ノ犯罪  
 ニ因リ處刑セラ  
 レタル際本年  
 罪ヲ包藏シ同年  
 十二月(第二) 再  
 犯ノ罪ニ依リ處  
 刑セラレタル際  
 仍ホ之ヲ包藏シ  
 刑期滿限後(第  
 三) 本件ノ罪發  
 覺シタル時ハ刑  
 法第百二條第一  
 項ニ照シ第一  
 刑ト通算執行シ  
 第二ノ再犯ノ刑  
 ニハ毫モ關係ナ  
 キヲ以テ通算ス  
 ヘカラズ蓋シ同  
 條ニ前發ノ刑ト  
 アルハ犯罪後指  
 第一ノ裁判ヲ指  
 シ後發ノ刑トア  
 ルハ第一ノ裁判  
 ニ漏レタル餘罪

夫レ數罪俱發犯人ノ處分ニ付テハ立法上三個ノ主義アルカ如シ第二併科主義、第二吸收主  
 義、第三折衷主義、是レナリ第一併科主義トハ一罪毎ニ其刑ヲ科スヘント云フ嚴格ナル理論  
 ニ基キタル主義ナリ然レモ此主義ニ對シテハ種々ノ批難アリ即チ犯人ハ往々一時ノ勢ニ  
 乘シ己ヲ制スル能ハサルヨリシテ數罪ヲ犯ストアルヲ以テ其情狀恕スヘキモノアルノミ  
 ナラス初犯ノ刑罰遲延シタルトモ亦媒介トナリシヤモ亦知ルヘカラズ且ツ各刑併科ノ結  
 果ハ實ニ過酷ナルノミナラズ死刑無期刑ノ如キハ他ノ刑ト實際上併科スルコト能ハサルベ  
 シトノ批難アリテ此主義ヲ採用シタル刑法ハ殆ント(ブラシル國アリ) 全世界ニナシト  
 謂フベシ第二吸收主義トハ數罪俱發ノ場合ニ各刑ヲ併科スルトセズ前述ノ欠点アルヲ以  
 テ一ノ重キニ從ヒ處斷スヘシ即チ大罪ハ小罪ヲ吸收スト云フニ在リ而シテ吸收主義ニ又  
 二個ノ主義アリ吸罪主義及ヒ吸刑主義是レナリ吸罪主義トハ輕キ罪ハ重キ罪ノ爲メニ吸  
 收セラレテ消滅スルヲ以テ唯其重キ罪ニ該ル刑ヲ科スト云フニ在リ又吸刑主義トハ重キ  
 刑ヲ科スルホハ輕キ刑ハ執行セサルモ可ナリ其輕キ刑ハ自然其重キ刑ノ中ニ包含シテ執  
 行サレタルモノト云フニ在リ然レモ我刑法ハ明カニ違警罪ニハ併科主義ヲ採用シタリト



ノ刑ヲ指スモノ  
ナレバ本問ノ場  
合ニ於テハ第三  
ノ刑ヲ第一ノ刑  
ト通算シテ執行  
スルヲ當然トス  
(廿五年六月決議)  
一墳墓ヲ發掘シテ  
人首ヲ竊取シ之  
ヲ他ニ販賣シタ  
ル者ハ墳墓發掘  
ノ一罪ヲ以テ處  
斷スヘシ  
(廿六年七月決議)  
一明治十四年以前  
ニ頒布ノ諸罰則  
又ハ明治十五年  
以後ノ頒布ニシ  
テ刑法ノ數罪俱  
發例ヲ用ヒズト  
ノ明文アル諸罰  
則違犯ト他罪ト  
併發シタル場合  
ヲ除キ其他ハ總  
テ數罪俱發例ヲ

雖モ重罪輕罪ニハ上述ノ何レノ主義ヲモ採用シタルモノニアラズト謂ハサルベカラズ何  
トナレハ我刑法ニ於テハ現ニ執行スル刑ハ其最重ノ一罪ノミニ對スル刑ニシテ他ノ罪ヲ  
吸收シタル罪ニ對スル刑ニアラザルト同時ニ他罪ノ刑ヲ吸收混同シタルモノニモ非サレ  
バナリ之ヲ換言スレハ一罪アレハ一刑アリ二罪アレハ二刑アレトモ其刑ノ執行ニ至テハ  
併科ノ過酷ヲ避クル爲メ其最モ重キ一刑ニ從ヒ其刑ヲ執行スル而已ナルヲ以テ其最重ノ  
刑ハ其最重ノ罪其物ニ對スル刑ニシテ他ノ輕キ罪ヲ吸收消滅セシメルサルハ勿論其輕  
キ刑ヲ吸收消滅セシムルモノニアラザルナリ此故ニ上訴大赦等ニ依リ其重キニ從ヒタル  
判決消滅スルモ他ノ罪ニ付テハ固ヨリ消滅ノ効ヲ及ホスヘキモノニアラズ即チ其判決ハ  
依然トシテ存在スルヲ以テ其判決中ニ於テ其次ノ重キ刑ニ付之テ執行セサルベカラス如  
此我數罪俱發處分主義ハ純理ヨリ之ヲ論スレハ吸收主義ト謂フヲ得ス強ヒテ名稱ヲ附ス  
レハ準吸收主義トモ謂フヘキカ其然ル所以ハ各條ノ說明ニ至リ判明スヘケレハ茲ニ詳述  
セス第三折衷主義トハ上述ノ第一主義ニ依レハ過酷トナリ第二主義ニ依レハ寛大トナル  
ヲ以テ右ニ主義ヲ折衷シ適當ノ處分法ヲ定ムヘシト云フニ在リ我刑法ハ上述ノ如ク違背

用キ處斷スヘシ  
(廿七年一月決議)  
一賣藥印稅規則ハ  
賣藥規則ノ追加  
ニアラザルヲ以  
テ明治十四年第  
七十二號布告第  
五條ニ法律規  
則ヲ犯シタル者  
ニハ再犯加重量  
罪俱例ヲ用ヒズ  
トアリ(ニ支配  
セラルコトナ  
(廿八年十月決議)  
一第三百九十九條第  
二項ヲ適用スヘ  
キ場合ニ於テハ  
文書偽造又ハ詐  
欺取財ノ一罪ト  
シテ處分スヘキ  
モノナリ  
(廿九年二月決議)  
一刑法ノ數罪俱發  
例ヲ適用セスト

罪ニハ併科主義ヲ採用シ重罪及ヒ輕罪ニハ準吸收主義ヲ採用シタルモノナレハ混同主義  
ナリト謂フヲ得ヘシ然レモ此等ハ立法論ニ涉ルヲ以テ之ヲ避ケ逐條之カ解釋ヲ試ムヘシ  
**第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル片ハ**  
**一ノ重キニ從テ處斷ス**  
**重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重トシ刑期ノ等シキ者ハ定役アル**  
**者ヲ以テ重ト爲ス**  
**輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ處斷ス**  
本條第一項ハ重罪輕罪ノ俱發處分ニ付テハ一ノ重キニ從テ處分スヘキヲ規定シタルモ  
ノナリ判決ヲ經ストハ確定判決ヲ經スト云フ意義ニシテ確定判決後ニ罪ヲ犯シタル片ハ  
再犯トナルヘシ又一ノ重キニ從テ處斷ストハ一ノ重キ刑ヲ執行スト云フ意義ニシテ他ノ  
罪又ハ他ノ刑ヲモ吸收消滅セシムヘキ意義ニアラズ故ニ大赦等ニ依リ其一ノ重キモノ消  
滅スルモ其消滅ノ効力ヲ他ノ罪又ハ他ノ刑ニ及ホサズ第二項ハ第一項ノ一ノ重キ刑ヲ執  
行スルニ付テ重罪ノ刑ノ輕重ハ如何ニ之ヲ判定スキヤヲ規定シタルモノナリ抑モ死刑ハ

規定シタル諸罰則ノ犯罪ハ同罰則中ノ數個ノ犯罪俱發シタルト又同罰則ノ犯罪ト刑罰ノ犯罪ト俱發シタルトト問ハス總テ刑法ノ數罪俱發例ヲ適用セズ

(廿九年七月決議)  
 一上訴中ニ他ノ犯罪ヲ處斷スルニハ數罪俱發例ヲ適用スルニ及ハス

(十九年十月判決)  
 一ノ重キニ從テ處斷スルニ其重シトナシタル刑ノ範圍ヲ出テ處罰スルヲ得ス本件ノ如ク其最短期ヲ私印偽造ノ最短期タル六月

無期刑以下ヨリ重ク無期刑ハ有期刑ヨリ重キコトハ事理明白ナルヲ以テ本項ニ之ヲ規定セ  
 ス唯定期刑ノミニ付テ其輕重ヲ示シ有期刑ハ犯人ノ自由ヲ拘束スルコト久シキモノ即チ刑  
 期ノ長キモノヲ以テ重トシ刑期ノ等シキモノハ犯人ニ苦痛ヲ與フルコト大ナルモノ即チ定  
 役ノアルモノヲ重シト爲シタルナリ故ニ其刑ノ輕重ヲ定ムルニハ主トシテ刑期ノ長短ヲ  
 見從トシテ定役ノ有無ヲ視ルヘキモノトス然レモ法定ノ刑期同一ナル場合即チ二個ノ強  
 盜罪俱發シタル場合ニハ孰レモ刑ヲ科スヘキモノナルヲ以テ其輕重ヲ定ムルニハ犯情ノ  
 輕重ニ依リ之ヲ定メテ其一ノ重キヲ執行シ犯情ニ輕重ナキハ其二者ノ一ヲ執行スベク  
 又加減ノ情狀アル場合ニ於テ輕重ヲ定ムルニハ其各本條法定ノ刑ヲ以テスヘキカ又ハ加  
 減シタル刑即チ實際科スル所ノ刑ヲ以テスヘキカ此場合ニハ實際科スル所ノ刑ヲ以テ其  
 輕重ヲ定ムヘキナリ何トナレハ本條第一項ニ依レハ一ノ重キニ從フトハ數罪ノ各刑ノ中  
 一ノ重キ刑ヲ執行スヘキモノト云フヲ以テナリ第二項ハ第一項ノ一ノ重キ刑ヲ執行スル  
 ニ付キ輕罪ノ刑ノ輕重ハ如何ニ之ヲ判定スヘキヤヲ規定シタルモノナリ本項輕罪ノ刑ノ  
 輕重ハ之ヲ法律ヲ以テ定メズシテ其所犯情狀ノ最モ重キ刑ヲ執行スヘキモノト爲シ其輕

ヲ下リテ五月ニ處シタルハ不法ナリ

(十九年十一月全上)  
 一各本條ニ於テ重キニ從テ論ストアル特條ニハ更ニ數罪俱發例ヲ適用セズ

(廿一年十一月全上)  
 一輕罪ノ所犯情狀重キモノハ其刑期モ重キカラサ  
 ルベカラス然ルニ重キ監禁罪ニ從ヒナガラ却テ其他ノ一罪ニ適用スヘキ刑ヨリモ輕キ刑ニ處シタルハ越權ナリ

(廿一年十一月同上)  
 一數罪俱發例ヲ適用スル片ハ必ラ  
 ス其重キ刑ヲ指  
 定シテ明示セサ

重ヲ認定スルノ權ヲ裁判官ニ一任シタルハ蓋シ輕罪ノ刑タル其刑期金額相交错スルヲ以  
 テ其孰レカ輕重ナルヤヲ斷シ難キヲ以テナリ而シテ所犯情狀トハ必竟犯罪ノ重キト云フ  
 意義ニ歸ス何トナレハ犯情ノ重キハ即チ犯罪ノ重キト云フニ外ナラサレハナリ故ニ數罪  
 ノ中其罪最モ重ク從テ其刑最モ重キモノヲ執行スヘキモノトス然レモ其罪及刑ノ最モ重  
 キヤ否ヤハ裁判官ノ定ムル所ニ依ルヘキモノニシテ輕禁錮ト重禁錮ト併發シタル片ハ比  
 較的長キ刑期ノ輕禁錮ニ依リ禁錮ト罰金ト併發シタルトキハ比較的金額ノ多キ罰金ニ依  
 リ執行スルモ固ヨリ不法ニアラズ若シ夫レ所犯情狀相等シキトキハ其一ヲ執行スヘキハ  
 論ヲ俟タズ

**第一百條 違警罪ニ罪以上俱ニ發シタル片ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪  
 又ハ輕罪ト俱ニ發シタル片ハ一ノ重キニ從フ**

本條ハ俱發ノ違警罪ノ刑ヲ重輕罪ト併發セサル場合ハ之ヲ併科スヘキコトヲ規定シタルモ  
 ノナリ何故ニ違警罪ノ刑ハ之ヲ併科スルヤ蓋シ立法者ハ違警罪ノ刑ハ元來輕キモノナル  
 ヲ以テ之ヲ併科スルモ敢テ過酷ニ至ルコトナキト認メタルモノナラント雖モ違警罪ノ刑ト

ルベカラズ  
 (廿一年十月全上)  
 一第百二條判決ト  
 稱スルハ既ニ判  
 決ノ確定シタル  
 モノヲ云フ  
 (廿一年十月全上)  
 一第百二條第二項  
 ハ再犯ノ時ニ限  
 リ適用スヘキモ  
 ノニシテ其時ヲ  
 異ニシ即チ再犯  
 ノ刑ヲ處斷シタル  
 初犯包藏罪ト比  
 較スヘキ者ニア  
 ラズ  
 (十九年十月全上)  
 一監視規則ノ如キ  
 特別ノ再犯ハ第  
 百二條末項ヲ適  
 用シテ處斷スヘ  
 キモノニアラス  
 一被告ハ明治廿二  
 年中他ノ犯罪ニ

依リ處刑セラレ  
 タル際本件ノ罪  
 ヲ包藏シ同廿四  
 年中再犯ノ罪ニ  
 依リ處刑セラレ  
 後本件ノ罪發覺  
 シタル時ハ刑罰  
 百二條第二項ノ  
 犯ノ罪ト例ニ依  
 シタルノ刑ハ  
 リ其再犯ノ刑ハ  
 通算スヘキモノ  
 ナルヲ以テ廿四  
 年中ニ處斷セラ  
 レシ刑ハ通算シ  
 廿二年中ノ處刑  
 ハ通算セサルモ  
 ノトス  
 (廿六年十月判決)  
 一數罪俱發トハ必  
 シモ異性質ノ犯  
 罪ノミ俱發シタル  
 場合ニ限ルヘ

雖モ之ヲ併科スルトキハ數月ノ禁錮ト輕重ナキニ至ルヲ以テ學理上ノ批難ヲ免レズ本條  
 後段一ノ重キトハ前條第一項ノ一ノ重キト云フ法文ト同シク一ノ重キ刑ト云フ意義ニシ  
 テ何レノ場合ヲ問ハス重罪又ハ輕罪ノ刑ヲ執行スヘシト云フニ在ラズ故ニ輕罪ノ刑ヲ減  
 輕シテ違警罪ノ刑ニ下リ又ハ之ヲ減盡シテ違警罪ノ刑ニ入り實際之ニ科スル所ノ刑併發  
 ノ違警罪ノ刑ヨリ輕キモノアリト假定セバ其重キ違警罪ノ刑ヲ執行スヘキモノトス以上  
 ハ解釋上已ムヲ得サルノ論決ナリト雖モ併發ノ違警罪ノミナルハ併科スラレ若シ重輕  
 罪ト俱ニ發シタルハ假令重輕罪ノ刑違警罪ノ刑ニ下リ其刑併發ノ違警罪ノ刑ヨリ輕キ  
 モノナルト雖モ其一ノ重キノミヲ執行スヘキモノトハ少シク權衡ヲ得サルカ如シ  
 第百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ  
 等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後  
 發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第  
 二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑ニ通算ス  
 若シ前發ノ罪ヲ判決スル片未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル

ル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス  
 本條第一項ハ數罪同時ニ發セス一罪前ニ發シ既ニ之ニ對スル確定判決アリタル後ニ在テ  
 餘罪發シタル場合ニ於ケル處分法ヲ規定シタルモノニシテ此場合ト雖モ數罪同時ニ發シ  
 タル場合ト其處分法ヲ異ニスルノ理由ナキヲ以テ其輕ク又ハ等シキ後發罪ノ刑ハ之ヲ執  
 行セス其重キ後發罪ノ刑ハ之ヲ執行シ前發罪ノ刑ヲ之ヨリ控除スヘキモノトシ若シ前發  
 ノ刑罰金料ニシテ既ニ納完シタル片ハ第廿七條ニ依リ之ヲ禁錮拘留ニ換算シテ重キ後  
 發ノ刑ヨリ控除スヘキモノ即チ通算スヘキモノト爲シタルナリ抑モ本項ハ上述ノ如ク  
 數罪俱發一ノ重キニ從フノ規定ナレハ各刑ヲ併科スル違警罪ノ併發シタル場合ニハ其適  
 用ヲ見サルハ勿論ニシテ次項モ亦同シ然レモ重罪輕罪ト併發シタル餘罪ナル片ハ其適用  
 ヲ見ルハ亦論ヲ俟タズ本項ニ所謂判決トハ第百條ノ判決ト同シ理由ニ依リ確定判決ト解  
 スヘク又本項ニ所謂輕ク又ハ等シキ者トハ實際犯人ニ言渡シタル刑ヲ前發ノ刑ニ比較シ  
 テ前發ノ刑ヨリ輕キモノ又ハ等シキモノヲ云フ又本項ニ之ヲ論セス若クハ之ヲ論ストア  
 ルハ其罪ヲ論セス若クハ其罪ヲ論スト云フ意義ニアラス之カ刑ヲ執行セス若クハ執行ス

キニ非サレハ同  
性質ノ犯罪俱發  
シタル場合ハ其  
性質ノ同一ナル  
ニ拘ラス刑法百  
條ニ據リ其中孰  
レカ情狀重キニ  
從ヒ處斷スヘキ  
モノトス

(廿七年一月全上)

一事件ノ審理中  
上告ニ係ル他ノ  
未確定ノ一事件  
アル事ヲ認メタ  
ル時ハ數罪俱發  
ノ例ニ照シテ之  
ヲ處分セサルヘ  
カラス否ラサレ  
ハ被告ノヲサレ  
各刑各別ニ執行  
ヲ受クルノ不都  
合ヲ生スヘシ  
(廿七年二月全上)  
一刑法百條ノ所謂  
輕罪ノ刑ハ其所

ト云フ意義ニシテ其重キ罪ハ勿論其等シキ罪、輕キ罪モ亦皆之ヲ判決シ刑ヲ言渡サ、ルベ  
カラズ何トナレバ之カ判決ナケレバ前發罪ニ比シ後發罪カ輕キカ等シキカ又ハ重キカヲ  
知ルヲ得ルノ道ナケレバナリ又前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ストハ前發ノ刑ヲ後發ノ  
刑ヨリ控除スト云フ意義ニ同シク又折算トハ換算ノ意義ニ同シ其己ニ納完シタル前發罪  
ノ罰金科料ヲ禁錮拘留ニ換算シテ後發ノ刑ニ通算スルハ一旦納完シタル罰金科料ヲ還付  
スルノ手數ヲ避クルカ爲メナリ若シ前發罪ノ罰金不納ノ爲メ換刑處分ヲ受ケタル者後發  
自由刑ニシテ重キモノナルハ前ノ換刑日數ヲ後ノ刑期ニ通算スヘク又後發罪モ亦罰金  
ニシテ重キモノナルハ前ノ換刑日數ノ一日ヲ一圓ニ折算シテ後ノ罰金ニ通算スヘク又前  
發罪ノ禁錮ニシテ輕ク後發罪ノ罰金ニシテ重キハ前發ノ禁錮一日ヲ一圓ニ折算シテ後發  
ノ罰金ニ通算スヘキナリ然リ而シテ自由刑ハ定役ノ有無ヲ問ハス一日ヲ一日ニ計算スル  
ヲ以テ前發ノ刑ニ定役アリテ重キ後發ノ刑ニ定役ナキハ犯人ハ不利益ヲ受ケ之ニ反ス  
ル場合ニハ犯人ハ利益ヲ受クベシ茲ニ一ノ問題アリ即チ前發罪ノ判決ニ對シ上訴中餘罪  
發覺シタルカ又ハ餘罪ヲ犯シタルハ上訴中ノ犯罪ニ比較シ一ノ重キニ從フヘキヤ將タ

犯情狀最モ重キ  
者ニ從テ處斷ス  
トハ俱發ノ各罪  
ニ付刑法ノ規定  
ミヲ以テ輕重ヲ  
比較スヘキニ非  
スシテ其所犯ノ  
情狀ノ輕重ニ據  
ルヘキモノトス  
(廿七年四月全上)

一被告カ一ノ犯罪  
ニ付甲地方裁判  
所ニ於テ裁判ヲ  
受ケ又他ノ犯罪  
ニテ乙地方裁判  
所ニ於テ裁判ヲ  
受ケタル場合ニ  
判決ニ對シ控訴  
ヲ爲シタルハ其  
其判決ハ未タ確  
定セサルヲ以テ  
原院カ刑法百二  
條ヲ適用處斷セ

後罪ヲ獨立ニ判決スヘキヤニ在リ大審院ノ判決ニ依レハ後罪ヲ獨立ニ判決シ上訴ニ係ル  
犯罪ノ刑確定スルトキハ執行ヲ司ル檢事ニ於テ其中ノ一ノ重キモノヲ執行スヘキモノト  
セリ然レトモ是レ便宜ニ出タルモノニシテ法理上ヨリ之ヲ論スレハ一ノ重キニ從テ處斷  
スルハ裁判官ノ職權ニ屬シ檢事ノ職權ニ屬セス故ニ双方ノ判決確定シタル上ハ之ヲ更正  
スルニアラサレハ檢事ハ之ヲ如何トモスルコト能ハサルベク從テ其中ノ一ノ重キモノヲ  
執行スル能ハサルモノト謂ハサルベカラズ若シ夫レ後發罪ノ判決ニ對シ控訴アツテ其控  
訴中前發罪ノ判決ニ對スル上訴ノ判決確定シタルトキハ控訴ノ判決ハ後發罪ニ付原判決  
ヲ取消シ本項ニヨリ更ニ前發罪ト輕重ヲ比較シテ判決スヘキハ正當ニシテ大審院モ斯ク  
判決セリ  
本條第二項ハ一罪前ニ發シ既ニ確定判決ヲ經テ後餘罪再犯罪ト俱ニ發シタル場合ノ處分  
法ヲ規定シタルモノニシテ此場合ハ前發ノ刑ハ其儘之ヲ執行シ唯其餘罪ヲ再犯罪ト比較  
シテ一ノ重キ刑ヲ別ニ執行スヘキモノト爲セリ但此場合ニ於テ再犯ノ罪ハ假令餘罪ト俱  
發シタルモノナリト雖モ再犯加重ノ規定ニ依リ加重スヘキハ論ヲ俟タズ蓋シ本規定ハ餘